

2009 平成21年  
**教室年報**



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine Department  
of Surgery:Fellow Society Journal

巖刀会(外科学講座同門会)







## 外科学講座の沿革

外科学講座の歴史は古く、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡ります。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に就任しました。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第2外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、現在まで続く大いなる発展をもたらしました。昭和54年の瀬田の退職後には、東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任し、各疾患別のグループ体制を確立することで、研究活動の躍進がみられるようになりました。昭和61年森が東北大学第2外科教授へ転任するにあたり、昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任しました。本学の良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承し、内視鏡手術の積極的な導入など外科学の更なる進歩に貢献しました。平成17年に斎藤の退職後、同年9月に慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授として就任しました。患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を充実させつつ、内視鏡外科の指導的施設としての発展、北東北での肝移植の実現に着手しております。平成18年には小児外科と合併し、外科学講座と名称を変更しました。平成19年1月に第1例目の生体肝移植を成功させ、平成20年12月までに12例の肝移植を実施いたしました。今後は、各疾患において更なる内視鏡手術の充実を目指して進んで参ります。

## 外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとする様々な医療関係の方々にご理解いただくために、ホームページの充実を図っております。平成18年9月より開設しやく35,000回以上のアクセスを頂いており、ホームページをご覧になった方が「新しい医療を受けてみたい」と受診されることも増えて参りました。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しており「主治医の顔と人となり」が少しでもお分かり頂けることで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

# C O N T E N T S

## 2009

### 巻頭言

成長から成熟へ…………… 外科学講座教授 若林 剛  
腫瘍センターの1年を振り返って…2008年の活動と今後の予定…………… 外科学講座准教授 腫瘍センター長 池田健一郎  
今年一年を振り返って…………… 外科学講座准教授 水野 大  
今年の教室活動…………… 外科学講座准教授 医局長 佐々木 章

### 011 外科学講座スタッフ紹介

### 013 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・内分泌グループ《乳腺》・内分泌グループ《甲状腺》・肝胆膵グループ・下部消化管グループ・内視鏡外科グループ・ヘルニアグループ・小児外科グループ・高度救命救急センター・リサーチグループ《分子治療研究室》・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

### 027 平成20年診療状況

入院患者分類／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

### 029 新教室員紹介

外科学講座に入局して…………… 石田 馨／岩手医科大学外科学講座に入局して…………… 菅野 公徳  
外科学講座新教室員として…………… 有末 篤弘

### 031 受賞

第1回大上賞を受賞して…………… 佐々木 章／優秀演題賞受賞体験記…………… 稲葉 亨  
世界内視鏡外科学会ベストポスター賞を受賞して…………… 大淵 徹  
第1回J-FD研究会で最優秀演題を受賞して…………… 馬場 誠朗

### 033 寄稿

平成20年巖刀会集談会報告…………… 肥田 圭介／平成20年(2008年)からの研究活動について…………… 西塚 哲  
サンディエゴ通信…………… 小笠原 聡／フロリダから…………… 高橋 正浩  
第3回みちのくウインターセミナーに参加して…………… 阿部 正

### 039 佐藤信博先生を悼んで

…………… 斎藤 和好／…………… 池田健一郎

### 043 後期臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座 後期臨床研修プログラム…………… 後期研修担当 水野 大

### 045 平成20年アルバム紹介

### 051 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立一戸病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病院・盛岡友愛病院・盛岡市立病院・岩手県立宮古病院・岩手県立大槌病院・岩手県立金石病院・北上済生会病院・岩手県立大船渡病院・岩手県立江刺病院・岩手県立千厩病院・函館五稜郭病院・八戸赤十字病院・山本組合総合病院・鹿角組合総合病院

### 065 外科紹介医療機関

### 071 研修業績

### 089 編集後記

### 090 協賛広告



## 成長から成熟へ



過去3年間の教室の躍進には、目を見張るものがあります（次頁参照）。

全身麻酔手術が2005年には900例でしたが、2008年には1,280例に増加しました。癌に対する手術も2005年から2008年にかけて、大腸癌で129例から159例、肝胆膵領域で80例から147例、乳癌で82例から128例、胃癌で67例から113例と着実な増加を示しました。いわゆる5大癌の内、4つの癌を扱っている教室として、各領域で年間100例を超す癌に対する手術を行えるようになったことは、若手外科医の育成にも大いに役立つと考えます。研修医が大学から市中病院へ流れる理由の一つに、大学での手術件数の少なさが挙げられます。東北地方唯一の私立医科大学として、私は就任時にhigh volume centerを目指そうと目標を掲げました。病院収入は大学収入の7割を超えていますが、手術件数の増加は大学経営にとっても非常に重要であると考えます。教室主催の市民公開講座は、これまで9回に及び、メディアへの露出も積極的に行ってきました。その結果、外科入院と外来の稼働額合計は2005年の16.7億から2008年には22.8億にまで増加いたしました。

研究活動も活発になり、2005年から2008年にかけて学会報告件数は123件から332件と増え、発表論文数も54編から57編となりました。2008年に獲得した

研究費は、科研費と競争的資金、さらに共同研究費をあわせると実に4000万円を超えてきました。これには、旅費を含むすべての学会活動費を研究費で捻出するシステムが機能していることと、西塚ラボへの大手製薬からの共同研究オファーがあったことが理由であります。まだ始まったばかりの研究が多いのですが、2-3年後には何とか良い成果が出ることを期待しています。

教育は、教室の最重要課題です。患者中心の外科医療、若手外科医の育成、教室発展をミッションとした私たちにとって、これら全てを実現するためには次世代の外科医への教育が肝要であると考えます。私自身、外科診療部長として出来るだけ手術室にいたいと願っています。2006年と2007年は、年間100例以上の手術を執刀できました。しかし、2008年は海外からの招請講演が8回あり、国内での学会活動や学内会議のため、残念ながら手術室にいた時間がだいぶ減ってしまいました。2009年は再び、出来るだけ手術室にいて、若い外科医の前立ちも積極的に行いたいと思います。幸い、2008年春には7名の新しい大学院生を迎え、総勢13名の大学院生を擁することになり、初期研修終了後の卒後3年目のjunior外科医も5名、教室の仲間になりました。若い外科医が教室に活気を与え、医学部5年生と6年生の目に魅力的な教室と映り、さらにやる気のある若い外科医が集まることを願っています。

世間は未曾有の経済不況とやらで、右肩上がりの成長至上主義の一つの結末を見るようです。大切なことは数を競うことではないし、成長し続けることは自然の摂理に反するはずです。おそらく教室の数的躍進も、今年あたりが変革点かもしれません。手術件数は、オペ室と麻酔医の数に規定されます。今年も教室は発展するはずですが、数の増加は頭打ちになるのではと感じています。今年は、教室員のそれぞれが、仕事の質を大切にして、大学外科医として納得のいく診療、研究、教育に尽力して欲しいと思います。成長から成熟へとシームレスな移行を行えればと、教室の更なる躍進を密かに予感しております。Attractive, productive, supportiveな教室を作るため、自分自身が慢心すること無く教室運営にあたる所存であります。皆様には、引き続き変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 巻頭言

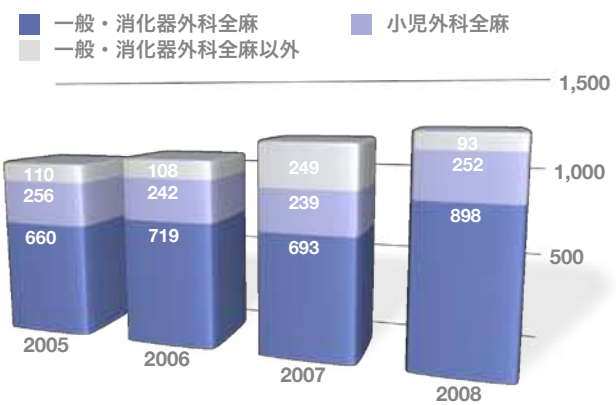
岩手医科大学医学部外科学講座  
教授

若 林 剛

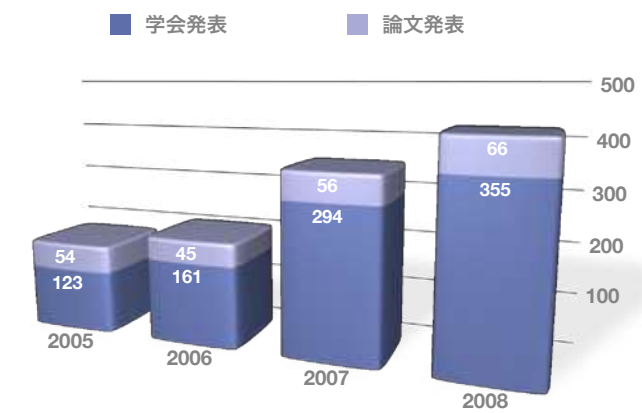
*Go Wakabayashi*



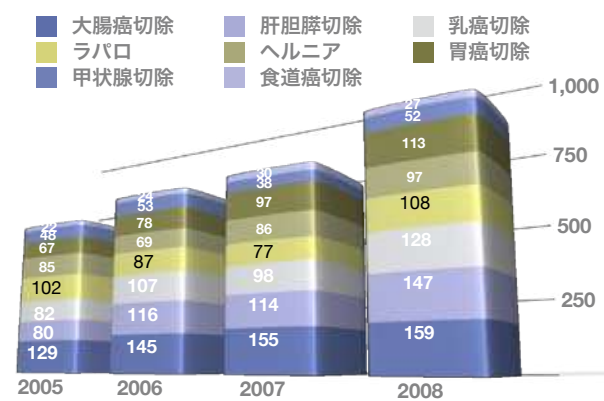
## 手術症例数の増加



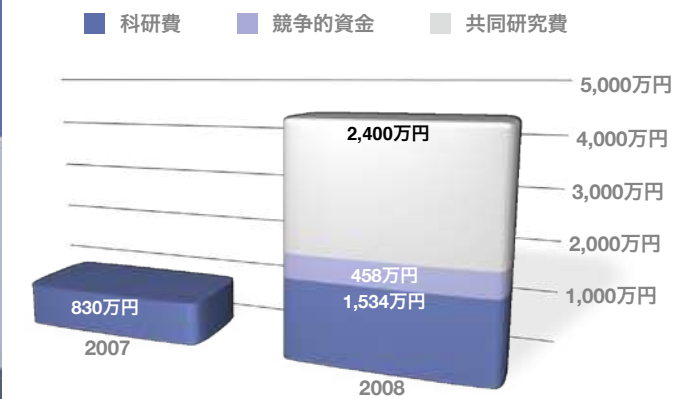
## 学会発表・論文発表数の推移



## 疾患別症例数の検討



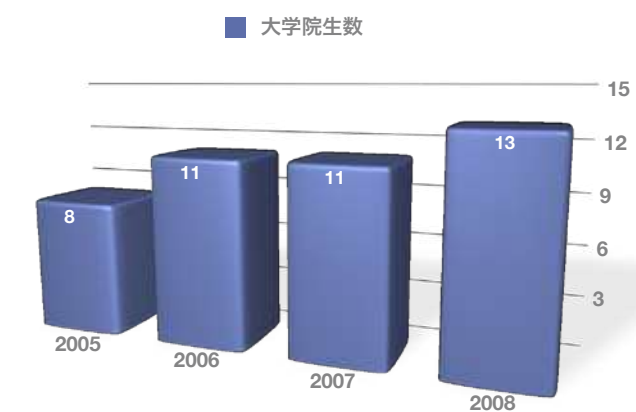
## 研究費の獲得



## 稼働額の増加



## 大学院生数の推移



## 腫瘍センターの1年を振り返って…2008年の活動と今後の予定



岩手医科大学外科学講座准教授  
腫瘍センター長

池田 健一郎

*Kenichiro Ikeda*

2007年4月からのがん対策基本法施行、国および県のがん対策推進計画公表とがん医療を取り巻く社会情勢が急激に変化を見せ始めました。そのような中、がん対策推進計画内で最も重要視されるのは「がん医療の均てん化」です。その基盤となるがん診療連携拠点病院整備事業で当院が岩手県がん診療連携拠点病院の指定を2008年2月に受けました。これに伴い、2008年は前年に組織された腫瘍センターの機能強化が最重要課題になりました。外科学講座から派遣されている柏葉匡寛講師、木村祐助教には、それぞれ外来化学療法室、緩和ケアチーム室で大きな戦力として活躍してもらっていて、今後も頑張っていたきたいと思います。

腫瘍センターを中心とした実際の活動としては、大きく学内の一層の体制整備と学外に対する活動に分けられます。

まず、学内に関して。院内がん登録では登録義務と精度管理を徹底した結果、登録率の向上と未登録数の減少、地域がん登録への協力体制が整いました。緩和ケアチームは、月約10名程度の依頼があり、木村先生に奔走してもらっています。さらに、緩和ケア院内勉強会を4ヶ月連続で行い、その後は県内の拠点病院を結んで持ち回りでtele-conferenceを開始しました。毎回多数の医療従事者が参加しています。また、外来化学療法室も順調に利用者数は増加し、現在は月に300～350件程度の化学療法をこなしています。さらに化学療法に関する院内勉強会も4ヶ月連続で開催し、多くの院内職員の勉強の場を作ることが出来ました。2009年春からは、念願の腫瘍センター本体の完成をはじめ、「がん患者・家族サロン」の開設、化学療法専門病室と中央調剤室の稼働、緩和ケア外来の開設とbig eventが目白押しです。また、院内での化学療法施行には個々のregimenに対する審査・登録のみならず、説明文・

承諾書、クリニカルパスの作成を義務づけ、5月以降順次運用開始になります。それぞれまだ発展途上ですが、着実な成果を上げつつあります。

一方、学外では4月に岩手県がん診療連携協議会をようやく立ち上げることが出来ました。協議会は県内の拠点病院を中心に構成され、厚労省や県が推し進める様々ながん対策を実現化する中心的機構です。幸い、文科省が推し進める「がんプロフェッショナル養成プラン」に北東北4大学共同のプランが採択され、北東北がん医療コンソーシアム・岩手ブロック協議会で、院内がん登録、相談支援・がん情報、地域クリティカルパス、地域キャンサーボードの各ワーキンググループが活動を開始し始めていました。岩手県がん診療連携協議会と北東北がん医療コンソーシアム・岩手ブロック協議会の参加メンバーはほぼ同一であることから、がんプロでの成果を診療連携協議会の成果として取り込み、社会的・経済的基盤を確保しつつ重要事項について活動可能な体制を構築しました。

また、がんプロの岩手ブロック協議会のワーキンググループにはない「緩和ケア」部門に関しては、岩手県と協力し、がん診療連携協議会を中心に独自に活動を開始しました。緩和ケアの医師研修は、厚労省指針では「がん診療に携わるすべてに医師」が対象とされ、試算では岩手県内の約1200名の医師が対象になります。また、研修内容は厚労省の指針に則ったほぼ全国統一研修プログラムで、2日間にわたる計12時間以上のカリキュラムを受講する必要があります。1200名の医師にどのようにして効率良く研修させるか、その研修体制を構築することとしました。まず、岩手県緩和ケア指導医師養成研修会を10月に開催しました。本研修会により県の指導医の講習が終了し、2009年1月の久慈病院を皮切りに、今年はほぼ毎月各拠点病院で主に勤務医を対象に指導医研修会と同様な内容で行います。そして、2010年からは各拠点病院単独で、地域の医師会を対象に含めて独自に研修会が開催可能になる予定です。

以上のように、2008年はがん診療に対する様々な施策を実行して参りました。これらを軌道に乗せるのが2009年の課題です。今後とも、先生方の御協力を御願いたします。



## 今年一年を振り返って



岩手医科大学外科学講座准教授

水野 大

*Masaru Mizuno*

「一年を振り返って」というのが与えられたテーマですが、せっかくの機会ですので、もう少し遡らせていただきます。本学における小児外科は、昭和41年4月に外科学第一講座から分離独立した新津勝宏教授が主宰する外科学第三講座の1グループとして発足しました。平成6年には新生児集中治療室開設による新生児外科への取り組みの活発化もあり、年間約250件の全麻手術が施行されましたが、その後、岩手県においても出生数の減少が続き、少子高齢化が進行するのに伴い手術件数は平成12年には約100件まで減少してしまいました。その後平成14年に縁あって、私が本学の小児外科分野を担当することになり、小児鏡視下手術、低出生体重児の外科手術を中心に新たな小児外科医療を展開したところ、手術件数は徐々に増加し近年は再度、年間250件前後で推移するようになりました。また、この間、平成18年7月には若林 剛教授が主宰する外科学講座に復帰？し、回診・カンファランスなど、共に活動させていただいておりますが、最新の成人外科の情報に触れることができ、良い意味で非常に刺激になり、精神的にも若返ったように思います。また、ご存じのように平成19年には、教室内一致団結の元、岩手県初の小児生体肝移植が無事施行されました。これまで最終段階で他施設に紹介せざるを得ず悔しい思いをしていた胆道閉鎖症の治療が、自分の所属する診療科で完結できるようになったのは喜ばしい限りです。

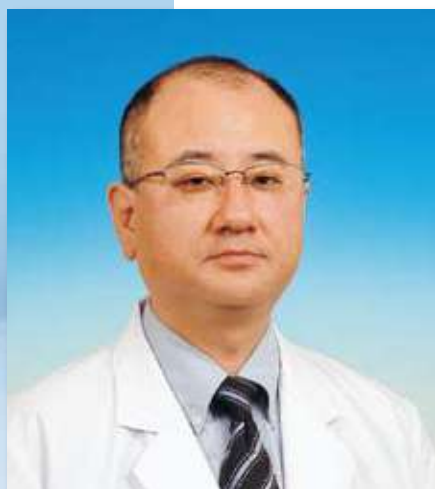
このように症例数豊富で内容の濃い臨床活動の結果、ここ数年は日本小児外科学会専門医取得に必要な研修指数が東北地区では最も高い施設であることから、平成18年以降、東北大学小児外科学講座より小児外科専門医を目指す若いドクターが交代で研修に来ています。しかし、マンパワー不足は如何とも

しがたく、人手が足りないときは若い医局員の手を借りながら日常臨床活動をこなしているのが現状です。

当科の特色のひとつとして内視鏡外科手術がありますが、小児外科領域でも絶対数は少ないものの徐々に浸透し、我々のグループでも胃食道逆流症に対する噴門形成術、脾疾患における脾摘術、漏斗胸における胸骨挙上術などについては、従来から内視鏡下手術を標準術式としておりました。これらに加え昨年は、先天性水腎症根治術、高位鎖肛根治術も内視鏡補助下に施行し、低侵襲性はもちろん小児外科手術で最も重要なポイントである機能温存あるいは回復の点からも良好な結果が得られており、今後更なる症例の蓄積をしていきたいと思います。

さて、本題のこの一年を振り返りますと、私に与えられた大きなテーマは入局希望者が殺到？するような、魅力ある後期卒後研修プログラムの作成でした。ご存知のように5年前の卒後初期臨床研修制度導入当初から、予想を遙かに超える新卒者の大学離れに加え、他施設での研修を選択した者も卒業時に外科学講座入局を確約する者が激減し、将来の教室運営に大きな危機感を募らせざるを得ませんでした。また、初期研修終了後の後期研修も流動的で、初期研修終了時に大学の外科医局に入局するもの、後期研修も学外の研修病院で行い数年の外科キャリアを有して医局に入局するもの、医局に入らず学外の研修病院で外科専門医を目指すものまで様々です。そこで、多くの診療グループを有する大外科講座のメリットを強調し、日常一般外科から高度先進医療まで豊富な症例を経験できること、診断から看取りまでの一貫した診療を経験できること、県内外の豊富な関連病院で地域医療に根ざした研修もできること、これらを組み合わせ、各人のキャリアパスに応じたオーダーメイド型研修プログラムの提供が可能であることをアピールしたところ、新卒者（社会人大学院）だけでなく学外での初期研修終了後に入局あるいは大学院入学を表明する研修医も増えており、一安心している次第です。今後は彼らの期待を裏切らない実研修を提供し、良質な外科医を育成するのが我々教室員の責務と考えております。

## 今年の教室活動



岩手医科大学外科学講座准教授  
医局長

佐々木 章

*Akira Sasaki*

2008年の外科学講座の活動についてご報告いたします。

臨床面では、年間の手術件数（小児外科手術件数）は、2007年1,160例（203例）、2008年1,280例（216例）と年々増加しており、大学内での手術枠の不足のため、盛岡市立病院などの関連病院を活用して手術を行っているのが現状です。今後は、大学近郊の関連病院への枠外手術に対するご協力、さらに関連病院・医院との円滑な後方連携パスをお願いしたいと考えております。

研究面では、2008年（2007年）の業績は、著書4（8）編、英文論文21（13）編、和文論文36（34）編、国際学会発表34（14）回、国内学会発表141（151）回、研究会発表52（48）回、講演66（44）回でありました。2008年度（2007年度）の文部科学省科学研究費補助金は、基盤研究5（3）課題、若手研究3（2）課題、合計獲得研究費は13,400,000（6,410,000）円。また、2008年の競争的助成金（科学技術振興機構シース発掘試験研究助成、圭陵会学術振興会共同研究助成、

笹川医学医療研究財団ホスピス緩和ケアスタッフ発掘・啓発研究助成、J-FD研究会助成）は5,000,000円を獲得いたしました。NIHから帰還した西塚 哲先生（分子治療研究室）のご尽力により、文部科学省科学研究費をはじめ国内での評価を得ておりますが、手術件数増加に伴い日常診療が多忙で、英文論文数が増加していないことが問題点であり、来年からの課題であります。

教育面では、教室も臨床研修医制度実施後に大きな影響を受けましたが、若林教授が主宰する外科教室が魅力的と評価された結果、新教室員は2008年7名から2009年8名と増加する予定であります。現在の大学在籍者は32名ですが、私が入局した1988年の大学在籍者42名の第一外科時代に復活し、大学残留のお願いをする時代から競争的時代に到達するのも遠くはないでしょう。毎年、教室員が増えてくれば、関連病院での地域医療研修の増員はもちろんのこと、国内施設での研修や海外留学など大いに教室人事は活性化するはずです。そして当教室は、各領域での内視鏡外科、移植、小児外科、そして内分泌外科にまで及ぶ広い領域を統括する国内でも有数の外科学教室になることが期待されます。





- |                         |                         |                       |                        |                        |               |                        |                      |                        |                        |                      |                        |                          |                         |                          |                        |                      |                        |                      |                         |                         |                        |               |              |                       |                       |                          |                        |                            |                         |                        |                        |               |               |                        |
|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|---------------|------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|---------------|--------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|------------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|---------------|---------------|------------------------|
| 研究員<br>川岸和朗<br>〔平成16年卒〕 | 研究員<br>野田宏伸<br>〔平成16年卒〕 | 助教<br>大淵徹<br>〔平成14年卒〕 | 助教<br>藤田倫寛<br>〔平成14年卒〕 | 助教<br>星川浩一<br>〔平成12年卒〕 | 非常勤講師<br>杉立彰夫 | 助教<br>富澤勇貴<br>〔平成12年卒〕 | 助教<br>岩谷岳<br>〔平成7年卒〕 | 助教<br>野田芳範<br>〔平成12年卒〕 | 助教<br>高原武志<br>〔平成12年卒〕 | 講師<br>西塚哲<br>〔平成6年卒〕 | 助教<br>高橋正統<br>〔平成12年卒〕 | 大学院生<br>塩井義裕<br>〔平成13年卒〕 | 助教<br>藤澤健太郎<br>〔平成12年卒〕 | 大学院生<br>石田和茂<br>〔平成17年卒〕 | 助教<br>木村聡元<br>〔平成14年卒〕 | 助教<br>稲葉亨<br>〔平成9年卒〕 | 研究員<br>中山育徳<br>〔平成9年卒〕 | 助教<br>中嶋潤<br>〔平成9年卒〕 | 助教<br>武田雄一郎<br>〔平成12年卒〕 | 研究員<br>馬場誠朗<br>〔平成16年卒〕 | 助教<br>福澤太一<br>〔平成12年卒〕 | 医局秘書<br>佐々木美穂 | 医局秘書<br>谷藤稚奈 | 講師<br>大塚幸喜<br>〔平成5年卒〕 | 講師<br>柏葉匡寛<br>〔平成3年卒〕 | 准教授<br>池田健一郎<br>〔昭和60年卒〕 | 准教授<br>水野大<br>〔昭和62年卒〕 | 外科学講座教授<br>若林剛<br>〔昭和57年卒〕 | 准教授<br>肥田圭介<br>〔平成12年卒〕 | 准教授<br>新田浩幸<br>〔平成5年卒〕 | 助教<br>伊藤直子<br>〔平成12年卒〕 | 教授秘書<br>小笠原絵理 | 医局秘書<br>大上真紀子 | 助教<br>板橋哲也<br>〔平成12年卒〕 |
|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|---------------|------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|---------------|--------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|------------------------|----------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|---------------|---------------|------------------------|



## 上部消化管グループ《食道》

STAFF：池田健一郎・木村祐輔・岩谷 岳

専門外来

火曜  
8時30分-13時30分



食道癌の集学的治療を担当しています。毎週火曜日の「食道外来」では、主に術後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。術後の定期的なフォローアップとともに、外来化学療法室と連携し外来通院での化学療法を積極的に導入しております。入院治療では、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌までを、消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）の食道がんグループのメンバーであり、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発・実践を行っています。

食道癌の患者様がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

平成20年の  
ニュース

- 9月 ▶ World congress of the international Society for the Disease of the Esophagus. Budapest.にグループ3名で参加。
- 12月 ▶ 食道癌手術件数28件と目標の30件に届かず。しかし胸腔鏡下手術は17件と初めて開胸手術を上回った。

### 平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：67例
- 手術数：28例（胸腔鏡下食道切除術：17例）  
その他 空腸瘻造設術7件、胃・十二指腸潰瘍穿孔手術3件、胸腔鏡下肺門部リンパ節郭清1件、胃癌手術2件（幽門側胃切除1件、胃全摘1件）、頸部リンパ節郭清2件。
- 食道癌手術年次推移  

|     |       |      |       |      |       |      |       |     |
|-----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|
| 切除数 | 2005年 | 27例、 | 2006年 | 28例、 | 2007年 | 28例、 | 2008年 | 28件 |
| 胸腔鏡 | 2005年 | 4例、  | 2006年 | 9例、  | 2007年 | 7例、  | 2008年 | 17件 |
- 平成20年研究報告
  - ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
  - ・JCOG0303「局所進行食道癌に対するLow Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とStandard Dose Cisplatin/5-FU・放射線同時併用療法とのランダム化第Ⅱ/Ⅲ相試験」症例登録中。
  - ・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。
  - ・TRICE06「食道癌生検標本の遺伝子プロファイル解析による化学放射線療法感受性予測に関する探求的研究」症例登録中。
  - ・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C
  - ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」
  - ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」
  - ・「CDDPを用いた術前化学療法を施行した食道癌患者における、イオンビーム励起エックス線分光分析によるシスプラチン体内動態の検討」
  - ・「食道扁平上皮癌の発生・進展に関与するフォスファターゼの変異・機能解析」
- 今後の研究課題
  - ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
  - ・進行癌にたいする胸腔鏡下食道切除術の適応の拡大。

## 上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・高橋正統

専門外来

木曜  
8時30分-16時



今年は固定スタッフ肥田、高橋の2名に、鴻巣、木村（聡）、馬場各先生の交代メンバー1名を加えた3名体制で診療を行いました。3月には若林教授の御高配により、肥田が癌研有明病院で研修する機会をいただきました。癌研有明病院は現在日本一の症例数を誇る病院だけにわずか2週間ではありましたが、とくに腹腔鏡下胃切除術に関して多くの症例を見学することができ、同時に細かい手技についても懇切丁寧に御指導いただきました。その成果として今年は45例の腹腔鏡下手術を施行し、学会やセミナー等で発表をする機会にも恵まれ、やっと手技の標準化ができてきたと実感しています。また、9月には念願であったJCOG胃癌外科グループのactive memberに復帰することができ、今後その責務を果たすべく一層の努力が必要と考えています。お陰様で症例数が下記のごとく年々増加傾向にありますが、その一方で外来、入院とも現状の体制では維持することがいささか困難になってきております。そのために関連病院や開業の先生方に後方連携として多くの患者様を御依頼し、診療をお願いいたしておりますことをこの場を借り改めて感謝申し上げます。

平成20年の  
ニュース

- 3月 ▶ 肥田圭介 癌研有明病院病研修。
- 9月 ▶ JCOG胃癌外科グループ active member 復帰。
- 12月 ▶ 胃癌切除例 104例、腹腔鏡下手術 45例と年々増加。

### 平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：197例
- 手術数：118例  
《内訳》  

|                    |          |     |
|--------------------|----------|-----|
| 胃癌                 | 開腹切除     | 59例 |
|                    | 腹腔鏡補助下切除 | 45例 |
| その他（非切除バイパス、GIST等） |          | 14例 |
- 胃癌手術年次推移  

|         |       |      |       |      |       |      |
|---------|-------|------|-------|------|-------|------|
| 切除数     | 2006年 | 78例、 | 2007年 | 94例、 | 2008年 | 104例 |
| 腹腔鏡下手術数 | 2006年 | 10例、 | 2007年 | 33例、 | 2008年 | 45例  |
- 平成20年研究報告
  - ・JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
  - ・JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
  - ・JCOG 0705「治癒切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
  - ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
  - ・JACCRO GC-03「進行・再発胃癌患者を対象としたタキソテル注／ティーエスワンカプセル併用療法とティーエスワンカプセル単独療法の第Ⅲ相試験」症例登録終了、解析中。
  - ・JACCRO GC-04「胃癌術後補助化学療法（S-1）における抗癌剤感受性試験の検証」症例登録中。
  - ・JACCRO GC-05「初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法－CPT-11単独療法vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験－」症例登録中。
  - ・日本外科感染症学会多施設共同試験「胃全摘手術における術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験」症例登録中。
  - ・UHA GC 04-02「局所進行胃癌に対する術前CPT-11+TS-1併用化学療法の第Ⅱ相臨床試験」症例登録中。
  - ・JFMC36-0701「進行・再発胃癌に対するTS-1単独療法／TS-1+レンチナン併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
  - ・「胃癌幽門側胃切除術後栄養補助療法の検討」症例登録中。
  - ・平成20年度科学研究費補助金「進行胃癌化学療法後切除例における組織マイクロアレイを用いた網羅的蛋白解析」進行中。
- 今後の研究課題
  - ・進行胃癌術前化学療法（TS-1/CDDP）療法後切除検体を用いた薬物動態の解析
  - ・腹腔鏡補助下胃癌手術の定型化および短期／長期手術成績 など



## 内分泌グループ《乳腺》

**STAFF：**柏葉匡寛・稲葉 亨・滝山郁雄(非常勤講師)  
武田雄一郎・小松英明・三浦一穂(乳がん看護認定看護師)

専門外来

火・水曜日  
9時-16時



乳腺チーム計13名（専門医師3名＋研修医、薬剤師4名、看護師6名（乳がん看護認定看護師1名を含む）で標準治療やクリニカルパスの履行だけでなく、疾患の理解の援助や治療中の社会的・精神的支援も行える質の高い、患者中心のチーム医療をモットーとしています。これらのサポートの基、セカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療も承っています。東北での乳癌の臨床試験でLeading Instituteとしての地位を確立、臨床研究としても術前化学療法、センチネルリンパ節生検、マンモトーム生検等を積極的に行い、ASCOやサンアントニオ乳癌シンポジウムでの発表が増えています。

平成20年の  
ニュース

- 1 月 ▶ 癌治療認定医受験・合格、岩手乳腺疾患研究会開催
- 4 月 ▶ 稲葉先生に待望のご長女誕生
- 5 月 ▶ Docetaxel/Capecitabine治験開始
- 6 月 ▶ ASCO@Chicagoにてposter presentation
- 7 月 ▶ Sunitinib/Capecitabine治験開始
- 8 月 ▶ 東海大学 徳田裕教授をお迎えし乳癌講演会
- 9 月 ▶ 浜松オンコロジーセンター 渡辺亨先生をお迎えし乳癌講演会  
▶ 第16回乳癌学会総会@大阪にて計3題発表、座長
- 11月 ▶ 第46回癌治療学会で計3題発表、ライブセミナー招聘
- 12月 ▶ St.Antonio Breast Cancer Symposiumにてposter presentation、稲葉先生アキレス腱断裂も忘年会で見事MVPに、念願の乳癌学会認定施設承認、過去最高128例の原発乳癌手術

### 平成20年 診療・研究状況報告

●入院数：207例

●手術数：128例

《内訳》

| 疾患 | 術式       | 症例数           |
|----|----------|---------------|
| 乳癌 | 乳房部分切除   | 98例（温存率76.6%） |
|    | うち内視鏡補助下 | 18例           |
|    | 胸筋温存乳房切除 | 30例           |
| 計  |          | 128例          |

《年次手術数推移》

|      | 2006年 | 2007年 | 2008年 |
|------|-------|-------|-------|
| 原発乳癌 | 80件   | 98件   | 128件  |

●平成20年研究報告

《教室内》

- ・Trastuzumab治療中のHER2可溶性抗原の変動 in Press
- ・術前化学療法後のsentinel node biopsyの適応に関するvalidation study
- ・Intrinsic subtypeと腫瘍マーカーの変動：SABCS2008にて発表、論文作成中

《全国規模》

- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-04 PST後の術後Capecitabine療法P-Ⅲ
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-06 術前Letrozole療法P-Ⅱ
- ・OOTR（Organization of Oncology and Traslational Research）-N003 術前FEC-Pou±Capecitabine P-Ⅲ
- ・「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646(Avastin)とパクリタキセルの併用第Ⅱ相試験」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：（SELECT-BC）
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：（NSAS-BC06）

●今後の研究課題

- ・Triple-negative（ER/PgR/HER2陰性）乳癌の抗癌剤感受性予測因子の検討
- ・術前化学療法後の残存病変内の乳癌幹細胞の同定
- ・乳癌化学療法・分子標的療法耐性におけるProteomicsによる検証

## 内分泌グループ《甲状腺》

**STAFF：**小笠原 聡・富澤勇貴

専門外来

水曜  
9時-16時



以前より海外留学希望であった小笠原が、8月アメリカ・サンディエゴ：University of California, Division of Biological Sciencesに旅立ちました。9月より、外来から入院・手術まで富澤が担当させていただいております。手術に関しては、2008年より術中の神経モニタリングを行い、反回神経の機能温存に心がけております。また、以前より副甲状腺機能亢進症の手術時には、術中intactPTH測定により治療成績向上を目指しています。甲状腺未分化癌は集学的治療が必要ですので、疑った時点でご連絡・紹介していただけると幸いです。

平成20年の  
ニュース

- 7 月 ▶ 不慮の事故により、左腕骨折（富澤）
- 8 月 ▶ 海外（アメリカ；サンディエゴ）留学に旅立つ（小笠原）

### 平成20年 診療・研究状況報告

●入院数：55件 悪性：30例 良性：25例

●手術数：52例

《内訳》

疾患：術式：症例数

▶甲状腺癌（29例）：甲状腺葉切除：7例／甲状腺全摘術：12例／リンパ節郭清：10例▶良性甲状腺腫瘍（11例）：甲状腺葉切除術：6例／甲状腺全摘術：5例▶副甲状腺機能亢進症（6例）：病的副甲状腺摘出術：3例／全腺摘出術：3例▶正中頸嚢胞：甲状舌管嚢胞根治術：2例▶悪性リンパ腫（頸部リンパ節）：リンパ節摘出術：3例▶その他：リンパ節郭清：2例

《年次手術件数》

2006年：64件 2007年：38件 2008年：52件

●平成20年研究報告

- ・「甲状腺未分化癌の白血球増多と予後因子の検討」(富澤)
- ・「甲状腺乳頭癌に対するCOX-2阻害剤の増殖能抑制効果」(富澤)
- ・「甲状腺未分化癌の予後因子の検討：白血球増多とG-CSFの関係」(富澤)
- ・「細胞周期の異常を標的としたUCN-01による甲状腺未分化癌の細胞増殖抑制治療戦略」文部省科学研究費補助金 基盤研究（C）（小笠原）

●今後の研究課題

- ・「薬剤感受性試験を用いた甲状腺未分化癌に対する至適薬剤の選択」(富澤)
- ・「PIXEを用いた未分化癌EP療法におけるシスプラチンの腫瘍内濃度の検討」(富澤)
- ・「甲状腺乳頭癌に対するCOX-2・5LOX同時阻害の増殖能抑制効果」(富澤)
- ・「甲状腺未分化癌におけるG-CSF細胞内シグナル伝達の検討」(富澤)
- ・「甲状腺未分化癌における炎症性サイトカインの検討」(富澤)
- ・「甲状腺未分化癌細胞株の樹立とその生物学的検討」(富澤、野田)
- ・「甲状腺癌術後のアブレーションの検討」(富澤)
- ・「マウス多能性幹細胞の初期化に関する研究」(小笠原)
- 《共同研究》
- ・甲状腺未分化癌細胞に対するユリ根抽出物の増殖抑制効果の検討（岩手大学農学部堤教授との共同研究）
- ・甲状腺濾胞癌に特異的に発現する蛋白、ミオシリンの臨床応用の検討（虎ノ門病院三浦大周先生、田口学先生との共同研究）



## 肝胆膵グループ

**STAFF**：若林 剛・新田浩幸・高橋正浩・高原武志・伊藤直子

専門外来

木曜  
8時30分-12時30分

金曜  
8時30分-12時30分  
14時-17時



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡（腹腔鏡・胸腔鏡）手術、化学療法など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療はなにかを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する内視鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、当科の腹腔鏡補助下肝切除術は国内初の高度医療として承認されました。腹腔鏡補助下肝切除術は生体肝移植のドナー手術にも応用されております。このドナーに対する腹腔鏡下手術は、先端医療開発特区（スーパー特区）における「腹腔鏡下ドナー肝切除術の技術・デバイスの開発」にも選定され、我々も参画しております。

また、膵胆道癌に対するTS-1/GEMなどを用いた化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。

平成20年の  
ニュース

- 8 月 ▶ 高橋助教が海外留学
- 9 月 ▶ 第2回肝臓内視鏡外科研究会（横浜）を開催  
▶ 腹腔鏡補助下肝切除術が国内初の高度医療として承認
- 10月 ▶ 第1回ハンズオンセミナー（腹腔鏡下肝切除）を開催  
▶ 第21回東北膵胆道癌研究会を開催
- 11月 ▶ 先端医療開発特区（スーパー特区）の「腹腔鏡下ドナー肝切除術の技術・デバイスの開発」に当科が参画  
▶ 第3回東北消化器外科周術期研究会を開催

平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：200例
  - 手術数：147例
  - 平成20年の手術症例
- 《疾患別》
- ▶悪性：肝細胞癌：21例／転移性肝癌：24例／肝内胆管癌：5例／胆管癌：18例（肝門部：10例、肝外：8例）／胆嚢癌：6例／乳頭部癌：1例／膵癌（IPMC含む）：18例
- ▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、慢性膵炎など 38例
- ▶その他：脾腫、副腎腫瘍など 11例
- 《術式別》
- 生体肝移植：7例／肝切除：68例／PpPD：16例／PD：1例／膵体尾部切除：7例／膵全摘：1例／胆管切除：7例／ラジオ波焼灼：4例／Lap胆摘：3例／フライ手術：2例／脾摘：5例／副腎摘出：2例／後腹膜腫瘍摘出：1例／腹壁切除：1例／バイパス（胆管、消化管）：8例／Necrosectomy：1例／Lap肝嚢胞天蓋切除：3例／リン

パ節摘出：1例／非切除：6例

《年次推移》

|       | 2006 | 2007 | 2008 |
|-------|------|------|------|
| 肝細胞癌  | 27   | 31   | 21   |
| 肝内胆管癌 | 6    | 6    | 5    |
| 転移性肝癌 | 25   | 18   | 24   |
| 胆管癌   | 14   | 20   | 18   |
| 胆嚢癌   | 3    | 1    | 6    |
| 乳頭部癌  | 5    | 1    | 1    |
| 膵癌    | 8    | 11   | 18   |
| 生体肝移植 | 0    | 5    | 7    |

●平成20年研究報告

《教室内》

- ・「胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第Ⅰ相試験・feasibility試験」他の消化器癌と比較し、全国的に決して手術成績が良好とはいえないStageⅡ

以上の胆道癌術後患者を対象とした新規抗癌剤の第Ⅰ相試験。症例集積中。

- ・「生体肝移植術周術期における好中球エラスターゼ阻害剤投与の検討」生体肝移植におけるエラスポールの投与効果を前向きに検討。症例集積中。
- ・「生体肝移植における腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の導入」当科で考案し、手術成績も安定した腹腔鏡補助下肝切除術をドナー肝切除術に応用。これまで11例に対して施行、成績は良好であった。今後も手技の工夫を積み重ね、手技の確立に努める。
- ・「切除可能膵癌に対する補助化学療法のRandomized PhaseⅡ Trial」切除可能であった進行膵管癌に対する術後補助化学療法（GEM）の投与方法（3投1休 or 隔週）に関するRCT。青森、秋田、岩手の北東北3県

で行っている。症例集積中。

《全国規模》

- ・「肝外病変を伴う進行肝細胞癌に対するTS-1/INF併用化学療法の有効性第Ⅱ相ランダム化比較試験」厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）－進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究－
- ・「肝細胞癌切除例に対する術後感染症予防薬の投与期間に関するランダム化比較試験」日本外科感染症学会
- 今後の研究課題
- ・切除可能膵癌に対するNACの効果
- ・HCCに対する肝切除とRFAの前向き比較試験
- ・腹腔鏡補助下肝切除術の有用性に関する多施設共同研究
- ・開腹肝切除の低侵襲化を目指した手術手技の確立

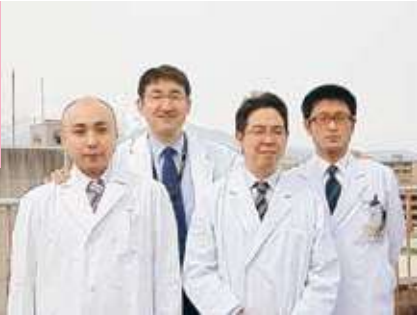


下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・板橋哲也・藤澤健太郎・木村聡元  
千葉励子（WOCN；ストーマ外来）

専門外来

月曜  
8時30分-15時



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2008年12月まで619名の患者様に行ってきました。年々増加傾向にあり、2008年は、大腸癌手術件数159例のうち腹腔鏡下手術は110例でした。自然肛門を可能な限り温存する超低位前方切除も腹腔鏡手術と併用し行っており、どうしても人工肛門を承諾していただけない患者様がいらっしゃいましたらどうぞご紹介ください。人工肛門になった場合でも、当院の千葉励子WOCナースが外来でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。また、T4（周囲臓器浸潤）直腸癌に対しては骨盤内臓全摘術を回避すべく術前放射線＋化学療法を行い、現在のところ良好な成績です。再発や切除不能大腸癌に対しては全国標準化学療法を安全に行っております。

平成20年の  
ニュース

- 1 月 ▶IBD（炎症性腸疾患）市民公開講座開催。
- 3 月 ▶第24回岩手ストーマ研究会開催。宮城大学看護学部教授徳永恵子先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 6 月 ▶「大腸癌なんかこわくない」市民公開講座をアイーナで開催（大塚講師講演）。多数の市民が来場
- 9 月 ▶大塚講師がNHK「おぼんですいわて」に出演。テーマ「大腸がん」。  
▶岩手医科大学関連施設との共同臨床試験ICOG-CRC ML-001「結腸・直腸癌肝転移に対するペバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」がスタート。
- 10月 ▶第4回北東北LAC情報交換会を開催。自治医科大学大宮医療センターの小西文雄教授のご講演に感銘。  
▶藤澤医師、仙台で感動的な結婚式。おめでとう。
- 11月 ▶第4回岩手骨盤外科研究会開催。大阪医科大学一般消化器外科准教授である奥田準二先生に腹腔鏡手術からみる骨盤の臨床解剖について特別講演をいただく。

平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：319例
  - 手術数：222例（全麻）
  - \* 開腹手術大腸癌手術56例 腹腔鏡下大腸癌手術110例
- 《内訳》

| 疾患       | 術式         | 症例数 |
|----------|------------|-----|
| 結腸癌（92例） | 開腹結腸切除術    | 25例 |
|          | 腹腔鏡下結腸切除術  | 67例 |
| 直腸癌（65例） | 開腹高位前方切除   | 3例  |
|          | 腹腔鏡下高位前方切除 | 7例  |
|          | 開腹低位前方切除   | 6例  |
|          | 腹腔鏡下低位前方切除 | 22例 |
|          | 開腹超低位吻合    | 2例  |
|          | 腹腔鏡下超低位吻合  | 1例  |
|          | 開腹マイルス手術   | 3例  |

|          |             |     |
|----------|-------------|-----|
|          | 腹腔鏡下マイルス手術  | 3例  |
|          | 開腹ハルトマン手術   | 5例  |
|          | 腹腔鏡下ハルトマン手術 | 4例  |
|          | 腹腔鏡下大腸全摘    | 3例  |
|          | 開腹骨盤内臓全摘    | 1例  |
|          | 経肛門的腫瘍切除    | 6例  |
|          | 腹腔鏡下人工肛門造設  | 3例  |
|          |             |     |
| 大腸腺腫     | 腹腔鏡下結腸切除    | 11例 |
| Crohn病   | 腹腔鏡下腸管切除    | 7例  |
|          | 肛門手術        | 3例  |
| 潰瘍性大腸炎   | 腹腔鏡下大腸全摘    | 4例  |
| 家族性大腸腺腫症 | 腹腔鏡下大腸全摘    | 2例  |
| 乳房外Paget | 腹腔鏡下マイルス手術  | 1例  |
| 直腸癌術後    | 一時的回腸人工肛門閉鎖 | 10例 |

|            |            |    |
|------------|------------|----|
| イレウス       | 開腹イレウス解除   | 2例 |
|            | 腹腔鏡下イレウス解除 | 6例 |
| 他（憩室炎・腹膜炎） |            | 8例 |
| * 他科応援手術   | （婦人科・泌尿器科） | 7例 |

《年次手術数推移》

|         | 2006年 | 2007年 | 2008年 |
|---------|-------|-------|-------|
| 結腸癌全手術数 | 96    | 92    | 92    |
| 直腸癌全手術数 | 51    | 64    | 65    |
| 計       | 147   | 156   | 157   |

- 平成20年研究報告
- 《教室内》
- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例集積中。
- ・「結腸・直腸癌肝転移に対するペバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」ICOG CRC ML-001；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：症例集積中。
- 《全国規模》
- ▶JCOG
- ・0404試験「進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹

手術の根治性に関するランダム化比較試験」

- ▶がん集学的治療財団
- ・JFMC34「StageⅡB/Ⅲ大腸癌に対する術後補助化学療法としてのUFT/LV経口療法の治療スケジュールに関する第Ⅲ相比較試験」：症例追跡中
- ▶SACURA
- ・「stageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法に関する研究」：症例集積中
- ▶腹腔鏡下大腸切除研究会
- ・「Clinical Stage 0-Ⅰ期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第Ⅱ相試験」Lap-RC：症例集積中
- ・「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後ろ向き調査」：症例解析中
- ・StageⅣ大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」：症例解析中
- 今後の研究課題
- ▶臨床面
- ・大腸癌手術総数180例
- ・腹腔鏡下大腸癌手術130例
- ▶研究面
- ・ICOG CCとICOG CRC LMの登録数の拡大
- ・全国他施設共同研究への積極的参加
- ・学会発表を論文文化

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・中嶋 潤・大淵 徹・馬場誠朗

専門外来

水曜  
8時30分-12時  
土曜（第1・4週）  
9時-11時



研究では、主要学会（日本外科学会、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、欧州内視鏡外科学会など）の採択率は100%を達成し、シンポジウム1題、ビデオシンポジウム2題、ワークショップ1題を発表いたしました。臨床では、今年は96例の内視鏡外科手術を施行しましたが、technical complication zeroが最も評価できる点と考えています。2009年はSILSの実施、NOTESの開発が目標であり、更なる低侵襲手術を目指します。

平成20年の  
ニュース

- 2月 ▶ラパロスキーツアー
- 5月 ▶第1回がん治療認定医合格（佐々木 章、中嶋 潤、大淵 徹）
- 6月 ▶東北で初めて重症肥満に対してlaparoscopic sleeve gastrectomyを施行
- 7月 ▶Advance laparoscopic digestive surgery を韓国、シンガポールと開催
- 8月 ▶Live demonstration of ESD（内科学講座に協力）を韓国学会に配信
- 9月 ▶日本内視鏡外科学会大上賞（佐々木 章）、世界内視鏡外科学会ベストポスター賞受賞（大淵 徹）
- 10月 ▶日本外科学会ビデオライブラリー収録（佐々木 章）
- 11月 ▶J-FD研究会で最優秀賞受賞（馬場 誠朗）
- 12月 ▶琢磨くん誕生（大淵 徹）

平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：105例
- 手術数：108例（盛岡市立病院での手術3例を含む）

| 疾患       | 術式               | 症例数 |
|----------|------------------|-----|
| 胆嚢良性疾患   | 腹腔鏡下胆嚢摘出術        | 72  |
| 胆嚢悪性疾患   | 開腹下胆嚢摘出術         | 3   |
| 総胆管結石症   | 腹腔鏡下総胆管結石摘出術     | 2   |
| 脾臓良性疾患   | 腹腔鏡下脾臓摘出術        | 3   |
| 脾臓悪性疾患   | 開腹下脾臓摘出術         | 1   |
| 副腎良性疾患   | 腹腔鏡下副腎摘出術        | 5   |
| 副腎悪性疾患   | 開腹下副腎摘出術         | 2   |
| 甲状腺疾患    | 内視鏡下甲状腺切除術       | 7   |
| 食道アカラシア  | 腹腔鏡下Heller-Dor手術 | 1   |
| 逆流性食道炎   | 開腹下Nissen手術      | 1   |
| Zenker憩室 | 開創憩室切除術          | 1   |
| 重症肥満     | 腹腔鏡下袖状胃切除術       | 3   |
| IPMN     | 腹腔鏡下尾側膵切除術       | 1   |
| 膵仮性嚢胞    | 腹腔鏡下膵仮性嚢胞胃吻合術    | 1   |
| 肝嚢胞      | 腹腔鏡下嚢胞開窓術        | 1   |
| 腹膜中皮腫    | 腹腔鏡下生検           | 1   |
| 腹膜偽粘液腫   | 開腹下胃・横行結腸部分切除術   | 1   |
| 胃潰瘍穿孔    | 開腹下大網充填術         | 1   |

- 平成20年研究報告
- 《教室内》
- ・Cine-MRIを利用した胃運動の客観的評価：in press
- ・高速インターネットを利用した遠隔医療カンファレンス：評価中
- ・肥満症に対する腹腔鏡下減量手術の効果：評価中
- ・肥満症の遺伝子多型解析と肥満治療後のアディポサイトカインと消化管ホルモンの動態：評価中
- 《全国規模》
- ・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術（臨床確認試験・厚生労働科学研究費補助金：九州大学、岩手医大、日本医大、自治医大、岡山大）：継続中
- ・がん医療を専門とする医師の学習プログラム（厚生労働省共同事業）：継続中 → [www.cael.jp](http://www.cael.jp)を御覧下さい
- 今後の研究課題
- ・Single Incision Laparoscopic Surgery（SILS）の開発
- ・Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery（NOTES）の開発

ヘルニアグループ

STAFF：岩谷 岳・板橋哲也・中嶋 潤・馬場誠朗・他医局スタッフ・川村英伸（花巻温泉病院）

専門外来

火曜  
8時30分-12時  
14時-16時  
金曜  
8時30分-12時

当院では、局所麻酔下のスタンダード・クーゲル法を基本術式としております。大学病院では様々な併存疾患を有している患者様の手術も多くなっておりますが、局所麻酔によるリスクの減少、早期回復が得られております。また、抗凝固療法・抗血小板療法を施行されている患者様の手術に関しても、休薬せずに手術を施行することで、基礎疾患増悪リスクの低下、早期退院が可能となってきております。また、2003年から日本ヘルニア研究会が発足し、会の発展に伴って2008年より「日本ヘルニア学会」へ移行しました。東北地区でも、本年5月に若林剛教授が発起人となり東北各県の先生方による世話人会を開催し「東北ヘルニア研究会」が発足致しました。ヘルニアに関する研究やヘルニア治療の発展を目指して頑張っていきたいと思います。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

平成20年の  
ニュース

- 4月 ▶「日本ヘルニア研究会」出席（川村医師、板橋医師、岩谷）
- ▶\*「日本ヘルニア学会」へ移行
- 5月 ▶「東北ヘルニア研究会」発足
- 12月 ▶「第1回東北ヘルニア研究会」開催

平成20年 診療・研究状況報告

|           |                 |       |                          |
|-----------|-----------------|-------|--------------------------|
| 鼠径・大腿ヘルニア | 86例             | 術後合併症 | 血腫5例、感染0、再発1例（閉鎖孔ヘルニア）、  |
| 術式        | Standard Kugel法 | 80例   | 遅発性・慢性疼痛0、基礎疾患増悪0        |
|           | Direct Kugel法   | 2例    | その他                      |
|           | Mesh Plug法      | 4例    | 腹壁癭痕ヘルニア、臍ヘルニア、白線ヘルニアなど  |
| 麻酔        | 局所麻酔            | 72例   | 9例                       |
|           | 全身麻酔            | 14例   | ヘルニア術後慢性疼痛 神経切除・プラグ除去 2例 |



## 小児外科グループ

STAFF：水野 大・福澤太一

専門外来

火曜  
10時-12時  
14時-16時



一般小児外科外来：原則的には火曜日10時から12時、14時から16時ですが、他の曜日・時間も可能な限り対応しておりますのでお問い合わせ下さい。紹介の有無を問わず新患者様の診察・検査、術後患者様のフォローアップをしております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から17時。WOCナースと協力し、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、2009年からは原則として30分刻みの予約時間設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成20年の  
ニュース

- 4月 ▶2007年に東北大学より専門医取得目的に赴任していた福澤太一医師の研修延長決定  
▶小児外科志望の大学院生が3人に。  
▶定期健康診断でグループ全員が非メタボ  
▶腹腔鏡補助下水腎症根治術開始。
- 10月 ▶腹腔鏡補助下高位鎖肛根治術開始。
- 11月 ▶水野赴任後の全麻手術件数が1500件を突破。
- 12月 ▶東北・北海道で最も研修指数の高い小児外科学会認定施設に。

### 平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：261例
- 手術数：252例（全麻）  
《内訳（重複あり）》  
▶新生児（横隔膜ヘルニア／腹壁異常／食道閉鎖／腸閉鎖など）30例▶悪性腫瘍（神経芽腫／腎芽腫／肝芽腫／奇形腫など）10例（含む生検）▶上部消化管（胃食道逆流症／胃軸捻転／幽門狭窄症など）12例▶下部消化管（イレウス／Hirschsprung病／直腸肛門奇形など）32例▶肝胆膵脾（胆道閉鎖／胆道拡張症／遺伝性球状赤血球症など）6例▶急性虫垂炎11例▶鼠径ヘルニア（停留精巣含む）53例▶泌尿器系（水腎症／膀胱尿管逆流症など）21例▶呼吸器系（気管切開／気胸／肺分画症など）20例

- 過去3年分の手術数  
平成18年：245件／平成19年：239件／平成20年：252件
- 平成20年研究報告  
《教室内》  
・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中  
《全国規模》  
・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験  
・JPLT2 日本小児肝臓スタディグループ  
・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

## 高度救命救急センター

STAFF：佐藤信博・青木毅一・小鹿雅博・石田和茂(1～3月)・馬場誠朗(4～6月)・伊藤直子(7～9月)・星川浩一(10～12月)

専門外来

24時間体制



上記4名のスタッフにより診療に携わっております。診療業務は多岐にわたり、腹部外科領域の救急疾患以外にも、多発外傷、災害医療、一次二次救命など幅広い知識が要求されますが、それだけにやりがいのある分野でもあります。またEBMの重要性が急速に高まっている現在、若手の先生方には当センターでの診療経験を通じ、手術手技はもちろんですが、敗血症、急性肺障害などにおけるglobal standardな管理法を身につけ集中治療にも精通していただきたいと思います。関連施設の先生方には、緊急対応を要すると思われる症例があればいつでも対応いたしますので、ご遠慮無くご相談いただくことをお願い申し上げます。

平成20年の  
ニュース

- 1月 ▶青木医師、石田医師救急センター赴任
- 4月 ▶石田医師が馬場医師に交代
- 7月 ▶馬場医師が伊藤医師に交代
- 10月 ▶伊藤医師が星川医師に交代

### 平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：114例
- 手術数：107例

<内訳>

| 病名       | 件数 | 病名       | 件数  |
|----------|----|----------|-----|
| 虫垂炎      | 26 | 小腸穿孔     | 1   |
| 気管切開     | 15 | 小腸腫瘍     | 1   |
| 大腸穿孔     | 11 | 大腸腫瘍     | 1   |
| 胆嚢炎      | 10 | 虫垂腫瘍     | 1   |
| 十二指腸穿孔   | 9  | 腹腔内異物    | 1   |
| 胃穿孔      | 5  | 腹腔内出血    | 1   |
| 鼠径ヘルニア   | 5  | 腹腔内膿瘍    | 1   |
| 食道穿孔     | 4  | フルニエ症候群  | 1   |
| イレウス     | 3  | 腹壁癒痕ヘルニア | 1   |
| 直腸穿孔     | 3  | 気胸       | 1   |
| 閉腹術      | 3  | S状結腸捻転   | 1   |
| 術後汎発性腹膜炎 | 1  | 横隔膜破裂    | 1   |
|          |    | 計        | 107 |

《年次手術数推移》

|      | 2006 | 2007 | 2008 |
|------|------|------|------|
| 手術件数 | 138  | 154  | 107  |

- 平成20年研究報告  
《全国規模》  
・「エイコサペンタエン酸・ $\gamma$ -リノレン酸および抗酸化物質を強化した新しい濃厚流動食（オキシーパー）の有用性の検討」  
・「循環不全及び呼吸不全を有するセプシス患者を対象としたTAK-242の有効性及び安全性を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験」  
・「重症セプシス患者におけるeritoran tetrasodiumのプラセボ対照二重盲検比較試験」  
・「S-4661の1 g x 3回/日投与における第Ⅲ相臨床試験」
- 今後の研究課題  
・敗血症下における液性因子の検討  
・ALI/ARDSに対する生体侵襲反応の検討  
・液性因子からみた重症敗血症症例における血糖コントロールの評価  
・腹腔内感染症術後における人工臓器を用いた周術期管理  
・抗菌剤のサイトカイン抑制効果の検討  
・成人汎発性腹膜炎症例に対するアミノ酸主体輸液の有用性の検討

## リサーチグループ《分子治療研究室》

**STAFF**：西塚 哲・岩谷 岳・石田和茂・野田宏伸・松尾鉄平・小財 恵・池田みゆき・小笠原 聡

専門外来  
制癌剤感受性試験  
(先進医療として  
認可済み) および  
研究コンサルティ  
ング随時受付



発足から1年半が経ちました。大学院2名（石田和茂、野田宏伸）が本格的に参加し、細胞分子生物学、バイオ・機械工学、コンピュータサイエンス、および臨床医学を組み合わせた、multi-disciplinary（学際的な）アプローチにより、癌の生物学的特性に基づいた診断・治療法の確立を目指して日夜研究に励んでおります。またベンチの上のみならず、研究費獲得、学会活動等でもphysician scientist（研究する臨床医）として少しずつ成果が出始めました。また、各臨床グループや関連病院出張中の若手医師の中からもコンスタントに研究を行おうという参加者が出始めたことは大きな前進です。さらに、金曜6時からのリサーチカンファランスでは、遺伝子診断から英語でのプレゼン練習まで幅広いトピックを採用しながら継続中です。みんなで頑張ろう！

平成20年の  
ニュース

- 1 月 ▶ 研究室の床掃除終了
- 2 月 ▶ 本邦初となるAushon BioSystems社のマイクロレイヤーを導入
- 4 月 ▶ 文科省科学研究費採択課題発表 過去最高の研究費（総額）を獲得
- 5 月 ▶ 制癌剤感受性試験が先進医療として承認（再承認）
- 6 月 ▶ 第三回Research in Oncology Seminarにて県立中央病院病理部、田村 元先生がご講演
- 7 月 ▶ 第四回Research in Oncology Seminarにて大阪大学医学部外科、森 昌樹先生がご講演  
▶ 西塚、東京ビッグサイトで共同開発に携わった米国Aushon社のマイクロレイヤーを紹介（第7回国際バイオエキスポ）
- 8 月 ▶ 石田・野田両大学院生、札幌での国際学会で発表（第17回蛋白構造解析ミーティング）
- 9 月 ▶ 小笠原、カリフォルニア大学サンディエゴ校生物科学部門へ  
▶ 電力中央研究所より馬替純二先生が見学に来室
- 10月 ▶ 慶應義塾大学医学部眼科より稲葉隆明先生が見学に来室
- 12月 ▶ 西塚、当科主催の第15回外科侵襲とサイトカイン研究会（盛岡市）のミニレクチャーで講演

## 岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

**STAFF**：川村英伸・米澤仁志



2008年2月より当院でも緩和ケアチームが発足し、毎月1回の勉強会を開催しました。また、4月には本院の緩和ケアチームの木村祐輔先生をお招きし、本院の緩和ケアチームの発足と活動の実際をご講演していただきました。そして10月から実際にチーム活動を開始（月2回のmeeting）しております。2008年の手術件数は157件（全麻121件）で、昨年より31件増加しております。2009年4月の県立花巻厚生・北上病院の合併病院である中部病院の開業に伴い、花巻地区の医療マップの変動が予想され、当院並びに外科の患者数を増やすチャンスと思われます。本院および近隣の開業医などとの連携の強化に努めたいと考えています。

平成20年の  
ニュース

- 2 月 ▶ 緩和ケアチームの発足へむけて勉強会開催（毎月1回、計4回）
- 4 月 ▶ 本院緩和ケアチームの木村祐輔先生のご講演を開催
- 6 月 ▶ 川村－第2回がん治療認定試験合格
- 10月 ▶ 緩和ケアチームの活動開始（月2回のmeeting）

### 平成20年 診療・研究状況報告

- 入院数：222例
  - 手術数：157例
- 《内訳》

| 病名     | 術式            | 手術数 | 手術数計 |
|--------|---------------|-----|------|
| 乳腺腫瘍   | 核出            |     | 1    |
| 食道（良性） | 裂孔ヘルニア手術(lap) |     | 1    |
| 胃癌     | 幽門側胃切除        | 9   | 12   |
|        | 全摘            | 3   |      |
| 胃GIST  | 幽門側胃切除        | 1   | 2    |
|        | 部分切除（lap）     | 1   |      |
| 大腸癌    | 結腸切除（open）    | 4   | 26   |
|        | 結腸切除（lap）     | 11  |      |
|        | 直腸切除（open）    | 7   |      |
|        | 直腸切除（lap）     | 3   |      |
|        | 人工肛門増設        | 1   |      |
| 小腸癌    | 回盲部切除（lap）    |     | 1    |
| 胆石症    | 胆嚢摘出（open）    | 2   | 24   |
|        | 胆嚢摘出（lap）     | 22  |      |
| 膵癌     | PPPD          | 2   | 3    |
|        | バイパス          | 1   |      |
| 胆管癌    | PPPD          | 1   | 2    |
|        | 胆管切除          | 1   |      |

|           |              |    |     |
|-----------|--------------|----|-----|
| 胆嚢癌       | 肝床部、胆管切除     |    | 1   |
| 鼠径部ヘルニア   | Kugel        | 28 | 31  |
|           | Mesh-Plug    | 3  |     |
| 閉鎖孔ヘルニア   | Kugel        |    | 1   |
| 腹壁癒痕ヘルニア  | 根治術          |    | 3   |
| イレウス      | イレウス解除（open） | 3  | 5   |
|           | イレウス解除（lap）  | 2  |     |
| 急性虫垂炎     | 虫垂切除（open）   | 3  | 4   |
|           | 虫垂切除（lap）    | 1  |     |
| 痔核、肛門周囲膿瘍 | 根治術          |    | 1   |
| CVポート留置   |              |    | 10  |
| その他       |              |    | 29  |
| 計         |              |    | 157 |

《手術件数（年度別）》

| 年    | 全麻  | 腰麻 | 局麻 | 計   |
|------|-----|----|----|-----|
| 2004 | 64  | 17 | 43 | 124 |
| 2005 | 48  | 18 | 34 | 100 |
| 2006 | 62  | 17 | 39 | 118 |
| 2007 | 78  | 15 | 33 | 126 |
| 2008 | 121 | 4  | 32 | 157 |



◆ 入院患者分類

| 疾 患        |    | 例 数   |
|------------|----|-------|
| 顔面・頸部      |    | 2     |
| 甲状腺・上皮小体   | 良性 | 14    |
|            | 悪性 | 34    |
| 乳 腺        | 良性 | 2     |
|            | 悪性 | 209   |
| 食 道        | 良性 | 4     |
|            | 悪性 | 115   |
| 胃・十二指腸     | 良性 | 10    |
|            | 悪性 | 208   |
| 大腸・肛門      | 良性 | 37    |
|            | 悪性 | 235   |
| 肝・胆・膵・脾    | 良性 | 123   |
|            | 悪性 | 189   |
| イレウス       |    | 20    |
| 虫垂炎        |    | 15    |
| ヘルニア・腹壁・腹膜 |    | 102   |
| 副 腎        |    | 5     |
| その他        |    | 44    |
| 入院者合計      |    | 1,368 |

◆ 関連病院手術件数

| 施 設           | 全手術数  | 全麻数 | 腰麻数 | 局麻数 | 内視鏡 | 緊 急 | 入院数   |
|---------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 函 館 五 稜 郭 病 院 | 1,214 | 874 | 127 | 137 | 359 | 99  | 1,107 |
| 県 立 大 船 渡 病 院 | 862   | 524 | 63  | 275 | 115 | 172 | 1,001 |
| 盛 岡 赤 十 字 病 院 | 611   | 549 | 1   | 61  | 152 | 86  | 873   |
| 八 戸 赤 十 字 病 院 | 571   | 483 | 12  | 76  | 142 | 82  | 788   |
| 盛 岡 友 愛 病 院   | 511   | 422 | 19  | 69  | 52  | 18  | 787   |
| 県 立 釜 石 病 院   | 490   | 317 | 67  | 106 | 54  | 70  | 922   |
| 県 立 宮 古 病 院   | 439   | 393 | 34  | 62  | 146 | 103 | 785   |
| 県 立 久 慈 病 院   | 421   | 263 | 59  | 99  | 73  | 70  | 361   |
| 県 立 二 戸 病 院   | 416   | 254 | 61  | 101 | 55  | 85  | 608   |
| 盛 岡 市 立 病 院   | 295   | 248 | 11  | 36  | 95  | 25  | 634   |
| 鹿角組合総合病院      | 279   | 156 | 43  | 80  | 29  | 31  | 439   |
| 山本組合総合病院      | 264   | 195 | 38  | 31  | 50  | 42  | 577   |
| 県 立 千 厩 病 院   | 255   | 149 | 58  | 48  | 33  | 37  | 614   |
| 県 立 江 刺 病 院   | 167   | 69  | 44  | 54  | 11  | 17  | 299   |
| 北 上 済 生 会 病 院 | 159   | 81  | 30  | 48  | 5   | 17  | 368   |
| 花 巻 温 泉 病 院   | 126   | 78  | 15  | 33  | 19  | 17  | 194   |
| 県 立 軽 米 病 院   | 111   | 16  | 10  | 85  | 4   | 5   | 103   |
| 県 立 大 槌 病 院   | 43    | 19  | 7   | 17  | 8   | 5   | 118   |
| 県 立 一 戸 病 院   | 27    | 10  | 12  | 5   | 43  | 3   | 121   |
| 県 立 沼 宮 内 病 院 | 8     | 1   | 6   | 1   | 0   | 1   | 41    |

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

| 指定関連区分 | 施設名        |            | 指定関連区分 | 施設名      |            |
|--------|------------|------------|--------|----------|------------|
| 指定     | 岩手医科大学付属病院 | ～ 2009. 12 | 指定     | 岩手県立釜石病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 函館五稜郭病院    | ～ 2009. 12 | 指定     | 岩手県立千厩病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 八戸赤十字病院    | ～ 2009. 12 | 指定     | 北上済生会病院  | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 盛岡赤十字病院    | ～ 2009. 12 | 関連     | 盛岡市立病院   | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 岩手県立大船渡病院  | ～ 2009. 12 | 関連     | 岩手県立軽米病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 岩手県立宮古病院   | ～ 2009. 12 | 関連     | 山本組合総合病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 岩手県立二戸病院   | ～ 2009. 12 | 関連     | 鹿角組合総合病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 岩手県立久慈病院   | ～ 2009. 12 | 関連     | 栗原クリニック  | ～ 2009. 12 |

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

| 指定関連区分 | 施設名        |            | 指定関連区分 | 施設名       |            |
|--------|------------|------------|--------|-----------|------------|
| 指定     | 岩手医科大学付属病院 | ～ 2009. 12 | 指定     | 岩手県立大船渡病院 | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 函館五稜郭病院    | ～ 2009. 12 | 指定     | 岩手県立久慈病院  | ～ 2009. 12 |
| 指定     | 盛岡赤十字病院    | ～ 2009. 12 | 指定     | 岩手県立釜石病院  | ～ 2009. 12 |

## 外科学講座に入局して

外科学講座

石田 馨

はじめまして。平成20年4月から岩手医科大学 外科学講座に入局させていただいた、石田馨と申します。このたびは、同門会誌へ投稿させていただく機会をいただきありがとうございます。出身は東京都八王子市、出身大学は岩手医科大学です。卒後は、北上済生会病院で臨床研修をさせていただきました。

私は、臨床研修終了間際まで自分の進路を迷っていました。そんな中で若林教授をはじめとする諸先生方の外科に対する熱い思いに感銘し、入局を決めさせていただきました。



どうも先輩のようにうまくいかねーなー。

入局後4月からは、県立釜石病院で外科医としての研修をスタートしました。専門科としての外科のなんたるかを、遠藤院長先生をはじめ、吉田副院長先生、小原外科長先生、松尾先生から、一から御指導いただいております。初めての執刀、日々の病棟、外来業務の中で、まだまだ医師としていかに自分が未熟で、学ぶべきことが多いかを痛感しています。落ち込むこともあります。その度、諸先生方や周りのスタッフに支えられ、頑張っています。そのような中で、あらためて外科医にとって様々な臨床経験を積み重ねることはもちろん、患者さんの声に真摯に耳を傾け、チーム



の一員として医療に携わることが重要であると実感しました。また、自分自身が常に緊張感を持って、向上するよう努力することが必要であり、患者さんにとっても有益であると思います。

岩手に来てから、はや10年が経とうとしています。厳しい寒さにももう慣れました、といたいところですが、まだまだ寒さが身にしみます。正直に申しまして、自分が岩手に残り、外科を選択するとは思っていませんでした。しかし、今は岩手で外科医としての一歩を踏み出せて、よかったと思っています。諸先生方にはご迷惑をかけ、まだまだ至らぬ点がございますが、努力してまいりたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 岩手医科大学外科学講座に入局して

外科学講座

菅野 公徳

この度、平成20年度より外科学講座に入局させていただきました菅野と申します。

平成18年に岩手医科大学を卒業し、岩手県立大船渡病院にて2年間の初期臨床研修を終えました。その後同院外科に1年間所属し経験を積ませていただいた後、本年4月からは岩手医科大学外科学講座に戻り、勉強させていただいております。外科学講座の雰囲気はとても明るく、臨床、研究に対してとても積極的な科であり、さまざまな経験を積ませていただいております。

自分が入局を決意した理由は様々ありましたが、現在当科で行われている先進医療を学びたいというのが一番に挙げられます。中でも、各領域で行われている鏡視下での低侵襲手術や、腹腔鏡下ドナー肝摘出術を用いた生体肝移植術、腹水の感受性試験を用いた化学療法等、患者様の負担を軽減し最大の効果を上げる治療に自分も、研究、臨床ともに携わっていければと思っています。

自分は外科治療に強い関心を持っており、さまざまな手術を数多く経験、習得できればと考えております。その一方で、術後や各種疾患による臓器機能の低下に対する治療に興味があり、移植、再生医療を研究したいと考えております。



あり、移植、再生医療を研究したいと考えております。現在、当科では生体肝移植が行われており、その適応や方法、術式もさることながら、全身管理や術後、退院後の管理に至るまで、移植に関する様々な領域について学びたいと考えております。また、未だ研究段階の幹細胞を用いた各臓器の再生医療や、脾臓移植等による糖尿病や慢性脾炎治療等に関する研究等に携わり、治療につなげていければと考えております。

まだまだ経験不足の半人前ですが、講座で様々な経験を積ませていただいて、成長したいと考えておりますので、御指導、御鞭撻のほど、お願い申し上げます。



英語、苦手なんすよね〜。

## 外科学講座新教室員として

外科学講座 大学院1年

有末 篤弘

平成20年4月より、岩手医科大学外科学講座に入局、大学院に入学させていただいております。今回、教室年報に投稿する機会をいただきありがとうございます。

私は平成18年に岩手医科大学を卒業し、実家のある札幌市の北海道大学病院にて初期臨床研修を行いました。北大でも外科学講座はあり、とても積極的に活躍している教室で非常に魅力的ではありました。しかし、母校の外科学講座に入局した理由としては、母校であるという点や若林教授のもと、とても勢いのある教室であり、まだまだこれからも勢い

そのままにさらなる発展をしていくのではないかと、という印象を強く受け、非常に魅力的な教室でした。そのため、北大の諸先生方には大変お世話になり、ご指導いただきましたが、地元を離れ、母校である岩手医大に戻ってくる決意をしました。

新教室員としてまず最初に驚いたのが、内視鏡外科の進歩でした。すべての分野で内視鏡技術が徹底されており、内視鏡でここまでいろいろなことができるのだと感嘆しました。また、カンファランスを繰り返す中、学会発表も多いという印象を受けました。この忙しさの中、これだけ多くの学会発表準備をしていくのは本当に大変なことであるにもかかわらず、海外での発表も含め、数々の発表をしていくには相当な努力が必要だと、実感しました。私も諸先生方を見習い、日常の診療、手術は当然努力していくところですが、学会発表についても必死についていこうと思います。

また、私の目指す小児グループにおいては、症例も多く疾患も多岐に渡りますが、水野准教授の御指導のもと、小児科、産科など他科とも協力して小児医療充実の力になれるよう努力していきたいです。

まだまだ未熟者ではありますが、精一杯努力し、初心を忘れず、真摯に患者様と向き合い、診療に携わっていききたいと思います。今後も諸先生方には多大なご迷惑をおかけするかと思いますが、今後とも御指導の程よろしくお願いいたします。



下剤は・・・、何て名前だったっけ？



## 第1回大上賞を受賞して

## 佐々木 章

この度は日本内視鏡外科学会の名誉ある第1回大上賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。また、大上正裕先生の命日に開催された大上賞記念講演で受賞講演の機会をいただきましたことを、北島政樹理事長、北野正剛会長に心より感謝を申し上げます。

1998年に開催した第1回岩手内視鏡外科研究会で、憧れの大上正裕先生には「内視鏡下外科手術・Today and Tomorrow」という演題でご講演を頂きましたが、内視鏡下甲状腺切除術についての1枚のスライドに、非常に感銘を受けた事を今でも鮮明に覚えております。また、この研究会のもう一人の講演者が若林 剛先生であり、我がボスになられるとは想定外でありましたし、強縁を感じる次第です。この研究会が大上先生との出会いであり、私が内視鏡下手術に魅了される機会となりました。早速、同年の8月に乳房アプローチ法による内視鏡下甲状腺切除術を開始しました。受賞論文（World J Surg 2008;32:381-385）は、大上正裕先生が開発された術式を伝承・応用し、内視鏡下甲状腺切除術92例の

長期的成績を報告したものです。本術式では、乳房に置いた創の長期的評価が気になりましたが、肥厚性癍痕と

なった症例は5例のみで合併症も少なく、開創手術で認められる頸部の術後愁訴を軽減できました。整容的な満足度は若年女性で特に高く、甲状腺良性疾患に対して安全で有用な術式と結論できました。

内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術は時限的先進医療として実施、2008年4月からは全国5施設による臨床的使用確認試験で実施していますが、本術式の普及に努力して参ります。最後に、甲状腺良性疾患に対する種々の完全内視鏡下・内視鏡補助下甲状腺切除術が、1日も早く保険収載されることを切望しつつ、教室の若林 剛教授のご指導の下に、今後も“Less is More”の信念で内視鏡外科の発展に努めていきたいと考えております。



大上賞祝賀会（横浜、sub zero）

## 優秀演題賞受賞体験記

## 稲葉 亨

平成20年10月30日から11月1日に名古屋で開催されました第46回日本癌治療学会総会において、示説演題から選ばれる優秀演題賞を受賞致しましたのでこの場をお借りして御報告させていただきます。

示説討論の演題中、優秀演題は口演が義務付けられ、数題の優秀演題の口演のセッションでの発表でした。タイトルは「当科におけるDocetaxel/Cyclophosphamide（TC）療法についての検討」です。乳癌に対する化学療法において代表的なレジメンであるFEC100療法は乳癌治療のKey drugと言われるEpirubicinを含んだ治療法であり、累積投与量が900mg/m<sup>2</sup>を越えると心毒性のRiskが高くなるとされております。当科では、St. Gallenコンセンサス会議でのRisk分類における中間リスクに該当する患者さんや心疾患の既往のある患者さんに対してDocetaxel/Cyclophosphamide（TC）療法を行っており、今回術後補助療法として予定の4コースを完遂した9例についての検討と当院で行っている乳癌のチーム医療の報告を行いました。

当日、広い示説会場の一端に壁で仕切られた発表会場を事前に見学に行き予想を上回る広さにやや緊張していましたが、更にその緊張を増長させる出来事として、乳腺に関わる者なら知らない者はいない、辛口で有名な某W先生が開始直前に座席中央に陣取られているのが見えました。元々私の示説討論の座長であるのは知っていましたが、まさか優秀演題口演の最初からお聞きになるとは！！案の定、私の前演者二人が質問攻めの末撃沈、どうなることかと絶望の中私の口演が始まりました。なんとか終了し質疑応答の時間になった時W先生が拳手をされ質問を受けましたが、前の演者のような厳しい質問・コメントは頂くことはなく、一安心して口演を終えました。

TC療法に関しては最近の学会においても数施設から発表が行われており、今回優秀演題に選出されたのは近年注目されているチーム医療としての検討を取り入れた点に尽きます。多職種の間が各々の立場で治療に介入し集学的治療を



行うことの大事さを再認識しました。今回の受賞は決して私一人の力で得たものではなく、柏葉先生、武田先生、富澤先生、また、三浦さんをはじめ看護師さん、佐藤先生をはじめ薬剤師さん、何時も御世話になっている臨床病理の上杉先生その他コメディカルの方々の日頃の診療の成果と思っています。東北地方の乳癌治療は関東・関西に比べて遅れをとって

## 世界内視鏡外科学会ベストポスター賞を受賞して

## 大 徹

2008年9月2日～5日に横浜で開催された第11回世界内視鏡外科学会において、ベストポスター賞を受賞いたしました。受賞演題は「Laparoscopic distal pancreatectomy using stapling devices」です。腹腔鏡下胆嚢摘出術が報告されて以来、手技の習熟と器具の開発とともに、各領域で内視鏡外科手術が定着してきました。しかし、膵疾患に対する腹腔鏡下手術は難度が高く、出血や膵液漏などの重篤な合併症発生の危険性があり、開腹手術で行われているのが現状であります。教室では、1992年から腹腔鏡下胆嚢摘出術を開始し、2003年からは膵疾患に内視鏡外科手術の適応を拡大しており

いるのは否めない部分もありますが、W先生にも「岩手の乳癌治療を作ればいいのでは」とのお言葉を頂きましたので、この貴重な経験を今後に生かしたいと考えております。諸先生方には、病診連携等で何時も大変御世話になっておりますが、今後とも御指導・御鞭撻の程、宜しく御願い申し上げます。

ます。本賞では、自動縫合器を使用した腹腔鏡下尾側膵切除術の手術手技の安全性と有用性が高く評価されました。2008年までに本術式を12例（脾動静脈・脾臓温存4例を含む）に施行しましたが、膵手術で問題となる膵液漏などの合併症を認めず、従来の膵切除法に比べて手術時間を短縮できています。本術式は、習熟した手技が必要であります。安全に実施でき、膵良性疾患対しては有用な術式と考えております。今後も慎重に症例を選択し、長期成績を検討していきたいと考えております。最後に、本発表にご指導いただいた佐々木章准教授に深く感謝いたします。



ポスター会場(パシフィコ横浜)にて

## 第1回J-FD研究会で最優秀演題を受賞して

## 馬場 誠朗

2008年11月8日に東京パレスホテルで開催された第1回Japan Functional Dyspepsia research society (J-FD研究会)に参加しました。本研究会は、機能性消化管障害に関する基礎的または臨床的研究を目的として新設されました。本研究会では、一次選考で10演題が選考され、二次選考で19名の評価委員会によって研究・抄録・発表内容が点数化され、上位4名までに研究助成金が交付されました。私は、大学院の研究課題である「Cine-MRIによる胃運動の客観的評価」について発表しました。本研究の概要は、放射線被曝がない非侵襲的なCine-MRIを使用して、胃運動機能が客観的に評価できるかを検討したものであります。健康人を対象にCine-MRIによる胃運動を検討した結果、市販されているゼリーを試験食とすることで胃蠕動波が画像上で明瞭に観察できまし

た。これをふまえて、健康人クエン酸モサプリド投与例、幽門輪温存胃切除術（PPG）例に対しても検討を行いました。健康人では、クエン酸モサプリド投与後は投与前に比較して蠕動波高、GMI（gastric motility index）、胃排出率で有意差を認めました。PPG術後消化管症状を認めた症例は、無症状の症例に比べて胃排出率が低値でした。また、PPG症例は全例で吻合部を境界に蠕動波の連続性がなく、有症状例の多くで幽門部の逆蠕動様所見が認められました。以上より、健康人と胃切除後の胃蠕動運動はCine-MRIで直視下に観察可能であり、胃運動の定量化により客観的評価が可能と結論いたしました。最終審査の結果、最優秀賞に選出いただき、感謝無量であります。本研究総責任者の若林 剛教授、指導者の佐々木章准教授、協力者の中嶋 潤助教に深く感謝いたします。



J-FD研究会(東京パレスホテル)にて



## 平成20年巖刀会集談会報告

### 肥田 圭介

平成20年巖刀会集談会は胃癌をテーマに設定し平成20年6月7日に開催されました。特別講演は静岡県立静岡がんセンター胃外科部長に就任された寺島雅典先生に御依頼し、「胃癌外科治療今昔」のタイトルにて御講演をいただきました。静岡がんセンターは最先端の設備を誇る国内トップレベルの施設であり、先生の今後のますますの御活躍を確信するすばらしい御講演内容でした。

引き続き若林教授より今年から新たに始まった本企画の開始に当たり、がん対策基本法に基づき癌治療の均てん化が必要とされるなか、各病院での臨床統計システムの構築が重要と考え、現状の把握の意味も含めて臓器別にテーマを設けるとの主旨説明をいただきました。

集談会では7題の一般演題の発表がありいずれも示唆に富む内容で活発な討論が行われました（図1）。また、岩手県地域がん登録運営委員長の八重樫雄一先生より資料の御提供を頂き、「岩手県地域がん登録よりみた岩手県の胃癌」につき報告を行いました。内容を抜粋すると岩手県の胃癌罹患の推移は男女ともに減少傾向にあり、年齢調整罹患率も全国平均以下であった。死亡数、死亡率はともに減少傾向であり、年齢調整死亡率も全国平均以下であった。また5年生存率は限局癌で97.4%、進行癌で36.7%、発見経緯別では検診91.5%、外来58.2%という結果でした。最後に今回の主題として関連病院にアンケートを依頼し、集計した胃癌臨床統計について解析を行い報告しました。ちょうど10年前にも同様のテーマの集計が同門会で企画され、その結果が同門会誌に掲載されておりましたので今回の結果に併せて比較検討を行いました。

#### 1. 集積期間、年間切除数、年齢、男女比（図2）

アンケートには全14施設から回答があり、症例数は五稜郭を筆頭に医大、山本組合、盛岡日赤、八戸日赤、宮古、大船渡が年間30例以上であり、病院ごとに年次別の増減の傾向は異なっていました。

前回の調査と比較すると（図3）すべての病院において平均年齢の高齢化が認められ、適応の拡大と高齢者人口の増加を反映する結果でした。また、前回調査で男女比の最も低かった二戸と逆に高かった宮古が今回の調査でも同様な傾向を認め地域性によるものか興味深い結果になっていました。

#### 2. Stage（図4）

各病院のStage毎の割合を検討しました。鹿角、大船渡ではStageⅡ以上が50%を超えており、対象年齢の高齢化とと

もに地域病院における治療困難例の割合が高いことが推察されます。地域における検診の普及等が今後の課題と思われます。

#### 3. 術式（図5）

術式を幽門側胃切除、胃全摘、その他に分類し集計しました。五稜郭、釜石、医大で幽門側胃切除の占める割合が50%以下になっており、これらの病院ではESD適応例の増加や、噴門側胃切除、幽門保存胃切除の導入がその理由として考えられました。前回との比較（図6）では各病院で幽門側胃切除の占める割合が減少しており、前述の機能温存手術の増加や胃癌発生好発部位の高位化によるものと思われます。

#### 4. 5年生存率（図7）

Stage毎の生存率、全生存率を集計しました。追跡期間、他病死の取り扱い等の統計処理が各施設にて異なるためか非常にばらつきのある結果となっていました。この結果をもって病院間の格差を比較することは困難と考えられます。一方、前回と比較し、新規抗がん剤の導入にもかかわらず全生

### 巖刀会集談会

テーマ「胃癌」 座長 肥田圭介

- 胃悪性黒色腫の一例  
岩手県立釜石病院 外科  
○石田 馨 吉田 徹 小原 真 松尾鉄平 遠藤 秀彦
- 脾臓にサルコイド結節を伴った進行胃癌の一例  
函館五稜郭病院 外科  
○秋山有史 高金明典 早川善郎 入野田 崇 加藤久仁之 目黒英二 小林 慎
- Y脚吻合部膜様狭窄により急性輸入脚症候群を来した1例  
山本組合総合病院 外科  
○大山健一 御供真吾 村上雅彦
- 腹腔鏡補助下に切除し得た胃／直腸癌同時性重複癌の一例  
八戸赤十字病院 外科  
○藤原久貴 板橋英教 鴻巣正史 細井信之 荒谷宗充 玉澤佳之 佐瀬正博
- 迷走神経温存腹腔鏡補助下幽門胃切除の術後QOLの評価  
函館五稜郭病院 外科  
○入野田崇 高金明典 早川善郎 目黒英二 小林慎 秋山有史 加藤久仁之
- 盛岡赤十字病院外科胃癌手術症例の検討  
盛岡赤十字病院 外科  
○杉村好彦 畠山 元 小川雅彰 馬場祐康 旭 博史
- 消化器外科学における胃癌研究  
岩手医科大学 外科  
○西塚 哲

図1

存率の改善傾向は残念ながら認められませんでした（図8）。対象年齢の高齢化、解析方法の違いも理由としてあげられますが、分子標的治療等を含めた今後の補助療法のさらなる効果の進歩に期待したいと思います。

以上、胃癌臨床統計につき報告しました。今回の企画にあたり日程的に余裕がなく、関連病院の先生方に多大な御苦勞をお掛けしたことをお詫びするとともに御協力に深謝を申し上げます。このような企画を通じて現在の標準治療を再度確認していただくとともに各病院での今後の診療のお役に立てていただければ幸いです。

### 前回調査（1998年）との比較

| 施設    | 年間切除数 |    | 年齢   |      | 男女比  |       |
|-------|-------|----|------|------|------|-------|
|       | 今回    | 前回 | 今回   | 前回   | 今    | 回 前 回 |
| 函館五稜郭 | 117   | 89 | -    | -    | -    | -     |
| 山本組合  | 49.3  | 42 | 66.6 | 63   | 2.43 | 2.1   |
| 鹿角組合  | 22.2  | 24 | 69   | 65.2 | 2.3  | 2.3   |
| 県立二戸  | 22.3  | 22 | 68.7 | 66.1 | 2.05 | 1.7   |
| 県立久慈  | 24    | 24 | 67.2 | 64.8 | 2.29 | 2.4   |
| 県立宮古  | 37.7  | 46 | 67   | 58.0 | 2.70 | 2.5   |
| 県立釜石  | 24.7  | 23 | 68   | 63.5 | 2.33 | 2.4   |
| 北上済生会 | 14.5  | 30 | 68.1 | 64.7 | 2.22 | 2.1   |
| 盛岡赤十字 | 42.5  | 47 | 68   | 63.7 | 2.22 | 2.3   |
| 岩手医大  | 74.4  | 61 | 66.3 | 62.1 | 2.18 | 2.1   |

図3

### 術式

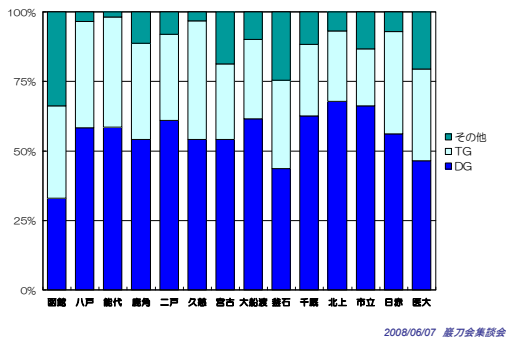


図5

### 5年生存率

| 施設      | Stage IA | Stage IB | Stage II | Stage IIIA | Stage IIIB | Stage IV | Total |
|---------|----------|----------|----------|------------|------------|----------|-------|
| 八戸日赤    | 90.6     | 86.8     | 56.4     | 38         | 42.5       | 24.6     | 67.6  |
| 山本組合*   | 100      | 92.8     | 73.7     | 64.3       | 25.0       | 4.3      | 75.3  |
| 鹿角組合    | 89.6     | 70.4     | 77.4     | 33.6       | 20.0       | 6.8      | 62.6  |
| 県立久慈    | 90.6     | 80.3     | 59.2     | 34.8       | 8.5        | 0        | 59.1  |
| 県立宮古    | 92.6     | 88.8     | 77.3     | 43.3       | 36.0       | 10.2     | 66.8  |
| 県立釜石    | 95.2     | 92       | 85.7     | 46.7       | 45.6       | 0        | 56.6  |
| 県立千厩    | 88       | 91       | 92       | 66         | 0          | 0        | 78.0  |
| 盛岡市立    | 94.7     | 84.3     | 50.1     | 22.0       | 31.0       | 0        | 60.6  |
| 盛岡赤十字** | 100      | 88.9     | 80.0     | 42.9       | 42.9       | 14.6     | 69.5  |
| 岩手医大    | 89.9     | 81.8     | 70.0     | 55.0       | 26.5       | 7.1      | 68.2  |

\* 他病死を含まない  
\*\* 2004-2007の4年生存  
岩手県がん登録 59.9%

図7

### 集積期間、年間切除数（平均）、年齢、男女比

| 施設    | 集積期間      | 年間切除数 | 年齢（平均）       | 男女比      |
|-------|-----------|-------|--------------|----------|
| 函館五稜郭 | 2006-2007 | 117   | -            | -        |
| 八戸赤十字 | 1998-2007 | 38.5  | 65.5 (21-90) | 2.32 : 1 |
| 山本組合  | 2000-2007 | 49.3  | 66.6 (35-89) | 2.43 : 1 |
| 鹿角組合  | 1998-2007 | 22.2  | 69 (30-91)   | 2.30 : 1 |
| 県立二戸  | 1998-2007 | 22.3  | 68.7 (31-98) | 2.05 : 1 |
| 県立久慈  | 1998-2007 | 24    | 67.2 (31-91) | 2.29 : 1 |
| 県立宮古  | 1998-2007 | 37.7  | 67 (35-91)   | 2.70 : 1 |
| 県立釜石  | 1998-2007 | 24.7  | 68 (25-91)   | 2.33 : 1 |
| 県立大船渡 | 2003-2007 | 36.4  | 69 (36-88)   | 3.14 : 1 |
| 県立千厩  | 1998-2006 | 12.4  | 69.7 (31-90) | 2.86 : 1 |
| 北上済生会 | 2003-2006 | 14.5  | 68.1 (25-88) | 2.22 : 1 |
| 盛岡市立  | 1998-2007 | 16.1  | 69 (32-92)   | 2.29 : 1 |
| 盛岡赤十字 | 1998-2007 | 42.5  | 68 (36-90)   | 2.22 : 1 |
| 岩手医大  | 1998-2007 | 74.4  | 66.3 (30-95) | 2.18 : 1 |

2008/06/07 巖刀会集談会

図2

### Stage

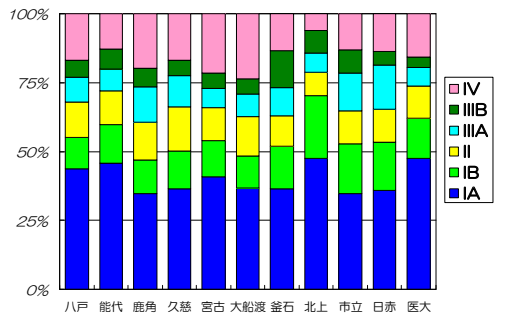


図4

### 術式（前回との比較）

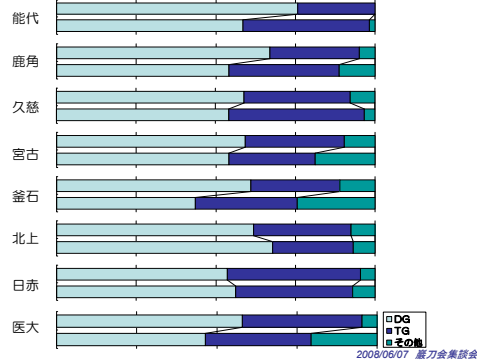


図6

### 5年生存率の比較

| 施設   | 今回   | 前回   |
|------|------|------|
| 山本組合 | 75.3 | 84.5 |
| 鹿角組合 | 62.6 | 50.8 |
| 県立久慈 | 59.1 | 66.9 |
| 県立釜石 | 56.6 | 56.5 |
| 岩手医大 | 68.2 | 65.0 |

2008/06/07 巖刀会集談会

図8



## 平成20年（2008年）からの研究活動について

### 西塚 哲

外科学講座分子治療研究室は平成20年1月に実質的なスタートを切りました。研究室で行っている活動は、①基礎実験・仮説検証、②競争的資金の獲得、③世界標準となる physician scientistの育成、の三つを柱としています。①では主に培養癌細胞を用いたin vitro（試験管内）の実験から、分子生物学、データ解析用コンピュータプログラミング、リレーショナルデータベース作成、などを行っており、内容は多岐に渡りますが、複雑な病態を把握するには多面的なアプローチが必要です。②独創的、生産的な研究を行うには経済的に独立していることと、よりよい研究として認められたという事実が必要です。「競争的資金」とは民間や公的団体が優れた研究に配分する研究費のことで、大学間の競争力を表す指標としても用いられています。複数の申請書が識者の査読により選択される（通常採択率は5～20%）、文字通りの狭き門です。本学全体でも競争的資金獲得額の増加を最重要課題のひとつとして掲げており、研究室では書き方のノウハウや資金の性格について学びます。③Physician scientistと



いうのは聞き慣れない言葉ですが、「研究する臨床医」というのが近いニュアンスかも知れません。米国では職種として明瞭に認知されていますが、国内でも同様の研修プログラムが見られるようになってきました。外科で長年に渡り行ってきた学位取得のプロセスはこれらと非常に近く、伝統を継承しつつシステムとしての確立を目指し知識を基にした考え方や問題解決ができる臨床医の育成を目指します。

以上の三つの柱を基に、「培養癌細胞を用いた抗癌剤感受性データベース（石田・西塚）」、「抗癌剤反応性蛋白変動に基づく感受性予測アルゴリズムの開発（石田）」、「抗癌剤耐性細胞集団の単離とその分子生物学的プロファイル（野田）」などでは蛋白・細胞レベルでの研究を行い、「フォスファターゼ遺伝子の変異による癌の生物学的特性の検証（岩谷）」では簡便にできるDNAの変異検出技術を使って癌の悪性度や治療抵抗性の新たな診断法を目指しています。また、研究室での最新の実験結果を集約・整理するための「リレーショナルデータベースASKMD2.0（野田）」の開発も始まりました。

我々は、外科における研究は総合治療学としての外科臨床の日常に対してヒントを与えるものである必要があると考えます。近年普及してきた術前集学的治療や分子標的薬の効果判定、また臨床検体を用いての薬剤感受性予測は我々がその発展を担うべき分野です。さらに、問題を提起し、解決への仮説を立て、それを検証するという回路を構築できるような研究を進めていくことを今後の目標として掲げています。

せていただいております。

渡米前、「サンディエゴへ行きます」というと、「は？サンチャゴ？」とよく聞かれましたが、サンチャゴはチリの首都です。全く違います。

サンディエゴについては確かに日本からの直行便が無く、マイナーな感じもありますが人口は実に133万人、全米第7位、カリフォルニアではLAに次ぐ人口の多さの大都市です。ここサンディエゴにはメキシコとの国境がありますが、そもそもカリフォルニア州はメキシコの領土だったのをアメリカが侵略して得た土地なので、非常にラテンの香りがします。



街のあちらこちらに“ゴンザレス”がいます。マイナーとは言いましたが、古くは大ヒット映画「トップガン」の舞台（実際太平洋側最大の軍港や飛行場あり）として、最近ではWBCの舞台（ペトコパーク、もちろん行きました）として、知る人ぞ知る場所です。一方アメリカ内では、その気候や住みやすさから、“America's Finest City”、“全米で最も住みたいエリア”としてすごく人気が高いところです。そしてなんとと言っても“ハイテクの街”というだけあって、バイオ、製薬、医療機器の企業がどんどん集結している都市でもあります。以上のような背景を持つためここサンディエゴは多様な人種より構成されています。前述したように、ゴンザレス系（ヒスパニック系）の方が多いのですが、それに迫る勢いで勢力を伸ばしているのが、韓国、中国を中心とするアジア系のヒトビトです。

さて、私の通学しているUCSD、ラボについて話したいと思います。UCSDキャンパスはかなり広大で2,040エーカー（約8000,000㎡）あります。未だに拡充、いや、膨張し続けております。宇宙のように。（ちなみにIMU矢巾キャンパスは182,200㎡です）。ここにきて半年以上経ちますが、まだ十分の一も観ていません。

サンディエゴ同様、UCSDも知名度は低いかもしれませんが、実は、利根川進先生を始めとするノーベル賞受賞者を多く輩出する大学として有名ですし、現在も数人のノーベル賞受賞者が直々に学生に教育しているそうです。昨年のノーベル化学賞受賞者のProf.チェン（Roger Y. Tsien）はよく小セミナーでお見かけしますが、人の良さそうな方で、可哀想なくらい他のラボの方にいぢられてます。当UCSDをはじめ、おなじみのUCLA、本校UCB（バークレー）、医学分野専門UCSF（サンフランシスコ）、などのUniversity of California系列は研究に比重を置いた“研究型大学”らしいですが、特にUCSDは土地柄必然かなという気がします（後述）。

当ラボについて私のいるラボは、主任研究院PIがProf. Xu（シュー）、中国人ですが、24歳でHarvardでPhDを取得しMITでポストドク、なんと27歳でUCSDにラボを持ち今に至る、という超デキルヒトらしいのです。Xuラボの構成員は



4月初めブライスキャニオンに行ったときの物です、寒かったけどすごかった。

ボス以外15人のボスドク&リサーチャーと3人の院生という大所帯です。ボスドク&リサーチャーのうち8人が中国、4人が韓国、イタリア、ロシア、日本（小生）がそれぞれ1人ずつ、という構成ですので時々やかましいですが、普段は、淡々と研究を行っております。大きなテーマはボスから与えられますが、実験の組み立ては自分で考え実行するという状況で、皆さん独立してます（凄、いやこれがアメリカでは普通なのか？）。でラボの主要研究テーマは「幹細胞が自身の自己複製能と遺伝子安定性を如何に保つ事ができるのか」というものです。最近iPS細胞が何かと話題ですが、安全性の問題が完全に克服されないうちはやはり再生医療のツールとしては胚性幹細胞、ES cellが主役であろうと考えられます。オバマ新大統領もES細胞研究への予算捻出凍結解除を宣言し、サブプライム不況下にしてはやや明るいこの分野です。まあ、あとはこの研究成果を日本に帰ったときにどの様な形で生かせるかが問題、です。

Scienceとふれあうには、ここサンディエゴは、非常に良い環境だなと思います。研究型大学としてUCSDは土地柄必然、と前述したのですが、ここサンディエゴの、風光明媚なラホヤ（La Jolla）には、UCSDを中心としてソーック研究所、スクリップス研究所、スクリップス海洋研究所、バーナム研究所、などなど、（scientific nestとでもいうべきか）とんでもない施設が集まり、そこから発信される情報をいち早く取り込み共同で新製品、薬剤を売り出したいと考える医薬品メーカー、医療機器メーカーが集まる（産学協同）、そんな土地なのです。当然、共同のセミナーがよく開かれます。UCSDだけでもとにかくセミナーが多いのに、です。やたら多い。biologyだけでもみんなの興味は千差万別（つまり生物学といっても植物、昆虫、は虫類、哺乳類、ヒト、環境、等多岐にわたる）なので複数のセミナーが同じ日にかぶる事はざらです。頻度的には医療安全講習会と同じくらいです（Sマークはもらえませんが）。もし興味があればこの地域への留学、お勧めします。

以上、駆け足で私の留学先の紹介をさせていただきました。

## サンディエゴ通信

### 小笠原 聡

拝啓

皆様お変わりございませんでしょうか。

小生、小笠原聡は2008年8月より留学の機会をいただき現在、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）の分子生物学部門というところで幹細胞の分子生物学について勉強さ



最後に、  
なぜに、私のように若くもない人間が今更国外留学をしているのか不思議に思われる方もいらっしゃるでしょうし、あるいは、「猫の手も借りたいようなときに自分だけのうのうと、」とお怒りなされる先生もいらっしゃると思います

す。この場をおかりして、陳謝、感謝申し上げたいと思います。  
皆様、すみません。そして本当にありがとうございます。  
何かのおりにこちらへいらっしゃるときは是非声をかけていただければと思います。  
それでは、また会う日まで。

## フロリダから

### 高橋 正浩

若林教授と外科学講座の先生方のご高配を賜り、アメリカ・フロリダ大学、肝胆膵・移植外科に2008年8月より留学しております。

フロリダ州はアメリカ南東端に位置し、西はメキシコ湾、東と南は大西洋に面しており、愛称がSunshine Stateといい温暖な気候の州です。その州のほぼ中心にフロリダ大学は位置しています。敷地面積約8.1km内に建物が900以上、教職員4,500人、学生数51,000人以上の巨大な大学で、アメリカ5大学の1つとなっています。敷地内はフットボールスタジアム、ゴルフコースまで有し、車で移動してもかなりの距離があります。

私はHealth Science Center, SHANDS HOSPITALに属し、主に移植のお手伝いや手術見学をさせていただいています。准教授で私のPrincipal investigator (P.I.) である藤田士朗先生にご指導いただき、移植ドナーの臓器摘出手術（Procurement transplantation of Donor）に同行しております。摘出先の病院までの移動手段は、大学病院が所有している小型ジェット機がチャーターしたリムジンです。初めてのprocurementはジェット機で移動し、マイアミのHoly Cross Hospitalで行いました。我々腹部外科の他に心臓・肺のpurocurementに來た胸部外科と一緒に入り、開胸・開腹が同時に始まります。移植の際は専門のME があり、臓器灌流と臓器搬送を手伝ってくれます。

アメリカの医療はparamedical (co-medical) が多く存在し、それぞれが専門的に働いています。例えば病院食の配



膳、バイタルサインをチェックする等は看護師の仕事ではなく、専門の担当者の仕事となります。驚いたことに病棟回診の際は各科のドクターの他にPhysician's assistant (PA)、Coordinator等も一緒に回診し、それぞれがChiefに積極的にコメントする場面が多々みられました。

私生活では、5歳の娘がkindergarten、4歳の息子がpreschoolに通っています。二人とも全く英語が話せなかったのですが、通園初日から友達と楽しく遊んでいるようで、子供のたくましさ、順応力に感心しております。娘は黒人のボーイフレンドまでできたようです。週末は家族でテーマパークやビーチに出かけ、思い出作りをしています。

今回の留学でアメリカの医療を直に感じる機会を与えていただき、今までとは違う視点から医療について考えるようになりました。また他大学から留学に來ている先生方と親交をもつことで、色々と刺激を受けています。帰国した際には、この経験を患者さんのためにまた岩手医大の肝臓移植のために少しでもお役に立てるように、さらにアメリカでの経験を積みたいと思っております。



## 第3回みちのくウインターセミナーに参加して

### 阿部 正

昨年の第2回「みちのくウインターセミナー」に引き続き今年も書いています。昨年のメンバーが多数参加されるということで楽しみにしておりましたし、早くから日程が決まっておりましたので、年度末の煩わしい仕事から解放されたくてセミナー初日の2月7日土曜日の早朝から安比のゲレンデに立ちました。学会等のつごうで若林教授、池田腫瘍センター長らが初日参加できず、川崎市立井田病院の川原英之先生ご夫妻と医局の中島潤君、馬場誠朗君と晴天、極寒のもと午前中ゴンドラ6本休みなしで存分に滑りまくりました。最後は腿と膝がガクガクでしたが、満足感いっぱいホテルにもどりました。昼は午後の幹事会とセミナーのことが頭をよぎりつつも、悲しい性でしょうか運転手がいる安心感もあってついつい数杯ジョッキを空けてしまいました。昨年のこの会で不運ならい怪我をされた川原先生の奥様には開業医としてお忙しい中、懲りずに参加していただき元氣な滑りをみせていただきました。ぜひとも毎年参加していただきたいと思います。

盛岡グランドホテルで開催されたセミナーでは、睡眠導入剤の敵と戦いながら、千葉大学松原久裕教授の「食道癌のトランスレーショナルリサーチ」、秋田大学佐藤誠二准教授の「腹腔鏡下胃癌手術」、弘前大学鳴海俊治講師の「当科における生体肝移植の経験」、京都大学坂井義治教授の「内視鏡下大腸癌手術」の4題のすばらしい特別講演を拝聴致しました。昨年もそうでしたが4人の講演は30分にしっかりコンパクトにまとめられてわかりやすいご講演でした。2題が鏡視下手術でしたがそのハイビジョン画像のきれいなこと、解剖がよくわかること、今まで視野がとれず手探りでやっていた私には別世界でした。PDを含むほとんどの開腹手術がラパロで行われていますので、いずれ標準手術が鏡視下手術にきり替わるのも時間の問題のような気がしました。

そのあとバスで安比グランドに場所を移しての懇親会です。その席で若林教授から、開会にあたって「日本の最高級のスキー場で最高の雪質を堪能してください」とご挨拶がありました。例年のように懇親会ではスキーの大好きなお客様方のすばらしいご挨拶があり、例年通りプレミアムワイン（オーパスワン、サシカイア、オルネライアなど）も準備されてスキー談義に花が咲きました。久慈病院もスキーが盛んですから私のほかに下沖収君（指導員・テクニカル）、小松英明君、武田大樹君、吉田雅一君の総勢5人で参加しました。

翌朝、最高のスキー場で最高の雪質を求めて「朝食前の誰も滑っていないゲレンデに最初のシュプールを刻む」つもりで二日酔いにもかかわらず若林教授をはじめ多くのゲストが7時30分にゴンドラ前に集合しました。しかし安比はシーズンに1度あるかないかの暴風雪。開けば千歳空港も閉鎖とか。案の定ゴンドラはストップ、30分待たされた挙句にセンターウッド1本運転開始では満足できるわけがない。もちろんリフトは超混雑、1-2本滑って朝食とりながら天候回復を待つも叶わず。「いったい誰のせいだ？」その鉦先はもちろん若林教授へ。朝食後、嵐の中再びゲレンデに立つも、警報が出るほどの風雪にザイラーゲレンデへ避難しました。こちらは比較的空いていて何本か新雪を楽しむことができゲストの不満もやや解消したようでした。ただ昼近くになって猛吹雪で視界ゼロ、顔も凍りつきさすがの教授もスキー気遣いのゲストも「上がろう」ということになりました。



久慈病院スキーチームのコーチングスタッフ(阿部、下沖)

それにしても驚いたのは、視界不良のために安比高原の隅々まで熟知している私がけっこうなスピードでコースを先導する中、森昌造先生や尾形佳郎先生が私をどんどん追いついていくことです。後期高齢者達のパワーに圧倒されながら私が後ろを追いかけていく始末でした。森先生は喜寿を迎えられるそうですよ。Unbelievable!!

千葉大の松原教授のゴグル（紛失したらしい）も付けずに猛吹雪の中をすべり通した根性にも脱帽しました。私の仲良しライバルの竜先生（千葉県がんセンター）や川原先生（川崎市立井田病院）は夏場からのトレーニングのせい、さすがに若々しいすべりを披露してくれました。なんといっても竜先生（Back Country Ski）、川原先生、私（1級）、池田健一郎君（テクニカル）の4人は森昌造先生（指導員）と故藤巻雅夫デモ（富山医薬大2外名誉教授）の愛弟子ですからね。川原先生はトライアスロン完走者、全日本スキーマスターズ6位入賞の鉄人ですが彼より5つも若い私はライバルに負けていません。昨年もそうでしたが、この会に参加すると本当に元氣が出ます。なぜなら久慈病院では、もうすぐ還暦で最年長医師の私は年齢をいやというほど感じさせられるのですが、この会ではまったく青二才扱いですから。「ホー、阿部もそんな年になったか。ワッハハハハハ」誰って？もちろん喜寿のおじいちゃんです。



## 佐藤信博先生を悼んで

幾愛あふれる温厚な方で、後輩を良く面倒みてくれて誰からも慕われている外科医でした。

斎藤 和好

我が第1外科全員の誇りであった、佐藤信博先生を残念ながら2月6日に失いました。医局の全員が悲嘆に暮れております。大手術を受け、立派に克服されての、術後約5年間の医療人としての態度は実に見事でした。

思い起こしますと、先生は昭和59年（1984）同級生3人と共に、旧第1外科・森昌造教授のもとに入局されました。すばらしく元気で、活発で粒揃いの同級生達でした。

先生は石田薫先生をトップとする食道癌グループの一員として主に森教授が御執刀になった食道癌手術の、特に難しい手術後管理を本当に昼夜問わず、24時間体制で世話をして、手術を成功に導いてくれました。特に、森教授御在任7年間の手術死亡率が0パーセントであったことは、驚きでもあり全国に誇れる成績であったことを今もはっきりと思い出します。

先生は、多忙な臨床面だけでなく、研究面でも素晴らしい業績を挙げられました。学位論文は、“食道癌手術後早期循環動態と低酸素血症の検討（1990）”と題するもので、食道癌患者さんの高齢化、術式の拡大化傾向にある中で術後肺合併症・循環動態の定量化・低酸素結症の軽減を計るために、従来以上に積極的な輸液が必要であることを説いた論文でありました。この論文は多くの患者さんの救命にも連がり、第41回日本胸部外科学会総会に於いてyoung Investigator賞に採択されました。

先生の研究熱心さは更に続いて、世界的に有名なジャーナルであるAnnals of surgery2002年に

“Randomized study of the benefits of preoperative corticosteroid administration on the postoperative morbidity and cytokine response in patients undergoing surgery for esophageal cancer”と題する論文を発表しました。この御前予防的ウルチコステロイド投与法は、高侵襲を伴う手術を受けた患者さんの死亡率を軽減させるという論文であり、国内のみならず全世界からも注目を受け、数多く引用され、現在でも種々の学会講演の中でDr.Satoのお名前が出てきます。我々は、その都度大変誇らしい気持ちで先生を

思い浮かべております。

このように、医局で臨床、教育、研究を後輩の指導と共に熱心に続けておりましたが、先生は2002年4月、高度救命救急センターの遠藤教授から強く請われたため、惜しくもセンターに移っていただきました。期待に違わず立派にやっていただきました。1外の同門会誌（2005年）の、故八重樫泰法先生の追悼文の中で着任早々手荒い歓迎（緊急手術）を受けたこと、八重樫先生が八戸日赤病院での10年間勤務により、想像以上に懐深い“外科医になって帰ってきてくれたこと”、患者さん1人1人の“命”に携わったこと等、先輩として本当にやさしく、追想してくれています。その文の最後に、“今はお別れしますが、いずれ再会しましょう・・・”と結んでおられました。こんなに早く、その時期がやって来ようとは・・・。御本人は元より誰もが想像だに出来なかったことでした。悲しさで一杯であります。

先生ご自身は大手術の侵襲・苦しさにも耐えて頑張ってくれていました。本当にご苦労様でした。ありがとうございます。

“先生は術後に、新婚旅行で訪れたという、ケニアに再び奥様と旅行されたということ、ナイロビ在住の岸田袈裟さんから伺いました。非常に良かったなあ・・・、と思っております。

先生は、(外科)教室年報(2007)の中で高度救命救急センターを次のように紹介しております。“外科チームではあるが、あらゆる救急疾患、重症疾患の窓口と考えているので、適切な専門医(科)と連絡をとりますので、24時間いつでも、どのような病態でもご相談下さい。デンワは佐藤信博医師か小鹿雅博医師を呼出して下さい”。救急医療の難しさが、社会問題化している時代に、本当に医師、救急専門医の鑑のようなお方でした。

私自身は、先輩、1外教室の主宰者として術後もさっぱりお世話、お見舞もできませんで、申し訳ありませんでしたが、後輩の小鹿先生が、親身にお世話してくれたこと、医局同級生の杉村先生が最期を看取ってくれたことに心から感謝申し上げます。

佐藤信博先生は、幾愛あふれる温厚な方で、後輩を良く面倒みてくれて誰からも慕われている外科医でした。まだまだお若く、これから前途洋々たる未来が開けているという時期に挫折してしまうとは・・・本当に残念でなりません。お母上、久美子さん、御子様達を天上よりお守り下さい。(合掌)

これもアフリカでのサファリ。ジープの上には左から玉沢佳之先生、木村祐輔先生、のぶ先生、肥田圭介先生。いつもみんなの中心にいました。



大好きなアフリカ。とても幸せな表情です。



のぶ先生がこよなく愛したスコッチウィスキー「BOWMORE」。スコットランド西南、大西洋に浮かぶアイラ島のボーモア蒸溜所で（玉沢佳之先生、大塚幸喜先生同行）





98年に行われた日本消化器外科学会で国際交流奨励賞を肥田圭介先生とともに受賞。のぶ先生の受賞論文は「食道癌手術侵襲に対するメチルブレドニゾン術前投与の効果に関する検討」。左から肥田圭介先生、恩師の斎藤和好先生、会長の二川俊二先生。（第52回日本消化器外科学会、東京、1998）

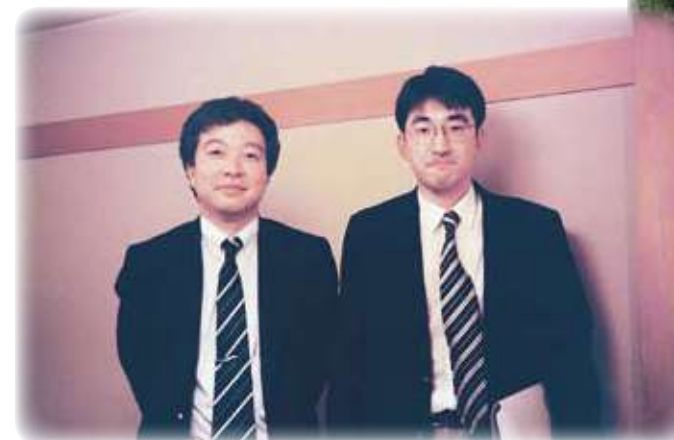


ロスカボス（メキシコ）で佐々木章先生と。海外学会へは、章先生とご一緒する機会が多かったようです（International society for interferon and cytokine research San Diego, October, 1997）



毎年的一大イベント「外科忘年会」で、こんな一面もありました。中央のがぶ先生で右は池田健一郎先生です（1999）

イグアスの滝にて。左から、佐々木章先生、のぶ先生、木村祐輔先生、中嶋潤先生（31th World congress of the international college of surgeons Buenos Aires (Argentina), November, 1998）



大塚幸喜先生が入局2年目で、初全国学会デビュー。会場からの質問に全く答えられず、その夜お寿司屋さんで反省会。のぶ先生に「次があるよ！」（第31回外科代謝栄養学会、大阪、1994）

多くの医師やスタッフから信頼され、多くの後輩の学位を指導し、多くの食道癌患者を救ってきた。

## 池田健一郎

平成21年2月6日、再発後1年にも及ぶ苦しい闘病生活の後、御家族に見守られながら佐藤信博先生が夭折された。亡くなる数日前にご自宅に伺った。苦しい呼吸の中、ただ「ありがとう、ありがとう…」と繰り返していた姿が忘れられない。どんなにか悔しく、心残りであったか。ただ手を握って涙する以外、何も出来ない自分が情けなかった。享年49歳。救急外科医として更なる活躍が期待されていた矢先のこと。亡くすにはあまりに惜しい先輩だった。本当に残念でならない。

信博先生は昭和59年に森昌造教授が主宰する第一外科に入局された。当時の森外科は、食道癌の拡大リンパ節郭清を全国に先駆けて取り組み、過大侵襲を伴う食道癌術後管理は医局の重要な研究テーマだった。食道癌グループは石田薫先生をチーフに、呼吸循環管理と栄養管理の研究グループに分かれていた。信博先生は呼吸循環管理のグループに所属し、連日ICUに泊まり込みながら、重症患者の診療・研究を行っていた。先生は決して偉ぶることのない温厚な外科医であった

が、スワングアンツを引っ下げ院内を歩く姿は、2～3年目にして既に重症管理のエキスパートの風格が備わっており、1年後輩の私は外科医として大変羨ましく思ったものである。森教授から斎藤和好教授に代わられた後も、先生は食道癌の臨床と侵襲学の研究を続けられた。中でも集大成である術前ステロイド投与は、2002年のAnnals of Surgeryに掲載され、唯一のRCTとして食道癌診断・治療ガイドラインでも取り上げられている。術前ステロイド投与を含めた長年の研究成果は、実際の臨床でも逐次応用され、そのまま食道癌術後管理の歴史になっていると言っても過言ではない。先生はその卓越した先見性と独自の発想によって、研究を実臨床に反映させることができる数少ない臨床医であり研究者であった。そして、救急センターに移動するまでの18年間、多くの医師やスタッフから信頼され、多くの後輩の学位を指導し、多くの食道癌患者を救ってきた。ずっと一緒に仕事をしてきて、先生から受け取るものがあまりに多かったのに、恩返し出来ずに先立たれてしまい、正に痛恨の極みである。

今はただ、苦痛から解放された先生が安らかに眠ることを祈るばかり。

信先生、お世話になり本当にありがとうございました。そして、天国から御家族と我々を見守っててください。合掌。



岩手医科大学医学部 外科学講座  
後期臨床研修プログラム

後期研修担当 水野 大

卒後初期臨床研修制度導入時から数年は所謂「外科離れ」の状態が続き、将来の教室運営に危機感を募らせていましたが、近年、新卒者（社会人大学院）だけでなく学外での初期研修終了後に入局あるいは大学院入学を表明する研修医も増えており、一安心している次第です。しかし、一方で、入局あるいは大学院入学までの各人の研修内容に大きな個人差がある上、現行の外科系専門医制度は二階建て方式となっているため、各人のこれまでのキャリア、将来に描いたキャリアパスに合わせた多数の（オーダーメード型）後期研修プログラムを提供しなくてはならないのが現状です。

幸い、当科は虫垂炎・鼠径ヘルニアといった日常一般外科から、内視鏡下手術、生体肝移植等の高度先進医療まで豊富な症例を経験することができるとともに、化学療法、緩和ケアにも力を入れており、診断から看取りまでの一貫した診療を経験できる上、県内外に豊富な関連病院を有しており、大学病院とは異なる地域医療に根ざした総合臨床外科医としての研修も可能です。さらに外科系各診療科（救急科、心臓血管外科、呼吸器外科等）、関連各科（麻酔科、消化器内科、小児科等）との連携により、個々の研修医の希望を可能な限り取り入れながら、外科の手技及び外科基礎知識はもちろんのこと、消化管内視鏡手技や緩和ケアの基礎知識等の関連分野まで横断的に効率よく習得できる、以下に示すようなオーダーメード研修プログラムの提供が可能であることをアピールし、岩手医科大学、岩手県出身者はもちろん、広く全国から外科を志す後期研修医を募集しています。

卒後初期臨床研修制度導入後の入局状況

| 卒業年度 | 入局総数 | 初期臨床研修先 |      |     |
|------|------|---------|------|-----|
|      |      | 医 大     | 関連病院 | 他施設 |
| 平成16 | 4    | 1       | 2    | 1   |
| 17   | 4    | 3       | 2    | 0   |
| 18   | 4    | 0       | 2    | 2   |
| 19   | 2    | 0       | 1    | 1   |
| 20   | 4    | 2       | 2    | 0   |
| 21   | 6    | 2       | 3    | 1   |
| 計    | 24   | 8       | 12   | 5   |

現在の研修・入局パターン

| 卒後1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | 6年目 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 医大    | 入局  |     |     |     |     |
| 関連病院  | 入局  |     |     |     |     |
| 他施設   | 入局  |     |     |     |     |
|       | 他施設 | 入局  |     |     |     |
|       | 他施設 |     |     | 入局  |     |
|       | 他施設 |     |     |     | 入局  |

専門領域決定済みコースの1例

|       |                                                                                                      |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卒後1年目 | ・卒後初期臨床研修（学内または学外）<br>・外科学会入会、修練開始手続き<br>・専門学会入会                                                     |
| 2年目   |                                                                                                      |
| 3年目   | ・大学24か月（専門領域及び関係するグループ優先に18か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングを行う）<br>・学外関連病院 12か月（専門医に関係する症例が多い施設） |
| 4年目   |                                                                                                      |
| 5年目   |                                                                                                      |

5年目終了後 外科専門医試験

|       |                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------------------|
| 卒後6年目 | ・大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ）<br>・学外関連病院 12～24か月（専門領域に関係する症例が多い施設） |
| 7年目   |                                                                  |

7年目終了後 各専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定

専門領域未定コースの1例

|       |                                                                                                 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 卒後1年目 | ・卒後初期臨床研修（学内または学外）<br>・外科学会入会、修練開始手続き                                                           |
| 2年目   |                                                                                                 |
| 3年目   | ・大学24か月（上部、下部、肝胆膵・内視鏡、乳腺、小児、救急を各3か月、呼吸器外科、心臓外科、麻酔科を各2か月、この間に内視鏡トレーニングも行う）<br>・学外関連病院 12か月（一般外科） |
| 4年目   |                                                                                                 |
| 5年目   |                                                                                                 |

5年目終了後 外科専門医試験 専門領域決定（専門学会入会）

|       |                                                                    |
|-------|--------------------------------------------------------------------|
| 卒後6年目 | ・大学 12か月（専門領域及び関係するグループ優先）                                         |
| 7年目   |                                                                    |
| 8年目   | ・大学 12～24か月（専門領域及び関係するグループ優先）<br>・学外関連病院 12～24か月（専門領域に関係する症例が多い施設） |
| 9年目   |                                                                    |
| 10年目  | ・大学 12か月（専門領域）                                                     |

10年目終了後 各専門医試験 消化器外科では専門臓器（グループ）決定



1

January

関連病院連絡会議 および新年会 (2008.1.5)



年頭所感を話される  
若林教授



佐々木章准教授



大塚幸喜講師



新田浩幸講師



小川彰学長より新年の  
ご挨拶を頂きました。



西塚 哲講師



多くの先生方にご参加いただきました。



斎藤和好先生による乾杯の御発声



今年も一年よろしく願いいたします。



第2回みちのくウィンターセミナー (2008.1.19-20)

全国からお越しいただいたご高名な先生方から、直接、貴重なお話を沢山お伺いすることが出来ました



病診連携協議会 (2008.4.11)

4

April



兵庫医科大学 笹子三津留教授  
より、「胃癌術後補助療法と最新  
の知見」の特別講演を頂きました



司会の池田健一郎腫瘍センター長



コメンテーター 高金明典先生



肥田圭介講師



柏葉匡寛講師

巖刀会総会および懇親会 (2008.6.5)

6

June



静岡がんセンター寺島雅典先生より「胃癌外科治療今昔」と題しての特別講演を頂きました。



集合写真



新入医局員紹介。今年はなんと8人も！これから一緒にガンバロー！



懇親会風景



6

June



大分大学 北野正剛先生より  
「肥満症に対する外科治療の現状」  
についての特別講演を頂きました。

## 第1回岩手肥満治療セミナー (2008.6.23)



本学、糖尿病代謝内科 佐藤 譲教授、金子能人先生とともに、肥満治療についてパネルディスカッションを行いました。



沢山の方々ご参加いただき、大変盛況でした。

## 学生手術実習 (2008.9.27)



今年も、学生に大人気の豚を用いた手術実習を3回行いました。



ホラ！もうすぐ胃がとれるよ！



ヨシ！もうちょっとこっちだ！

針は持針器にこう付けるんだよ。

## 第2回 肝臓内視鏡外科研究会 (2008.9.1 横浜)

当科若林教授が当番世話人を務め、肝臓内視鏡外科研究会を開催しました。



懇親会記念写真

9

September



当番世話人 若林教授



先生  
Juan Santiago Azagra, M.D.



先生  
金子弘真教授



先生  
Alan Joseph Koffron, M.D.



先生  
Ho-Seong Han, M.D., Ph.D



先生  
Daniel Cherqui, M.D.



第3回肝臓内視鏡外科研究会当番世話人の徳島大学 臓器病体外科学 島田光生教授



活発な討議が行われました。

## Word congress of the international Society for the Disease of the Esopagus (10-13 September 2008, Budapest, Hungary)



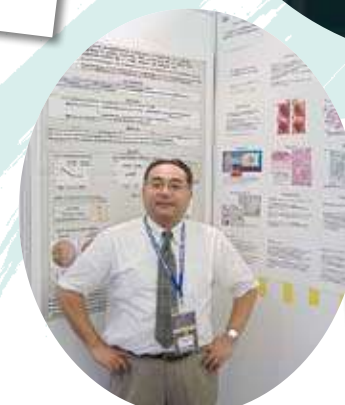
国会議事堂



池田先生と野田先生



池田先生と木村先生



どこからでもどうぞ



夜の鎖橋、ほんと綺麗！



第1回東北ヘルニア研究会 (2008.12.6)



県立千厩病院 遠野先生のご発表



沢山の方々のご参加いただきました。



当科 岩谷 岳先生の発表



座長の若林教授



聖路加国際病院柵瀬信太郎先生より特別講演を頂きました。



懇親会 「お疲れ様でした！」

12

December

第16回 外科侵襲とサイトカイン研究会 (2008.12.13)

全員懇親会：研究会前日に行われました。



若林教授挨拶



平澤博之先生より乾杯の御発声を頂きました。



北島政樹先生よりご挨拶を頂きました。

研究会



慶応義塾大学 北川雄光教授より「敗血症の診断・治療における最近の話題」についての特別講演を頂きました。



癌研有明病院消化器外科 比企 直樹 先生



国際医療福祉大学三田病院 消化器センター外科 吉田 昌 先生

医局 Recreation

北上川 川下り (2008.7.27)



今年も楽しかったね！



医局ゴルフコンペ (2008.10.5)



斎藤和名誉教授を囲んで、ハイ・チーズ！

医局対抗バスケット (2008.11.5)



残念！今年は2位でした。

医局忘年会 (2008.12.26)



イエーイ！



優勝チーム！



恥ずかしくなんかないぜ！



## 岩手県立二戸病院

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院は平成16年5月1日、現在地に新築移転・改称してから、早くも5年が経過しようとしています。平成20年の出来事としては、岩手県立福岡病院時代から当院外科を支え、日本医療機能評価機構病院機能評価（Ver 5.0）施設認定（平成18年12月）や地域がん診療連携拠点病院指定（平成19年1月）にご尽力をされた菊池俊弘先生が4月をもって奥州市国民健康保険まごころ病院へ転出し、岩手県立千厩病院より佐藤 一先生を外科長として迎えたことがまず挙げられます。したがって現在は、坂本隆（副院長）、佐藤 一（外科長）、菅原 聡（臨床検査科長）、川崎雄一郎（外科医長）の4名が常勤となっております。

当院の特徴は、対象医療圏として二戸市・一戸町・軽米町・九戸村の4市町村に加え、青森県田子町・三戸町も含まれることで、外科でも患者のニーズに応じた診療を遂行



するため、多くの応援をいただきたり行ったりしております。まず圏域では、手術応援と



して県立軽米病院から葛西敏史先生（火曜日午後）、県立一戸病院から石川 徹先生（月曜日午後）が来ています。また定期的診療応援として、柏葉匡寛先生（月曜日乳腺外来）、高橋正統先生（月曜日外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）を教室から派遣していただいております。その上、腹腔鏡下手術、肝切除などの際、症例に応じてそれぞれをご専門とする先生に手術のご指導をお願いしております。

当科からの診療応援としては、一戸病院金曜日外来（坂本）、九戸地域診療センター月曜日外来（佐藤・菅原）の他、軽米病院、一戸病院の手術応援を行っています。二戸病院を中核とするも相互の交流により圏域で一体となった外科診療を行っております。また、院内の診療体制では、通常の業務の他、NST・褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、外来がん化学療法支援などにおいて中心的役割を果たしています。

今後は、電子カルテへの移行、DPC病院への移行、医療機能評価再認定などが控えており、ますます多忙となることが予想されますが、スタッフ一同がんばって行きたいと考えております。教室のより一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



### <消化器病学会・外科学会>

1月に岩手県内6カ所の消化器病学会認定施設の一つに認定されました。指導医1名、専門医2名が診療に当たっております。

また、外科学会は関連施設に認定されています。

### <糖尿病教室・糖尿病外来>

当院は、岩手県内で4カ所の糖尿病学会認定教育施設の一つであり、毎月2回の糖尿病外来と年6回の糖尿病教室が開かれております。糖尿病教室には患者さんの他に地元の

保険推進員も参加しています。また糖尿病療養指導士の育成も着実に増えてきております。

### <NST・褥瘡関連>

平成20年4月から当院もNST稼働施設に認定されました。第1・3週にラウンドを行い、第2週は歯科ラウンドを二戸医師会の協力で施行しています。ラウンドでは他科の患者にも介入して、院内の栄養状態の管理を行っています。褥瘡については、湿潤療法・ラップ療法を取り入れて、低コストかつ早期回復が達成されてきました。

### <感染対策部門>

当院には3人のICDがおりますので、以前から感染対策の啓蒙に努めて参りましたが、ICTの立ち上げもようやく決まり、リンクナースの育成にも力を入れ始めました。今後は、細菌検査と抗生剤投与の適正化などに重点を入れていくつもりです。

### <安全対策部門>

毎週1～3木曜にはセーフティー部会を、第4週は安全対策委員会をひらき、インシデントレポートの分析や時系列解析などを取り入れています。

### <二戸病院への手術応援>

基本的には毎週火曜日に二戸病院へ手術応援を行ってい

## 岩手県立一戸病院

Iwate Prefectural Ichinohe Hospital

一戸町には、旧国鉄時代に奥中山峠越えに蒸気機関車を三重連結するための機関区があり、最盛期には人口26,500人とにぎわっていた町ですが、平成21年4月現在14,931人まで人口が減少しています。今では商店街は昭和の雰囲気の残る通りとして注目を集めています。県北では数少ない映画館である萬代館は改修され町営映画館として復活しました。また、国指定史跡である御所野遺跡は「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産暫定リストに登録されました。

現在の一戸病院は一般医療を担っていた県立一戸病院と精神医療を担っていた県立北陽病院が合併統合され、新病院が建設され平成12年4月より診療が開始されました。現在では1病棟の休止により一般48床、療養48床、精神225床、感染4床の計325床で、一般医療と精神医療の連携した診療を行っています。しかし一般科の多くは一人科長であり応援をいただきながら診療しています。

最近の明るい出来事は、平成21年に病院機能評価の施設

ます。（年間約50日の手術応援になります）

県立病院もご存知のとおり、機能分担・集約化が望まれています。また、今までの体制をそのまま維持することもだんだん難しくなっています。二戸病院は当地域の中核病院であり、癌拠点病院でもあるため、できるだけ応援を増やしていきたいと思っています。

### <佐藤先生の訃報>

軽米病院を長く支えて下さった佐藤信博先生が長い闘病生活の末にお亡くなりになりました。

私は10年以上佐藤先生と一緒に手術を行ってきましたが、本当に素晴らしい外科医で、当院でも沢山の命を救っていただきました。指導も熱心で、現在私が専門医等を取てきたのも、一重に佐藤先生の指導の賜と感謝申し上げます。ご冥福をお祈りします。

### <佐藤先生が当院で関わられた手術件数>

平成7年 51件、平成8年 62件、平成9年 74件

平成10年 70件、平成11年 65件、平成12年 74件

平成13年 68件、平成14年 72件、平成15年 59件

平成16年 40件、平成17年 55件、平成18年 40件

平成19年 37件

（平成7年からの小計767件、下線は葛西になってから。）



認定を受けたこと、内科医が2名に増えたことです。

平成19年より外科常勤医1名体制ですが、医局より当直外来応援、二戸病院より外来応援をいただき診療しています。

手術数は多くありませんが、他職種と連携し、褥瘡対策、NST、化学療法、緩和ケアに取り組んでいます。外科も療養病床を担当しており、近隣の老健施設、特養老人ホーム、福祉施設と共に高齢者の医療を担っています。

今後とも広域基幹病院である県立二戸病院と連携し当院は地域総合病院として高齢化社会に対応できる医療を目指します。



## 岩手県立久慈病院

Iwate Prefectural Kuji Hospital

2008年度、当院では「DPC」と「電子カルテ」導入といった大きな節目の年になりました。DPC、電子カルテの導入は医療の標準化、効率化といった面で大きなメリットがあるといわれます。が、反面、それぞれ不完全なものとして認識しないと医師のみならず、各職種の負担が増し、さらには患者さんを置き忘れて一人歩きしてしまうといったピットフォールも見えて来ます。常に地域にある中核病院であること、ITシステムの土台にはヒューマンイズムが不可欠であることを決して忘れず、患者さん・スタッフともに満足度が上がるような運用方法の工夫で、今後大きなメリットが享受できるものと思います。

外科についてご紹介いたします。2008年度のスタッフはソムリエの阿部正（院長）、スキー指導員の下沖 収（外科長）に加えまして、板橋英教先生、小松英明先生を派遣していただいております。また心臓血管外科／救急医学講座の皆川幸洋先生（救命救急科長）に救急、血管・肺外科を中心に活躍していただいております。医局からは小児外科外来として水野大准教授に第1水曜日、乳腺外来として柏葉匡寛講師に第3木曜日、それ以外の木曜日に武田雄一郎先生に応援を頂いております。また第2、第4水曜日後種市病院の荒谷宗充先生に手術応援をお願いしております。ご支援を頂いておりますこと、この場をお借りして感謝申し上げます。2008年の手術件数は421件、全麻263件で、内視鏡手術は73件でした。件数の趨勢は横ばいですが、急性虫垂炎の際だった減少がここ数年の傾向です。業績としては原著論文2編、全国学会発表15件で、そのうち研修医の発表が2件でした。論文発表に関しては、久慈病院方式のノルマを定め取り組んでいます、今後更なる努力が必



要だと感じております。外科関連では、がん診療連携拠点病院、乳がん学会関連施設、緩和医療学会認定研修施設、緩和医療学会暫定指導医（下沖）が新たに認定されました。板橋、小松両先生は外科学会専門医予備試験に合格、来年度は専門医として認定される予定です。

久慈病院は初期臨床研修病院として、多くの岩手医大卒業研修医を受け入れて参りました。平成20年度は2年目3名、1年目6名（武田、吉田の両名は外科）の研修医が、各診療科、救急センターにおいて研修を重ねております。今や久慈病院は研修医に支えられているといっても過言ではありません（指導医不足です・・・）。平成21年度も6名がフルマッチし、そのうち3名（川岸、真壁、八重樫）は外科入局を決めております。さらに他の研修医にも外科系志望者がおり、当科の役割は外科の基礎研修はもちろんですが、外科の楽しさと久慈病院の魅力を伝えることが最大の役割だと心得ております。通称、「外科集会所」での不定期な談話のほか、ソムリエ院長厳選のワインによる「初の会」や「論文のお祝いの会」などのイベントを行っています。さらには恒例のスキーツアーや医局行事、久慈病院野球軍団の中核をなしているのも外科スタッフです。昨今、暗い話題の多い医療界ですが、そんな中でも明るく元気な関連施設を目指して努力を重ねて参りたいと思います。今後とも医局、各関連病院からのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院は盛南地区の中核病院としてその機能を果たしていますが、ここ数年、急性期病院の経営状況は厳しいものがあります。この対策として、平成18年診療報酬包括化DPCを導入し、併せ、外来化学療法室、内視鏡センターを設置、クリニカルパスの推進、ジェネリック薬品への切替等を行いました。さらに、19年4月からは7対1看護規準を導入しました。これによる入院料単価の上昇が大きく、19年度は念願の黒字収支となり、CT2台、MRI、手術用顕微鏡、心血管造影装置などを新規に整備することができました。しかし、20年度は外来、入院患者数ともに減少が続き収支は辛うじて黒字、実質では赤字となりそうです。昨年来、入院患者数が減少しており、依然として入院患者の確保が重要課題となっています。

外科に関しては、現在常勤5名（旭 博史、杉村好彦、畠山元、馬場祐康、小川雅彰）、大学院（有末）1名で、病



床数が44（小児外科2を含む）です。病院受診患者数の減少から外科患者数も減少し、平成20年は1日平均外来患者数53人、平均入院数33人、平均在院日数は13.5日でした。しかし、手術症例数には大きな変化がなく、総数は658例（9例減）で、そのうち全身麻酔症例が509例（4例増）、内視鏡手術が123例（24%）、急患手術が80例（16%）、小児外科73例、PEG留置60例でした。また、外来化学療法室の月平均症例数は74例で、うち外科症例が52例を占めており、午前中担当医1名を当てています。症例数、内容ともに豊富で外科学会はもちろん消化器外科専門医取得にあたり認定施設として十分機能しています。

緩和ケア病棟は現在建設中で21年4月竣工、5月18日開設予定となりました。厚労省施設基準に基づく病棟で、病院敷地内に外建で平屋、病床数22（全室個室うち有料10）で、医師数は2名、旭、馬場で担当します。研修医、学生の教育の場としても重要となり、医局と共同でカリキュラムを整備していきます。現在、緩和ケアチーム、NSTも外科中心で運営しており、スタッフの不足が顕著となってきています。早急な増員が望まれます。



## 内丸病院

Uchimaru Hospital

日頃は、宿日直等で外科医局の皆様大変お世話になっております。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。内丸病院は2階、3階に一般病床 67床、4階に介護療養病床30床 計97床の病院です。介護療養病床は、ご存じのように国の施策で平成23年3月に廃止の方向が決まっており、この30床をどのような方向に持ってゆくか未だ決まっておりません。建物の構造上、国が勧める施設への転換も難しいと思っております。現状では、24時間当直医がいる施設ですので、特養や老健をお願いするには、少し申し訳ないかなと思われる入所者を介護しており、使い勝手が良い病床と思っております。ただある程度の医療行為が加味されやすいので収益性は良くありません。

2、3階の一般病床は、主に県立中央病院、県高度救命救急センター、岩医大循環器病センター、第2内科、外科からの後送ベッドに利用して頂いております。急性期を経

過した高齢の患者さん、再発痛患者さん等です。またベッドを持たない開業医さんからの入院要請に対応しております。患者さんの状態、年齢、家族の受け入れ体制等から入院期間が長期に及ぶ患者さんが多いと思います。また、介護保険制度への市民の理解が不十分なようで、当院に入院してから介護認定を取得させたり、在宅に向かえない方々には介護施設への方向付けをして上げたりと医療だけでなく、福祉関係の力を借りなければならない事も数多くあります。

内丸病院を理解する資料として、最近2年間の病院死亡率を示します。

|           | 平成19年1月～12月 | 平成20年1月～12月 |
|-----------|-------------|-------------|
| 入院患者総数（名） | 527         | 450         |
| 退院患者総数（名） | 525         | 423         |
| 入院死亡数（名）  | 114         | 100         |
| 全病院死亡率（％） | 21.7        | 23.6        |

私が勤務していた県立二戸病院では、全病院死亡率は、6～7%台でした。



さて当院では以前から、7階ホールを開放した各種演奏会やオペラ・演歌ショー、映画上映会など（いずれも参加無料）を催して、患者さん、地域の方々へのサービスに努めておりますが、昨年12月には、世界的に活躍されているコンサートマスター 朝枝信彦さんとNHK交響楽団メンバー3名の方々による「弦楽四重奏」のコンサートを開催することができました。普段でもなかなか聴くことのできない演奏は、会場に詰めかけた入院患者さん達にも大変好評でした。この他にも定着した行事として、食事・栄養指導を盛り込んだ「食と健康祭り」、望遠鏡を使った「星をみる会」、さらには職員の親睦を図る目的で登山や卓球大会、盛岡さんさ踊り、北上川ゴムボート川下り大会への団

体参加など、毎年多くの企画を行っています。  
これからも患者さんと地域と身近に接し、信頼され親し

まれる病院を目指したいと思っておりますので、よろしく  
お願いいたします。

## 盛岡市立病院

Morioka Municipal Hospital

平成19年4月～平成20年3月は、大淵徹先生、平成20年4月～平成21年3月は、千葉丈広先生に1年出張にて医局より派遣いただきました。平成20年の出来事。1.キッズ外科手術体験セミナー（Fig.1）。平成20年7月13日（日）に第1回盛岡市立病院デー開催を期に、午前中に小学校高学年15人、午後に中学生15人を対象として、手術室にてスライドによる説明後、手洗い、手術着着衣、腹腔鏡下手術シュミレーター、超音波凝固切開装置による鶏肉切離、ステープラーと持針器を用いた疑似皮膚縫合、リニアステープラーを用いた疑似腸管切離を体験してもらいました。希望者の倍率も高く、子供たちも外科に対して非常に興味を持ってもらい、喜んでおります。近年、外科入局者も増加して



おり、当院では、今後も小中学生から外科に対して関心を持ってもらえるように継続していきたいと思っております。2.平成20年3月1日大淵先生挙式、新婚旅行は、南アメリカに行かれました。大淵先生の送別会を外科、消化器科、麻酔科合同で、奥様をお招きし恒例の温泉にて開催し、スライド上映会をしていただきました（Fig.2）。3.千葉先生が日本外科学会外科専門医1次試験に合格されました。平成21年の2次試験合格が期待されます。また、平成21年4月に、県立二戸病院より消化器科中塚明彦先生が当院に赴任され、増員となります。更なる手術症例の増加を期待しております。盛岡市内には、岩手医大病院、県立中央病院、盛岡日赤病院と大病院があり、当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。





## 岩手県立宮古病院

Iwate Prefectural Miyako Hospital

宮古病院は陸中海岸国立公園の高台にあり、自転車通勤には辛いですが、本州最東端の良好な環境？にあります。日本がん治療認定医機構教育病院、地域がん診療連携拠点病院の指定を受けており、外科関連では外科学会と消化器外科学会の認定施設であります。

平成20年の手術件数は490件（全麻394件、腰麻34件）。緊急手術は103件で、3.5日に1件の割合で緊急手術をしています。鏡視下手術は147例（大腸癌など：13例、胆石：74例、うち急性胆嚢炎9例、急性虫垂炎：34例、胃・十二指腸潰瘍穿孔：7例、癒着性イレウス：3例、腹壁ヘルニア：5例、その他食道アカラシア、腹腔内出血、憩室炎穿孔等）でした。鏡視下大腸手術の際はいつも大学から応援をいただいて感謝しております。

スタッフは菅野千治院長以下、亀井真理、菅原俊道、船渡治、箱崎将規の計5名です。毎週火曜日午後から水曜日午前中に大学から野田芳範先生の応援をいただき、また小児外科の水野大准教授と、呼吸器外科の谷田達男教授に月一回、血管外科外来を循環器センタースタッフに週二回（月、水）御願ひしています。当院でも医療崩壊は確実に進行しており、足りない人手の中、容赦なく来院する急患だけでなく、各種委員会、会議など診療以外の雑務も多く、医療クランク（中村雅美さん）に補助してもらいながらなんとかその日暮らしをしています。さらに循環器内科医



不在の影響が大きく、心筋梗塞などの急患が来て運悪く搬送当番の日だと盛岡までヘリや救急車に乗らねばなりません。手術中だと代わりの医師を探すことになり、四苦八苦します。

症例検討会は消化器内科と毎週水曜日、病棟会議、外科の術前術後ミーティングと死亡症例検討を毎週木曜日、その他月に一回、宮古市医師会とのカンファランス、研修医の症例発表会等も行っています。それ以外でも病院の医局では、いろんな科の先生が非公式に症例検討しながら助け合っております。

これからも外科スタッフ一同、大学医局とも連携しつつ、学会発表、論文作成等もそうですが、いろんな意味で無事に仕事をしていけるよう協力し合っていきたいと思っております。つきましては今後とも御指導、御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。



提とした中心静脈ポート造設が多かったからかもしれません。化学療法も外来でできるものはなんとか継続してきました。NSTやクリニカルパスについては積極的に取り組

み、NST勉強会は毎月の定例行事となり、昨年11月に大宮で開催された日本クリニカルパス学会には3題エントリーすることができました。全国的に病院内だけでなく地域内での連携が求められてきていますが、大槌は町も病院も小規模であるがゆえに地域連携は重要なテーマになりそうです。病院ごとの機能分担とっていましたが、役割を分担しつつまた病院としての独自性・個性を出していかなけれ

## 岩手県立釜石病院

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

2008年の当科における大きな出来事といえば、全麻件数が過去最高になったことが上げられる。手術総数は前年度の502件を下回り490件となったが、全麻件数が317件と過去最高を記録した。また、一昨年から消化器内科医1人体制という異常な状況下での診療を強いられている関係から、当科が内科的疾患も受け持たなければならないことも多く、朝から晩までフル稼働でスタッフの疲労もピークに達している。一日も早い消化器内科医の複数化が望まれるところである。

2008年当初の当院外科メンバーは馬場誠朗先生（H16岩手医卒）、藤田倫寛先生（H14岩手医卒）、小原眞先生（H4自治医卒）、吉田徹先生（S59自治医卒）、遠藤秀彦（S53自治医卒）であったが、4月の人事異動で馬場、藤田両先生は岩手医大に戻られ、石田馨先生（H18岩手医卒、済生会北上病院で初期研修終了）、松尾鉄平先生（H17岩手医卒）の両先生が代わりにメンバーに加わった。卒後3年



ばならない時代なのかもしれません。奇しくも県立病院の病床廃止の話題が毎日のように新聞やテレビで出ていますが、当院はまだ病床削減の話も聞こえてきません。しかしその分より少ない人数で今までの病床数や患者数を診ていかなければならないのでスタッフの負担は増加する恐れがあり、地域住民の理解や協力も不可欠ではないかなどと、外科以外のこともいろいろと考えさせられる1年でした。



目と4年目の先生であるが、臨床研修制度が始まってからは専門研修に入るのが2年遅くなり、実際には1年目、2年目の外科医と仕事をすることになった。当初は多少混乱もあったが、その後は2人の指導医による暖かくも厳格な指導により、多忙の中でも大過なく経過している。

当院の臨床研修医の定員は3名で1年次2年次合わせて6名が在籍中である。研修カリキュラムでは外科系研修が6ヶ月割り当てられており、その内の4ヶ月間は消化器一般外科・救急・麻酔の研修として当科で研修することになっている。従って1年を通じて常に1人は外科の研修に入っており、研修はもとより貴重なマンパワーとして活躍してもらっている。しかし、来年度の研修医は定員を満たさないことが確定しており、マンパワー不足が懸念されている。また、後期研修医の外科系プログラムも設定し募集しているが現在のところ応募はない。

当院のモットーは「仕事は的確にスマートに。アフター5は楽しく。」であり。今後とも「余裕を持って楽しく」を心がけたいと思っている。



## 北上済生会病院

Kitakami Saiseikai Hospital

当院の沿革、開設については、これまでの年報で紹介させて頂きました通りです。

平成20年の当院の出来事としては、病院の一部に新たに化学療法室が設けられ、これまでよりもより安全かつ効率的に外来化学療法の施行が可能となりました。

それと、5月で旗福公英先生（昭和63年卒）が退職されました。そのため現在の外科スタッフは斎藤和好（院長、昭和40年卒）、須原誠（昭和60年卒）、米山幸宏（平成5年入局）の3人の他、初期研修中の高野真一郎君、肥田篤彦君が各科をローテーションしております。当院には現在、



消化器内科の常勤医が不在であるため、他院からのパートタイムでの応援で検査をして頂いております。

現在、診療に関して、大学医局から、手術、外



来、検査、当直などで応援をして頂いております。また毎年、院外での活動として研修医を含め災害救助訓練に参加しております。

今後のこととして、平成21年度には、院内にリハビリテーション科を開設する予定があり、回復期リハビリテーションセンターの設置が計画されております。現在、それに向けて検討が進められております。

また、花巻市、北上市を中心とした県中部の医療圏の変化として、平成21年4月より各々の県立病院（花巻厚生病院、北上病院）が県立中部病院として統合されます。

今後、更なる大学医局を中心とした関連病院の先生方からのご支援、ご協力をお願い致します。



からは第1外科長の小山田尚、血管外科を専門とする第2外科長玉手義久、検査科長上村卓嗣、医師尾崎雄飛。岩手医大外科より院長の八島良幸、救急診療科長の中屋勉、緩和医療科長の藤社勉、医師菅野公德であります。また、平成21年度人事では中屋先生が転出し、能代の山本組合病院より村上先生が戻ってくる予定となっております。また非常勤医としては、外科医局より毎週当直を含めてお手伝いいただき大変ありがたく思っております。

ちなみに、平成20年の外科手術数は全手術数781例（全麻：514、腰麻：60、局麻：207）で、うち内視鏡下手術96例、緊急手術184例でありました。

## 岩手県立江刺病院

Iwate Prefectural Esashi Hospital

一年間の御無沙汰でございました。皆様お変わりございませんでしょうか。

さて、昨今医師不足、病院閉鎖等、医療状況も更に厳しいものとなり、各々の病院におかれましては大変苦勞していることと存じ上げます。厚労省は13万床ある介護療養病床の全廃、25万床ある医療療養病床を22万床に削減という過激な計画を立て、本県でも追い打ちをかけるように、県医療局の新経営計画（2009－2013年度）から県立6医療施設の無床診療所化（病院再編）により医療環境は混乱状態となっております。当院はと言いますと、平成20年度は波乱の幕開けでした。医師不足のあおりから20年度から当院整形外科医の撤退と聞かされ、当科で整形外科をなんとかしてカバーしなければならない状況に追い込まれ、新年度始まる3ヶ月程前から整形外科外来の手伝い（再勉強、修得も兼ね）を始めておりました。追い打ちをかけるようにして、外科医の削減（石川先生が県立一戸病院へ移動）の話がありました。医局の都合上いたしかたありませんでしたが、1人削減された分として医局から応援補強をして頂き、週1で肥田先生、第2病理から菅野先生（この2名は現状維持）、更に救急センターから青木先生、第1・3月曜日の当直に武田先生、そしてまごころ病院から菊池先生（前二戸病院）の手術応援にて診療体制を守っております。幸いにも、新年度直前整形外科医が急遽赴任することになったため、最悪の事態は免れ少し肩の荷が下りているところです。

2008年4月から診療報酬改定に伴い、後期高齢者医療制度に向けて当院でも地域医療福祉連携室を立ち上げ、地域中核病院としていかに患者さんのニーズに応えるかを考え



なければならない状況にもあります。そのような中、地域医療に携わっておりますと一般診療だけではなく、介護・福祉にも手を掛けなければならない、患者のニーズに応えるべく当院外科の取り組みの1つとして数年前から訪問診療（2週毎、金曜日の午後）を行っております。患者さんは終末期（癌も含め）、褥瘡が殆どであります。他に脳梗塞等の内科疾患も請け負っております。患者数は多くはありませんが、なにせ奥州市特に江刺区は守備範囲が広く移動だけでもかなり時間が取られます（ちなみに、移動だけで端から端まで車で約30分）。ですから1人科長の身、午後診だけでは多くても5～6人が限界でしょうか。

訪問診療、とりわけ終末期患者の“在宅での看取り”に関しても家族の希望があればケアマネージャー、訪問看護ステーションの看護師さん達と連携しながら行っております。このがん診療においては、2007年4月の『がん対策基本法』に基づき、国のがん対策推進基本計画ならびに岩手県のがん対策推進計画が公表されたところであり、現時点でははっきりとした家庭医が整備されていない今、それに準ずる医療を担わなくてはと微力ながら貢献できればと思って診療しております。急性期医療の逆の分野である緩和医療をはじめ、介護・福祉の分野もまた奥が深く、刺激を受けているこの頃です。

以上のように、当科は救急から急性期・一般医療はもちろんのこと、メディカルコントロール事後検証、小児夜間診療所応援、乳房検診、緩和医療、ICD、NST、さらには介護・福祉の分野まで守備範囲がかなり広く、これらに屈しないためにも日々身体を鍛え、学んでいるところです。

最期に、この場をお借りしまして診療応援・当直応援等の多大なる御協力をいただいていることに心から有り難く厚く御礼申し上げる次第です。

皆様、お互いくれぐれも身体に気を付けて頂きたいと思ひます。それではまた。



## 岩手県立千厩病院

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

平成20年は一昨年に引き続き人事異動がありました。佐藤一外科長が二戸病院へ転勤し、代わって坂下伸夫副院長が宮古病院より赴任しました。したがって現在の外科スタッフは伊藤達朗院長（2年目）、坂下伸夫副院長（1年目）、遠野千尋外科長（3年目）と年齢を除けば新鮮な構成となっています。これら3名に加え、若林剛教授の御高配により月曜日は池田健一郎准教授、火曜日の当直から水曜日の外来を木村祐輔先生にお手伝い頂いています。また、夏までは毎週木曜日に、今は米国で活躍中の小笠原聡先生にも来て頂いておりました。特に木村祐輔先生には救急車を呼ぶ男として八面六臂の活躍をしてもらっています。そのほかに、手術の応援に若林剛教授、佐々木章准教授を始め医局の先生方に応援いただき誠に感謝しています。これからもよろしくお願いいたします。

当院では局麻・腰麻・全麻合わせて年間約250例の手術を行っています。対象疾患も鼠径ヘルニア・胆石症から胃癌・大腸癌、さらに肝胆膵悪性疾患や各種内視鏡手術まで手掛けています。もし若い先生で多くの手術症例を経験したいとお考えでしたら是非千厩病院も選択肢の一つに入れてもらえればと期待します。東磐地域の医療の拠点として



なお一層努力したいと考えています。

平成21年は病院機能評価も乗り越えほっと一息、一段落といきたいところですが、今度は消化器内科医の減少という新たな大波が襲ってきます。そこは外科が中心となりチームワークで乗り切りたいと思いますのでより一層の御助力をお願いいたします。

旧・千厩町には少ないながら特色のある飲食店があります。お手伝いいただいた先生方には診療の後のひとときを楽しく過ごしてもらおうと思っています。フランス料理のあさひや、釜飯がお勧めの大松、焼肉のばんらい、和食の茗荷亭、串焼きと焼酎の藤、モツ鍋のばんぼこ、元祖あんかけカツ丼の小角食堂などなどご希望があればセッティングしますのでお気軽においで下さい。

## 函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院の外科スタッフは高金明典、目黒英二、小林 慎、早川善郎、入野田崇、秋山有史、加藤久仁之の7名であり、岡田晋吾先生（北美原クリニック理事長）には月2回ストーマ外来をお願いしています。臨床研修医は19年度に11名、20年度は16名、21年度は14名が所属する予定です。外科には常時2～3名がローテーションにて配属になり日々研修を行っており、大変貴重な戦力になっています。研修内容は手術の助手のみならず、経験によって鼠径ヘルニア、腹腔鏡下虫垂切除術、腹腔鏡胆嚢摘出術まで担当（執刀）しています。2008年の総手術件数は1214例（全麻874例）であり前年（1136 / 823）より微増でした。その内訳は甲状腺・上皮小体20例、乳腺疾患157例（乳癌133例）、食道疾患13例、胃・十二指腸114例（鏡視下30例）、肝胆膵疾患227例（鏡視下158例）、小腸・大腸211例



（鏡視下105例）、ヘルニア161例、虫垂炎45例（鏡視下43例）、イレウス26例（鏡視下4例）、その他240例でした。鏡視下手術を積極的に導入し大腸癌症例では57.1%（101例）に施行しております。外科病棟は42床であり緊急手術も多く（2008年：99件）、在院日数が2008年平均9.92日（病院全体13.21日）となっており病床管理も大変な日々です。1200件超の手術が無事こなせるには麻酔科（旭川医

大7名）、消化器内科（札幌医大7名）、メディカルスタッフの充実もあつての事です。2008年には高金、目黒、早川、入野田、秋山の計5名の先生方が日本がん治療認定医機構がん認定医に認定されました。また小林慎先生が日本食道学会認定医に認定、加藤先生が検診マンモグラフィ読影医に認定されました。1200件を超える手術の他に外来業務、再発癌に対する外来化学療法、乳腺検診、救急医療の他に各種委員会も多数有り業務負担が増加しております。また2008年4月よりDPCが開始となり、2009年4月には地域がん連携拠点病院に指定されます。2009年10月には病院機能評

## 八戸赤十字病院

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

平成20年度の八戸日赤は佐瀬正博、玉澤佳之、細井信之、藤原久貴、鴻巣正史の5人体制で診療を行っています。

平成20年度における当院の第一のトピックとしては、腹腔鏡手術症例数の増加です。早期結腸／直腸癌に対しては平成17年から行っておりましたが、リンパ節郭清手技の安定により手術適応を進行癌へも広げ約2/3症例が腹腔鏡手術となっております。さらに今年度からは胃癌に対する腹腔鏡補助下手術の導入を開始し、現在までに20症例を経験しております。適応は早期胃癌を対象としておりますが、胃癌年間症例数の約1/2が腹腔鏡手術となっております。

遅ればせながら良性疾患に関しても適応を広げており、虫垂切除、上部消化管穿孔、腸閉塞の第一選択アプローチとして腹腔鏡手術を考慮しており、特に虫垂切除及び上部消化管穿孔はほぼ100%の症例に対して行っております。

これら腹腔鏡手術において佐々木准教授を始めとして大塚・新田両講師の御助力もあり、青森一の症例と適応を誇ると自負しております。一方で手術症例数の増加に伴い、特定の執刀医のみでは対応しきれない状況になりつつあります。平成21年度への展望として、それぞれの医師が腹腔鏡手術手技を習得できるよう徐々に手術症例の配分を行い、より良い棲み分けができるように模索しているところです。

今後のトピックとしては、平成21年4月から当院にもDPCが導入されます。お試し期間が1年間用意されているのですが、この1年間に今まで漫然とやってきた事に対する見直しが迫られている状況です。この対応に関しても手

価再審査予定であります。全国規模の医師主導型臨床試験にも積極的に取り組んでおり、2008年は胃7件、大腸4件、乳腺2件の臨床試験に参加しています。2009年には新たに3件の臨床試験に参加する予定です。学術活動も国際・国内学会へ積極的に参加を行い2008年は学会発表34件、雑誌掲載3件でした。また、2008年のトピックスとして北海道では初のJCOG胃がん外科グループの班員になったことです。さらに2009年夏にはJCOG胃がん外科グループ合同班会議の開催が函館で予定されております。平成21年も医療レベルの向上を目標にスタッフ一丸となって向かいます。



術と同様に攻めの対応で、医療の質と収益の両立を図りたいと考えております。

当科での時間外活動に関してもご紹介させていただきます。それぞれが多趣味であり、週末は個人の時間にあてられておりますが、全体のサークル活動が3種類ほど用意されています。一つは「写真の会」です。佐瀬及び玉澤を中心として年に4回です。優秀作品は外来に飾られ、患者さんからも好評です。もう一つは「テニスの会」です。細井及び玉澤を中心としてストレス発散／運動不足を解消する良い機会となっています。最後は毎週水曜日に「手術反省会（?）」と称する飲み会です。テニスでの運動量を上回るカロリー摂取の為、体重増加が気になるところです。

これからも仕事と遊びのバランスが取れた良い環境を維持しつつ、業績の面でもより一層の充実を図り、若い先生への指導を行ってまいります。

P.S) 愛煙家の玉澤・藤原が健康を考慮してか、ただいま禁煙を行っております。両名とも禁煙を成功しつつあり、大変喜ばしいことと思われます。



## 山本組合総合病院

Yamamoto Associated General Hospital

山本組合総合病院は、山本郡医療購買利用組合が経営母体となり昭和8年2月開院し、現在の秋田県厚生連に引き継がれています。平成元年8月米代川の河口を南西に望む現在地に移転しました。秋田県北部沿岸の地域中核病院として20診療科、病床数534床（精神、感染病床を含む）健康管理科や在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設しています。（当院へ赴任したことのある先生方はご存知と思いますが、地域住民への医療サービスとして早朝検診があります。）

また、救急告示病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院（管理型、協力型）、に指定されており、平成20年2月地域がん診療連携拠点病院に指定され、地域において果たすべき役割は年々重くなってきております。

スタッフは、平成20年1月より青木毅一先生が高度救命救急センターへ赴任され、村上が着任いたしました。平成20年3月で星川幸一医師、松尾医師が医局、および岩手県立釜石病院に赴任され、御供真吾医師が函館五稜郭病院から着任されました。現在は、村上雅彦、大山健一医師、御供真吾医師の3人体制です。



平成20年度のニュースとしては、放射線照射器機が故障し食道癌や乳癌、骨転移の患者さんへの照射治療ができず、乳癌の患者さんは何例か他施設へ紹介する事態となっていました。照射治療再開は平成21年4月になる予定です。手術総数は269例のうち全身麻酔は196例、腰椎麻酔40例、鏡視下手術53例でした。教室からは佐々木章准教授に腹腔鏡下脾臓摘出術、川村英伸講師、新田浩幸講師に肝切除術を肥田圭介講師に腹腔鏡下胃切除術をお願いし、ご指導いただき感謝しております。今後も、若林教授をはじめとし、医局の諸先生方のご指導をいただきながらスタッフのレベルアップと診療の充実に努めたいと思っております。

## 鹿角組合総合病院

Kazuno Associated General Hospital

当鹿角組合総合病院外科スタッフは、阿部薫が平成16年2月から、飯島信が同14年7月から赴任し、常勤医二人体制で診療に従事しています。また、大学医局から岩谷岳先生、米沢仁志先生の応援を各週一回していただき、診療・手術に励んでいます。（写真は応援の岩谷先生と3人で。）

と、当科のスタッフに関して前年度と全く変わっておりませんが、病院内を見渡してみれば、全国的に医師不足が言われているなか、当院の医師充足率は88%と依然として低率のままです。産婦人科医は秋田大学から来ていただいておりますが、他の科は岩手医大より医師派遣をお願いしています。当科に関係したところでは、消化器科（第1内科）の医師が減員となり、外科への紹介患者さんも少なくなり消化器癌手術が減少しました。前年と比較すると、全体の手術件数自体は増加していましたが、胃癌、結腸・直腸癌手術件数は10～15%減少していました。急患数は例年同様で、半数が急性虫垂炎手術でした。乳癌や肝切等の手術は例年通りであり、他科を含めた医師数が増員となれば、症例数も増加するものと考えます。

外来化学療法室（3床）の運用を開始し一年以上が経過しました。当科は月平均50人の患者さんが治療を受けてい



ます。現在は3床ですが、将来的には5床に増床する予定です、ますます外来通院による癌化学療法が充実するでしょう。

当院も外科学会および消化器外科学会の関連病院です。若手の先生が十分な診療・手術経験が得られるのはもちろんのこと、術者としての経験も豊富に得られます。現在も、全身麻酔手術の7割以上を飯島先生が執刀しています。外科医としての経験を積むにも、良い施設と考えます。

最後に新病院建設です。予定より着工が遅れましたが、平成20年6月から現在の病院より車で10分程の敷地で工事が始まりました。進捗率は順調で、平成22年5月の開業を目標に病院スタッフ一同懸命に頑張っているところです。大学医局よりの御支援には感謝申し上げますが、今後とも更なる御支援・御鞭撻をお願いいたします。



あ

| 医 療 機 関 名        | 院 長     | 郵便番号     | 住 所 |         |                    |
|------------------|---------|----------|-----|---------|--------------------|
| 青森県立はまなす医療療育センター | 岩 崎 光 茂 | 031-0833 | 青森県 | 八戸市     | 大久保字大塚17-729       |
| あおりPETセンター       | 佐々木 泰助輔 | 036-8183 | 青森県 | 弘前市     | 大字品川町31-3          |
| 青森労災病院           | 河 津 俊太郎 | 031-0822 | 青森県 | 八戸市     | 白銀町字南ヶ丘1番地         |
| 秋田組合総合病院         | 阿 部 栄 二 | 011-0911 | 秋田県 | 秋田市     | 飯島字西袋273-1         |
| あさくらクリニック        | 朝 倉 慎 一 | 020-0822 | 岩手県 | 盛岡市     | 茶畑1-8-2            |
| 安代診療所            | 和 田 進   | 028-7534 | 岩手県 | 八幡平市    | 荒屋新町144番地1         |
| あすみのクリニック        | 斉 藤 宏 之 | 020-0173 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 滝沢字湯舟沢479-2        |
| 安部医院             | 安 部 彦 満 | 024-0061 | 岩手県 | 北上市     | 大通り1-11-23         |
| あべ神経内科クリニック      | 阿 部 隆 志 | 020-0878 | 岩手県 | 盛岡市     | 肴町6-6 熊長ビル1F       |
| あべ内科消化器科クリニック    | 阿 部 礼 司 | 020-0146 | 岩手県 | 盛岡市     | 長橋町17-45           |
| 阿部内科小児科医院        | 阿 部 知 成 | 020-0807 | 岩手県 | 盛岡市     | 加賀野3-1-2           |
| 飯島医院             | 飯 島 仁   | 020-0172 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 鶉飼字狐洞1-277         |
| いしだ外科胃腸科クリニック    | 石 田 茂登男 | 020-0834 | 岩手県 | 盛岡市     | 盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F |
| 石鳥谷医療センター        | 岡 田 弘   | 028-3163 | 岩手県 | 稗貫郡石鳥谷町 | 八幡5-47-2           |
| 板倉医院             | 板 倉 紀 子 | 023-0862 | 岩手県 | 奥州市     | 水沢区福吉町6-7          |
| 一関病院             | 加 藤 栄 一 | 021-0884 | 岩手県 | 一関市     | 大手町3-36            |
| 猪苗代病院            | 猪苗代 盛 貞 | 988-0017 | 宮城県 | 気仙沼市    | 南町1丁目3-7           |
| 今井産婦人科クリニック      | 今 井 俊 彦 | 020-0877 | 岩手県 | 盛岡市     | 下の橋1-5             |
| 岩手医大 循環器センター     | 岡 林 均   | 020-8505 | 岩手県 | 盛岡市     | 中央通1-2-1           |
| 岩手医大 花巻温泉病院      | 猪 又 義 男 | 025-0305 | 岩手県 | 花巻市     | 台第2地割85番1          |
| 岩手県対ガン協会         | 狩 野 敦   | 020-0835 | 岩手県 | 盛岡市     | 永井14-46            |
| 岩手県立 胆沢病院        | 松 本 登   | 023-0864 | 岩手県 | 奥州市     | 水沢区龍ヶ馬場61          |
| 岩手県立 一戸病院        | 高 田 耕   | 028-5312 | 岩手県 | 二戸郡一戸町  | 字砂森60-1            |
| 岩手県立 磐井病院        | 鯉 名 勉   | 029-0131 | 岩手県 | 一関市     | 狐禅寺字大平17           |
| 岩手県立 江刺病院        | 小 岡 文 志 | 023-1103 | 岩手県 | 奥州市     | 江刺区西大通り5-23        |
| 岩手県立 大槌病院        | 岩 田 千 尋 | 028-1111 | 岩手県 | 上閉伊郡大槌町 | 新町8-14             |
| 岩手県立 大船渡病院       | 八 島 良 幸 | 022-0002 | 岩手県 | 大船渡市    | 大船渡町字山馬越10-1       |
| 岩手県立 釜石病院        | 遠 藤 秀 彦 | 026-0055 | 岩手県 | 釜石市     | 甲子町10-483-6        |
| 岩手県立 軽米病院        | 横 島 孝 雄 | 028-6302 | 岩手県 | 九戸郡軽米町  | 軽米2-54-5           |
| 岩手県立 北上病院        | 後 藤 勝 也 | 024-0063 | 岩手県 | 北上市     | 九年橋3-15-36         |
| 岩手県立 久慈病院        | 阿 部 正   | 028-8040 | 岩手県 | 久慈市     | 旭町第10地割1 番         |
| 岩手県立 千厩病院        | 伊 藤 達 朗 | 029-0803 | 岩手県 | 一関市     | 千厩町千厩字草井沢32-1      |
| 岩手県立 中央病院        | 佐々木 崇   | 020-0066 | 岩手県 | 盛岡市     | 上田1-4-1            |
| 岩手県立 二戸病院        | 日 下 純 男 | 028-6103 | 岩手県 | 二戸市     | 堀野字大川原毛38-2        |
| 岩手県立 沼宮内病院       | 佐 藤 芳 行 | 028-4303 | 岩手県 | 岩手郡岩手町  | 大字五日市第10地割4番地7     |

あ

| 医 療 機 関 名       | 院 長     | 郵便番号     | 住 所 |         |                  |
|-----------------|---------|----------|-----|---------|------------------|
| 岩手県立 花巻厚生病院     | 高 橋 司   | 025-0082 | 岩手県 | 花巻市     | 御田屋町4-57         |
| 岩手県立 宮古病院       | 菅 野 千 治 | 027-0096 | 岩手県 | 宮古市     | 崎嶽ヶ崎1-11-26      |
| 岩手県立 山田病院       | 及 川 修 次 | 028-1321 | 岩手県 | 下閉伊郡山田町 | 山田第5地割66番地1      |
| 岩手晴和病院          | 田 嶋 宣 行 | 020-0401 | 岩手県 | 盛岡市     | 手代森9-70-1        |
| 岩手保養院           | 森 莊 祐   | 020-0807 | 岩手県 | 盛岡市     | 加賀野3-14-1        |
| 植田内科消化器科医院      | 植 田 修   | 020-0173 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 滝沢字穴口183-3       |
| 白井循環器呼吸器内科      | 白 井 康 雄 | 020-0107 | 岩手県 | 盛岡市     | 松園2-2-6          |
| 内丸病院            | 日 下 純 男 | 020-0015 | 岩手県 | 盛岡市     | 本町通1-12-7        |
| えいづか内科胃腸科クリニック  | 永 塚 健   | 020-0117 | 岩手県 | 盛岡市     | 緑が丘4-1-7         |
| エイルクリニック        | 高 木 繁   | 160-0016 | 東京都 | 新宿区     | 信濃町33番地 真生会館ビル1F |
| 江村胃腸科内科医院       | 江 村 洋 弘 | 020-0044 | 岩手県 | 盛岡市     | 城西町7-33          |
| 遠藤病院            | 遠 藤 哲 夫 | 020-0173 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 葉ノ木沢山399-6       |
| 鶯宿温泉病院          | 石 田 薫   | 020-0573 | 岩手県 | 雫石町     | 南畑32-265         |
| 大内眼科クリニック       | 大 内 哲 也 | 024-0083 | 岩手県 | 北上市     | 柳原町4-17-39       |
| おおうち消化器科内科クリニック | 大 内 健   | 027-0077 | 岩手県 | 宮古市     | 館合町1-8           |
| 大通胃腸科内科         | 鈴 木 恒 男 | 020-0022 | 岩手県 | 盛岡市     | 大通り1-3-4-4 F     |
| 大船渡市国保 越喜米診療所   | 佐々木 道 夫 | 022-0101 | 岩手県 | 大船渡市    | 三陸町越喜米字所通26-1    |
| おかだ外科内科クリニック    | 岡 田 伸 之 | 027-0025 | 岩手県 | 宮古市     | 実田2-5-10         |
| 岡田消化器科内科医院      | 岡 田 健 男 | 020-0875 | 岩手県 | 盛岡市     | 清水町3-5           |
| 荻野病院            | 荻 野 忠 良 | 020-0865 | 岩手県 | 盛岡市     | 本宮1-6-12         |
| 小原クリニック         | 小 原 紀 彰 | 025-0091 | 岩手県 | 花巻市     | 西大通り2-22-15      |
| 小保内医院           | 小保内 寿 人 | 020-0827 | 岩手県 | 盛岡市     | 鉾屋町5-21          |
| かさい睡眠呼吸器クリニック   | 笠 井 良 彦 | 024-0011 | 岩手県 | 北上市     | 堤ヶ丘1-9-32        |
| 柏原医院            | 柏 原 紀 文 | 028-0304 | 岩手県 | 遠野市     | 宮守町字下宮守28-75     |
| 鹿角組合総合病院（厚生連）   | 松 谷 富美夫 | 018-5201 | 秋田県 | 鹿角市     | 花輪字八正寺13         |
| かつら内科クリニック      | 桂 泰 鴻   | 020-0866 | 岩手県 | 盛岡市     | 本宮小坂小瀬13-2       |
| 加藤胃腸科内科医院       | 加 藤 博 巳 | 028-3303 | 岩手県 | 紫波郡紫波町  | 高水寺中田207         |
| かとう整形外科クリニック    | 加 藤 貞 文 | 020-0021 | 岩手県 | 盛岡市     | 中央通2丁目8番1号       |
| かなざわ内科クリニック     | 金 沢 英 夫 | 027-0023 | 岩手県 | 宮古市     | 磯鶏沖15-20         |
| かなもり神経内科クリニック   | 金 森 一 郎 | 020-0100 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 字高屋敷平11-39       |
| かねこ内科クリニック      | 金 子 能 人 | 020-0121 | 岩手県 | 盛岡市     | 月が丘1－1－63        |
| 上ノ橋歯科クリニック      | 両 川 卓 司 | 020-0887 | 岩手県 | 盛岡市     | 上ノ橋1-45          |
| 川井中央診療所         | 高 木 秀 峯 | 028-2302 | 岩手県 | 下閉伊郡川井村 | 川井5-101-1        |
| 川久保病院           | 尾 形 文 智 | 020-0835 | 岩手県 | 盛岡市     | 津志田26-30-1       |
| 川村内科医院          | 川 村 光 郎 | 020-0883 | 岩手県 | 盛岡市     | 志家町4-4           |

か



か

| 医 療 機 関 名         | 院 長     | 郵便番号     | 住 所  |         |              |
|-------------------|---------|----------|------|---------|--------------|
| 川守田医院             | 川守田 安 彦 | 028-3305 | 岩手県  | 紫波郡紫波町  | 北日詰八反田53-1   |
| 菅整形外科医院           | 菅 義 行   | 024-0071 | 岩手県  | 北上市     | 上江釣子16-51-2  |
| 菅整形外科・皮膚科クリニック    | 菅 栄 一   | 028-6103 | 岩手県  | 二戸市     | 石切所字川原38-1   |
| 菅野小児科医院           | 菅 野 恒 治 | 020-0004 | 岩手県  | 盛岡市     | 山岸2-11-36    |
| 喜田医院              | 喜 田 恵 治 | 761-0104 | 香川県  | 高松市     | 高松町2500-5    |
| 北上済生会病院           | 斎 藤 和 好 | 024-8506 | 岩手県  | 北上市     | 花園町1-6-8     |
| 工藤内科医院            | 工 藤 博 司 | 020-0871 | 岩手県  | 盛岡市     | 中ノ橋通1-7-13   |
| 久保田医院             | 久保田 公 宜 | 020-0147 | 岩手県  | 盛岡市     | 大館町26-3      |
| 熊谷内科胃腸科医院         | 熊 谷 和 久 | 025-0097 | 岩手県  | 花巻市     | 若葉町3-1-7     |
| 栗原クリニック           | 栗 原 英 夫 | 020-0015 | 岩手県  | 盛岡市     | 本町通1-16-4    |
| 黒川産婦人科医院          | 黒 川 賀 重 | 020-0013 | 岩手県  | 盛岡市     | 愛宕町2-51      |
| 慶應義塾大学病院          | 戸 山 芳 昭 | 160-8582 | 東京都  | 新宿区     | 信濃町35        |
| 孝仁病院              | 井 筒 俊 彦 | 020-2252 | 岩手県  | 盛岡市     | 中太田泉田28      |
| 国際親善総合病院          | 村 井 勝   | 245-0006 | 神奈川県 | 横浜市泉区   | 西が岡1-28-1    |
| 国保 綾里診療所          | 横 山 龍 治 | 022-0211 | 岩手県  | 大船渡市    | 三陸町綾里字平館75-2 |
| 国保 金ヶ崎病院          | 佐々木 峻   | 029-4503 | 岩手県  | 胆沢郡金ヶ崎町 | 西根鍾水98       |
| 国保 葛巻病院           | 高 橋 克 郎 | 028-5402 | 岩手県  | 岩手郡葛巻町  | 葛巻16-1-1     |
| 国保 沢内病院           | 鈴 木 紀 行 | 029-5614 | 岩手県  | 和賀郡西和賀町 | 沢内字太田2-68    |
| 国保 西根病院           | 嶋 信     | 028-7112 | 岩手県  | 八幡平市    | 田頭22-79-1    |
| 国保 普代村診療所         | 工 藤 正一郎 | 028-8333 | 岩手県  | 下閉伊郡普代村 | 10-4-1       |
| 国立がんセンター中央病院      | 工 藤 了 介 | 104-0045 | 東京都  | 中央区     | 築地5-1-1      |
| 国立病院機構盛岡病院        | 山 口 一 彦 | 020-0133 | 岩手県  | 盛岡市     | 青山1-25-1     |
| 小坂内科消化器科クリニック     | 小 坂 陽 一 | 020-0834 | 岩手県  | 盛岡市     | 永井19-258-1   |
| 児島内科小児科医院         | 児 島 陽 一 | 020-0122 | 岩手県  | 盛岡市     | みたけ3-11-36   |
| 後藤医院              | 後 藤 尚   | 028-1351 | 岩手県  | 下閉伊郡山田町 | 長崎4-12-10    |
| 後藤泌尿器科皮膚科医院       | 後 藤 康 文 | 027-0083 | 岩手県  | 宮古市     | 大通1-3-24     |
| 小林脳神経外科医院         | 小 林 東 洋 | 020-0117 | 岩手県  | 盛岡市     | 緑が丘4-7-34    |
| こんの脳神経外科神経内科クリニック | 今 野 譲 二 | 023-0818 | 岩手県  | 奥州市     | 水沢区字東町33-1   |
| 西城病院              | 西 城 健   | 021-0871 | 岩手県  | 一関市     | 八幡町2-43      |
| 済生会岩泉病院           | 柴 野 良 博 | 027-0501 | 岩手県  | 下閉伊郡岩泉町 | 岩泉字中家19-1    |
| 斉藤ささき医院           | 佐々木 正 孝 | 020-0816 | 岩手県  | 盛岡市     | 中野1丁目27-10   |
| 坂井医院              | 坂 井 博 毅 | 028-4307 | 岩手県  | 岩手郡岩手町  | 五日市10-151-1  |
| 桜井医院              | 櫻 井 昭 彦 | 023-0054 | 岩手県  | 奥州市     | 水沢区吉小路3      |
| 桜町病院              | 柴 崎 啓 一 | 184-8511 | 東京都  | 小金井市    | 桜町1-2-20     |
| ささきクリニック          | 佐々木 盛 光 | 025-0053 | 岩手県  | 花巻市     | 中北万丁目836     |

さ

さ

| 医 療 機 関 名      | 院 長     | 郵便番号     | 住 所 |         |                   |
|----------------|---------|----------|-----|---------|-------------------|
| 佐々木内科小児科医院     | 佐々木 勉   | 029-5505 | 岩手県 | 和賀郡西和賀町 | 30地割80-8          |
| さとう胃腸科内科医院     | 佐 藤 治   | 020-0851 | 岩手県 | 盛岡市     | 向中野一丁目11-25       |
| さとう消化器科内科クリニック | 佐 藤 慎一郎 | 028-3101 | 岩手県 | 花巻市     | 石鳥谷町好地16-9-5      |
| 佐藤整形外科医院       | 佐 藤 知 義 | 023-0852 | 岩手県 | 奥州市     | 水沢区山崎8-1          |
| 佐藤内科クリニック      | 佐 藤 公 也 | 020-0022 | 岩手県 | 盛岡市     | 大通3-1-24 第3菱和ビル4F |
| 佐藤皮膚科医院        | 佐 藤 雅 子 | 020-0133 | 岩手県 | 盛岡市     | 青山3-6-3           |
| 佐藤雅夫クリニック      | 佐 藤 雅 夫 | 027-0074 | 岩手県 | 宮古市     | 保久田4-7            |
| さわやかクリニック      | 田 村 茂   | 028-4303 | 岩手県 | 岩手郡岩手町  | 大字江刈内10-47-2      |
| 三愛病院           | 山 内 文 俊 | 020-0121 | 岩手県 | 盛岡市     | 月が丘1-31-31        |
| 三陸病院           | 三 浦 正 彦 | 027-0048 | 岩手県 | 宮古市     | 板屋1-6-36          |
| 雫石大森クリニック      | 大 森 浩 明 | 020-0541 | 岩手県 | 岩手郡雫石町  | 千刈田79-2           |
| 篠村外科医院         | 篠 村 達 雅 | 020-0524 | 岩手県 | 岩手郡雫石町  | 寺の下105-12         |
| 小豆嶋胃腸科内科クリニック  | 小豆嶋 正 和 | 020-0861 | 岩手県 | 盛岡市     | 仙北3-13-20         |
| 小豆嶋胃腸科内科クリニック  | 小豆嶋 正 博 | 024-0094 | 岩手県 | 北上市     | 本通り4丁目13-6        |
| 市立田沢湖病院        | 佐々木 英 人 | 014-1201 | 秋田県 | 仙北市     | 田沢湖生保内字浮世坂17-1    |
| 紫波地域診療センター     | 小 野 満   | 028-3307 | 岩手県 | 紫波郡紫波町  | 桜町字三本木32          |
| しんたろうクリニック     | 菊 池 信太郎 | 020-0866 | 岩手県 | 盛岡市     | 本宮1丁目9-1          |
| すがさわ外科・内科クリニック | 菅 澤 治 彦 | 025-0312 | 岩手県 | 花巻市     | 二枚橋6-440-1        |
| 鈴木整形外科         | 鈴 木 正 弘 | 020-0866 | 岩手県 | 盛岡市     | 本宮字石仏20-1         |
| 鈴木内科医院         | 鈴 木 知 己 | 020-0872 | 岩手県 | 盛岡市     | 八幡町2-17           |
| せいてつ記念病院       | 田名場 善 明 | 026-0052 | 岩手県 | 釜石市     | 小佐野町4-3-7         |
| 仙台オープン病院       | 宮 川 菊 雄 | 983-0824 | 宮城県 | 仙台市     | 宮城野区鶴が谷5-22-1     |
| 草加市立病院         | 高 元 俊 彦 | 340-8560 | 埼玉県 | 草加市     | 草加2丁目21番 1 号      |
| 総合花巻病院         | 大 島 俊 克 | 025-0075 | 岩手県 | 花巻市     | 花城町4-28           |
| 総合水沢病院         | 石 井 元 康 | 023-0053 | 岩手県 | 奥州市     | 水沢区大手町3-1         |
| 平館クリニック        | 土 谷 正 彦 | 028-7405 | 岩手県 | 八幡平市    | 平館第11-10-10       |
| 高橋内科胃腸科クリニック   | 高 橋 真   | 020-0173 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 滝沢字巣子1186-14      |
| 高松病院           | 田 中 哲 夫 | 020-0115 | 岩手県 | 盛岡市     | 館向町4-8            |
| 滝沢中央病院         | 小時田 宏 仿 | 020-0172 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村  | 鶴飼字狐洞1-104        |
| たぐち脳神経外科クリニック  | 田 口 壮 一 | 020-0015 | 岩手県 | 盛岡市     | 本町通り1丁目4-19       |
| 田村医院           | 田 村 健 二 | 020-0833 | 岩手県 | 盛岡市     | 西見前15-112         |
| 足澤整形外科医院       | 足 澤 國 男 | 028-3305 | 岩手県 | 紫波郡紫波町  | 日詰中新田252-2        |
| ちだ内科・外科クリニック   | 千 田 明 紀 | 020-0824 | 岩手県 | 盛岡市     | 東安庭1丁目23-60       |
| 土川内科医院         | 土 川 伍 朗 | 020-0145 | 岩手県 | 盛岡市     | 上厨川字横長根76-3       |
| 照井内科消化器科医院     | 照 井 孝 臣 | 020-0015 | 岩手県 | 盛岡市     | 本庁通1-8-9          |

た



た

な

は

| 医 療 機 関 名      | 院 長     | 郵便番号     | 住 所 |        |                  |
|----------------|---------|----------|-----|--------|------------------|
| 東海大学医学部付属八王子病院 | 北 川 泰 久 | 192-0032 | 東京都 | 八王子市   | 石川町1838          |
| 東京大学医学部附属病院    | 武 谷 雄 二 | 113-8655 | 東京都 | 文京区    | 本郷7-3-1          |
| 遠山病院           | 千 葉 知   | 020-0877 | 岩手県 | 盛岡市    | 下ノ橋町6-14         |
| 栃内第二病院         | 栃 内 秀 彦 | 020-0151 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村 | 大釜字吉水103-1       |
| とちない脳神経外科クリニック | 栃 内 秀 士 | 020-0838 | 岩手県 | 盛岡市    | 津志田中央3-17-10     |
| 栃内病院           | 岡 田 行 夫 | 020-0878 | 岩手県 | 盛岡市    | 肴町2-28           |
| 都南病院           | 橋 本 光 彦 | 020-0832 | 岩手県 | 盛岡市    | 東見前6-40-1        |
| 十和田市立中央病院      | 蘆 野 吉 和 | 034-0093 | 青森県 | 十和田市   | 西十二番町14-8        |
| 十和田東病院         | 和 田 幸 子 | 034-0001 | 青森県 | 十和田市   | 大字三本木字里ノ沢1-247   |
| 内科クリニックすずき     | 鈴 木 康 之 | 020-0105 | 岩手県 | 盛岡市    | 北松園2-15-4        |
| 直嶋医院           | 直 島 武 夫 | 028-3441 | 岩手県 | 紫波郡紫波町 | 上平沢字川崎84-1       |
| 中村医院           | 沖 恵     | 020-0066 | 岩手県 | 盛岡市    | 上田3-4-38         |
| 成田内科胃腸科医院      | 成 田 知 史 | 028-3614 | 岩手県 | 紫波郡矢巾町 | 大字又兵工新田第8地割101番地 |
| 新里医院           | 新 里 滋   | 028-0516 | 岩手県 | 遠野市    | 穀町13-1           |
| 西島こどもクリニック     | 西 島 浅 香 | 020-0066 | 岩手県 | 盛岡市    | 上田1-19-11        |
| 西島産婦人科医院       | 西 島 光 茂 | 020-0066 | 岩手県 | 盛岡市    | 上田1-19-11        |
| 西松園内科医院        | 斉 藤 恵 子 | 020-0103 | 岩手県 | 盛岡市    | 西松園3-22-1        |
| 二戸クリニック        | 青 木 光   | 028-6103 | 岩手県 | 二戸市    | 石切所字森合32-1       |
| 二宮内科クリニック      | 二 宮 一 見 | 020-0013 | 岩手県 | 盛岡市    | 愛宕町2-47          |
| ハートフルもりおか（老健）  | 立 花 崑   | 020-0384 | 岩手県 | 盛岡市    | 永井14地割15番地1      |
| 箱石整形外科医院       | 箱 石 勝 見 | 020-0835 | 岩手県 | 盛岡市    | 津志田西一丁目23-15     |
| はじめこどもクリニック    | 高 橋 肇   | 025-0097 | 岩手県 | 花巻市    | 若葉町1-2-33        |
| 八戸市立市民病院       | 三 浦 一 章 | 031-8555 | 青森県 | 八戸市    | 大字田向毘沙門平1        |
| 八戸赤十字病院        | 瀬 尾 喜久雄 | 039-1104 | 青森県 | 八戸市    | 大字田面木字中明戸2       |
| 原田内科脳神経機能クリニック | 原 田 達 男 | 020-0004 | 岩手県 | 盛岡市    | 山岸3-2-1          |
| 坂東内科クリニック      | 坂 東 武 志 | 020-0025 | 岩手県 | 盛岡市    | 大沢川原1-3-17       |
| 東八幡平病院         | 及 川 忠 人 | 028-7303 | 岩手県 | 八幡平市   | 柏台2-8-2          |
| 平井医院           | 平 井 博 夫 | 028-3305 | 岩手県 | 紫波郡紫波町 | 日詰字下丸森138-2      |
| 弘前大学医学部附属病院    | 花 田 勝 美 | 036-8563 | 青森県 | 弘前市    | 本町53             |
| ひろし外科肛門科       | 吉 田 博   | 020-0024 | 岩手県 | 盛岡市    | 菜園1-3-10         |
| 福岡市立こども病院      | 福 重 淳一郎 | 810-0063 | 福岡県 | 福岡市    | 中央区唐人町2-5-1      |
| プレスト齊藤外科クリニック  | 齊 藤 純 一 | 020-0866 | 岩手県 | 盛岡市    | 本宮字宮沢5-1         |
| 平和台病院          | 中 村 周 治 | 028-3311 | 岩手県 | 紫波郡紫波町 | 犬淵南谷地108-3       |
| 細井外科医院         | 細 井 照 彦 | 020-0025 | 岩手県 | 盛岡市    | 大沢川原2-1-2        |
| 堀江医院           | 堀 江 寛   | 028-3603 | 岩手県 | 紫波郡矢巾町 | 大字西徳田6-143       |

ま

や

わ

| 医 療 機 関 名         | 院 長     | 郵便番号     | 住 所 |        |                     |
|-------------------|---------|----------|-----|--------|---------------------|
| 松園第一病院            | 河 嶋 寛   | 020-0108 | 岩手県 | 盛岡市    | 東黒石野3-2-1           |
| 松園第二病院            | 後 藤 昌 司 | 020-0103 | 岩手県 | 盛岡市    | 西松園3-22-3           |
| 間山皮膚科医院           | 間 山 岩 夫 | 026-0034 | 岩手県 | 釜石市    | 中妻町1-17-20          |
| 三島内科医院            | 佐 藤 倫 郎 | 020-0885 | 岩手県 | 盛岡市    | 紺屋町1-34             |
| 水沼内科循環器クリニック      | 水 沼 吉 美 | 020-0021 | 岩手県 | 盛岡市    | 中央通2-11-12          |
| 水町クリニック           | 水 町 重 範 | 160-0703 | 東京都 | 新宿区    | 西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル3階 |
| 三井記念病院            | 高 本 眞 一 | 101-8643 | 東京都 | 千代田区   | 神田和泉町1番地            |
| 宮古山口病院            | 及 川 暁   | 027-0063 | 岩手県 | 宮古市    | 山口5-3-20            |
| 村田小児科医院           | 村 田 淳   | 020-0885 | 岩手県 | 盛岡市    | 紺屋町3-4              |
| もりおか胃腸科内科クリニック    | 佐 藤 邦 夫 | 020-0871 | 岩手県 | 盛岡市    | 中ノ橋通2-3-2           |
| もりおか往診クリニック       | 木 村 幸 博 | 020-0832 | 岩手県 | 盛岡市    | 東見前6-85-1           |
| もりおかこども病院         | 米 沢 俊 一 | 020-0102 | 岩手県 | 盛岡市    | 上田松屋敷11-14          |
| 盛岡市立病院            | 加 藤 章 信 | 020-0866 | 岩手県 | 盛岡市    | 本宮字小屋敷15-1          |
| 盛岡赤十字病院           | 沼 里 進   | 020-0856 | 岩手県 | 盛岡市    | 三本柳6-1-1            |
| 盛岡友愛病院            | 長 澤 茂   | 020-0834 | 岩手県 | 盛岡市    | 永井12-10             |
| 森整形外科             | 森 茂 雄   | 028-7111 | 岩手県 | 八幡平市   | 大更第25地割117-2        |
| もりた整形外科           | 盛 田 健 郎 | 020-0004 | 岩手県 | 盛岡市    | 山岸1-3-8             |
| 森谷医院              | 森 谷 耕太郎 | 020-0114 | 岩手県 | 盛岡市    | 高松3-11-29           |
| 八角医院              | 八 角 正 司 | 028-4125 | 岩手県 | 盛岡市    | 玉山区好摩字夏間木101-2      |
| 八角病院              | 遠 藤 憲 幸 | 028-4125 | 岩手県 | 盛岡市    | 玉山区好摩字夏間木70-190     |
| 山崎内科医院            | 山 崎 一 郎 | 022-0003 | 岩手県 | 大船渡市   | 盛町字内ノ目7-20          |
| やまだ胃腸科・内科クリニック    | 山 田 宏 之 | 020-0838 | 岩手県 | 盛岡市    | 津志田中央2-18-31        |
| ゆとりが丘クリニック        | 高 橋 邦 尚 | 020-0173 | 岩手県 | 岩手郡滝沢村 | 滝沢字土沢541            |
| ヨシザワ病院            | 芳 沢 正 幸 | 023-0881 | 岩手県 | 奥州市    | 水沢区北田14-1           |
| 吉田消化器科内科医院        | 吉 田 俊 巳 | 020-0832 | 岩手県 | 盛岡市    | 東見前8-20-16          |
| 吉田整形外科・リウマチ科クリニック | 吉 田 昌 明 | 020-0015 | 岩手県 | 盛岡市    | 本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階  |
| 吉田内科呼吸器科医院        | 吉 田 雅 美 | 028-7111 | 岩手県 | 八幡平市   | 大更第2地割79-3          |
| 吉浜診療所             | 川 島 淳   | 022-0102 | 岩手県 | 大船渡市   | 三陸町吉浜字上野93番地1       |
| 予防医学協会            | 田 澤 稔   | 020-0834 | 岩手県 | 盛岡市    | 永井4-42              |
| わたなべ肛門科クリニック      | 渡 邊 正 敏 | 020-0062 | 岩手県 | 盛岡市    | 長田町14-39            |



1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Nishizuka S,Spurrier B:Experimental validation for quantitative protein network models., **Curr Opin Biotechnol**, 19(1),41-49,2008

2. E.V.Stevens,S.Nishizuka,S.Antony,M.Reimers,S.Varma,L.Young,P.J.Munson,J.N.Weinstein,E.C.Kohn,Y.Pommier:Predicting cisplatin and trabectedin drug sensitivity in ovarian and colon cancers, **Mol Cancer Ther**, 7(1),10-18,2008

3. T.Akatsu,K. Kameyama,K. Araki,T. Ashizawa,G. Wakabayashi,M. Kitajima:Functioning adrenocortical oncocytoma: the first documented case producing interleukin-6 and review of the literature, **J Endocrinol Invest**, 31(1),68-73,2008

4. H.Itabashi,C. Maesawa,H. Oikawa,K. Kotani,E. Sakurai,K. Kato,H. Komatsu,H. Nitta,H. Kawamura,G. Wakabayashi,T. Masuda:Angiotensin II and epidermal growth factor receptor cross-talk mediated by a disintegrin and metalloprotease accelerates tumor cell proliferation of hepatocellular carcinoma cell lines., **Hepatol Res**, 38(6),601-613,2008

5. A. Khan,Y. Tanaka,H. Saito,H. Ebinum,H. Sekiguchi,H. Iwama,G. Wakabayashi,T. Kamiya,F. Kurbanov,A. Elkady,M. Mizokami:Transmission of hepatitis B virus (HBV) genotypes among Japanese immigrants and natives in Bolivia, **Virus Res**, 132(12),174-180,2008

6. Nakamura T,Yoshida M,Kitagawa Y,Jin L,Ishikawa H,Kameyama K,Wakabayashi G,Tanabe M,Kawachi S,Shinoda M,Saikawa Y,Wada N,Kubota T,Kumai K,Sano K,Kitajima M.:Intravenous injection of micafungin counteracts Candida albicans-induced aggravation of duodenal ulcers caused by cysteamine in rats., **Dig Dis Sci**, 53(9),2422-2428,2008

7. Nishizuka S,Ramalingam S,Spurrier B,Washburn FL,Krishna R,Honkanen P,Young L,Tsutomu S,Steeg PS,Austin J.:Quantitative protein network monitoring in response to DNA damage, **J Proteome Res**, 7(2),803-808,2008

8. Watanabe T,Hoshino K,Tanabe M,Morikawa Y,Kawachi S,Wakabayashi G,Shimazu M,Kitajima M:Correlation of motility and neuronal integrity with a focus on the grade of intestinal allograft rejection, **Am J Transplant**, 8(3),529-536,2008

9. Shioi Y,Sasaki A,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Wakabayashi G:Laparoscopy-assisted jejunal resection for leiomyoma preoperatively diagnosed as jejunal gastrointestinal mesenchymal tumor by double-balloon endoscopy : Report of a case, **Nihon Gekakei Rengo Gakkaishi (Journal of Japanese College of Surgeons)**, 33(2),155-159,2008

10. Mimura Y,Suwabe A,Tawara M,Endo R,Ikeda K,Sera K:Serum trace elements as nutritional markers in a case with acute aortic dissection, **Int J PIXE**, 18(1),61-67,2008

11. Obuchi T,Sasaki A,Nakajima J,Baba S,Wakabayashi G:Obstructive colitis related to perforation by descending colon cancer:Report of a case, **Nihon Gekakei Rengo Gakkaishi (Journal of Japanese College of Surgeons)**, 33(4),629-633,2008

12. Sasaki A,Nakajima J,Nitta H,Obuchi T,Baba S,Wakabayashi G:Laparoscopic cholecystectomy in patients with a history of gastrectomy., **Surg Today**, 38(9),790-794,2008

13. Sasaki A,Nitta H,Nakajima J,Obuchi T,Baba S,Wakabayashi G:Laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy with conservation of the splenic artery and vein: Report of three cases., **Surg Today**, 38(10),955-958,2008

14. Spurrier B,Ramalingam S,Nishizuka S:Reverse-phase protein lysate microarrays for cell signaling analysis, **Nature Protoc**, 3(11),1-13,2008

15. Haga J,Shimazu M,Wakabayashi G,Tanabe M,Kawachi S,Fuchimoto Y,Hoshino K,Morikawa Y,Kitajima M,Kitagawa Y:Liver regeneration in donors and adult recipients after living donor liver transplantation., **Liver transpl**, 14(12),1718-1724,2008

16. Sasaki A,Nakajima J,Ikeda K,Otsuka K,Koeda K,Wakabayashi G:Endoscopic thyroidectomy by the breast approach: a single institution's 9-year experience., **World J Surg**, 32(3),381-5,2008

17. Sasaki A,Nitta H,Otsuka K,Obuchi T,Kurihara H,Wakabayashi G:Endoscopic Subtotal Thyroidectomy: The Procedure of Choice for Graves' disease?, **World J Surg**, 33(1),67-71,2009

18. Jin L,Yoshida M,Nakamura T,Ishikawa H,Wakabayashi G,Tanabe M,Kawachi S,Shinoda M,Saikawa Y,Wada N,Kameyama K,Kumai K,Kubota T,Sano K,Nagao K,Amagai M,Kitagawa Y,Kitajima M:Candida albicans infection delays duodenal ulcer healing in cysteamine-induced duodenal ulcers in rats., **Dig Dis Sci**, 53(11),2878-85,2008

19. Spurrier B,Honkanen P,Holway A,Kumamoto K,Terashima M,Takenoshita S,Wakabayashi G,Austin J,Nishizuka S:Protein and lysate array technologies in cancer research., **Biotechnol Adv**, 26(4),361-9,2008

20. Sasaki R,Fujita T,Takeda Y,Hoshikawa K,Takahashi M,Funato O,Nitta H,Yaegashi Y,Nakajima T,Saito K,Wakabayashi G,Ohkohchi N:Portal vein reconstruction using a left renal vein graft for a patient with hilar cholangiocarcinoma., **Hepatogastroenterology**, 54(79),1919-21,2008

21. Mitomo S,Maesawa C,Ogasawara S,Iwaya T,Shibazaki M,Yashima-Abo A,Kotani K,Oikawa H,Sakurai E,Izutsu N,Kato K,Komatsu H,Ikeda K,Wakabayashi G,Masuda T:Downregulation of miR-138 is associated with overexpression of human telomerase reverse transcriptase protein in human anaplastic thyroid carcinoma cell lines., **Cancer Sci**, 99(2),280-6,2008

1-2 和文論文

1. 星川 浩一, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 武田 雄一郎, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 船渡 治, 川村 英伸, 若林 剛：【新しい手術機器で手術が変わる】肝胆脾手術 腹腔鏡下肝切除術, **外科治療**, 98(1),42-46,2008

2. 西塚 哲 ,Spurrier Brett,Honkanen Peter,Austin John, 若林 剛：【抗癌剤効果・副作用予測法の現況】 逆相蛋白ライセートアレイを用いた蛋白定量解析の癌治療への応用, **癌と化学療法**, 35(2),200-205,2008

3. 高原 武志, 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 若林 剛：【鏡視下手術 手術侵襲評価と周術期管理】 肝切除の侵襲評価と周術期管理, **Surgery Frontier**, 15(1),46-51,2008

4. 若林 剛：癌対策の現状 Liver Cancer 肝癌, **今日の診療のために 外来診療 2008 GUIDELINES FOR PRACTITIONERS 2008 日経メディカル開発**, 1,479-482,2008

5. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛：【腹腔鏡下手術（肝胆脾） より易しく安全な手技上の工夫】腹腔鏡（補助）下肝切除術, **手術**, 62(3),313-317,2008

6. 御供 真吾, 早川 善郎, 入野田 崇, 目黒 英二, 小林 慎, 高金 明典：乳腺原発 large cell neuroendocrine carcinoma の 1 例, **日本臨床外科学会雑誌**, 69(3),520-524,2008

7. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 若林 剛：腸切開・縫合術・吻合, 腸切開・縫合術・吻合 Digestive Surgery DSNow 小腸・結腸外科 標準手術 1 操作のコツとトラブルシューティング, 1,48-55,2008

8. 川村 英伸, 岩谷 岳, 佐々木 章, 阿部 薫, 飯島 信, 若林 剛：成人鼠径ヘルニアに対する Kugel 法の有用性 Mesh-Plug 法と比較して, **岩手医学雑誌**, 60(1),29-35,2008

9. 須藤 隆之, 伊藤 直子, 大淵 徹, 上杉 憲幸, 菅井 有, 中村 眞一, 若林 剛：左鎖骨上窩リンパ節転移にて発見され腹腔鏡補助下大腸切除術後に FOLFOX4 療法が著効した S 状結腸癌の 1 例, **癌と化学療法**, 35(4),669-672,2008

10. 御供 真吾, 小林 慎, 秋山 有史, 入野田 崇, 早川 善郎, 目黒 英二, 高金 明典, 池田 健：大腸印環細胞癌の 2 例, **函館五稜郭病院医誌**, 16,27-30,2008

11. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 若林 剛：【泌尿器科外来ベストナビゲーション】 腫瘍（外来化学療法）【癌性疼痛】癌性疼痛に対してモルヒネを使用したところ, 頑固なしびれ感をきたした患者です。対処と処方について教えてください。 , **臨床泌尿器科**, 62(4),236-238,2008

12. 星川 浩一, 吉田 徹, 佐藤 耕一郎, 加藤 丈人, 小原 眞, 八島 良幸, 佐藤 孝, 若林 剛：アスピリン腸溶剤内服によるものと思われた多発大腸潰瘍穿孔の 1 例, **日本消化器外科学会誌**, 41(5),564-569,2008

13. 御供 真吾, 肥田 圭介, 細井 義行, 畠山 元, 杉村 好彦, 若林 剛：術前診断において悪性を否定できなかった巨大肝嚢胞内出血の 1 例, **臨床外科**, 63(5),711-716,2008

14. 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 若林 剛：【肝細胞癌の治療戦略】肝細胞癌の外科治療 腹腔鏡（補助）下肝切除術, **消化器外科**, 31(6),985-991,2008

15. 御供 真吾, 及川 浩樹, 小笠原 聡, 前沢 千早, 若林 剛：頭蓋骨転移を契機に発見された甲状腺低分化癌の 1 例, **日本臨床外科学会雑誌**, 69(5),1019-1023,2008

16. 御供 真吾, 岩谷 岳, 池田 健一郎, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 木村 聡元, 上杉 憲幸, 前沢 千早, 若林 剛：著明なリンパ球浸潤を伴い HLA-DR 抗原の発現がみられた食道低分化型腺癌の 1 例, **日本消化器外科学会雑誌**, 41(5),499-504,2008

17. 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛：【手術局所解剖アトラス】肝胆脾脾領域 肝左葉, **手術**, 62(6),813-817,2008

18. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 金子 能人, 佐藤 譲, 若林 剛：【肥満へのアプローチ】肥満症・メタボリックシンドロームの治療・管理（治療法）肥満症に対する外科療法, **治療**, 90(5),1709-1713,2008

19. 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛：【肝・胆・脾領域における腹腔鏡下手術の最前線】 肝臓領域 腹腔鏡補助下肝葉切除術, **臨床外科**, 63(6),777-780,2008

20. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 池田 健一郎, 栗原 英夫, 若林 剛：【甲状腺疾患に対する内視鏡下手術 われわれはこうしている】パセドウ病に対する内視鏡下甲状腺亜全摘術, **日本内視鏡外科学会雑誌**, 13(3),295-300,2008

21. 杉村 好彦, 小川 雅彰, 武田 雄一郎, 馬場 祐康, 畠山 元, 肥田 圭介：3 孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の定着, **手術**, 62(7),973-976,2008

22. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 若林 剛：【縫合・吻合手技 安全・確実な技術を習得するために】食道 食道胃管頸部手縫い吻合, **消化器外科**, 31(8),1217-1224,2008

23. 池田 健一郎, 木村 祐輔：【胸部外科領域における周術期管理と合併症】食道領域 食道癌手術後の栄養管理, **胸部外科**, 61(8),726-730,2008

24. 池田 健一郎, 水野 大, 福沢 太一：【NST 病態栄養シリーズ Immunonutrition】Immunonutrients の代謝経路と作用機序, **小児外科**, 40(8),941-945,2008

25. 加藤 久仁之, 大塚 幸喜, 前沢 千早：大腸癌における L1 cell adhesion molecule の発現に関わる DNA メチル化状態の解析, **岩手医誌**, 60(3),163-173,2008

26. 小松 英明, 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 前沢 千早：乳癌における  $\beta$  III -tubulin の発現とその制御機能の解析, **岩手医誌**, 60(3),175-186,2008

27. 新田 浩幸, 若林 剛：10 鏡視下肝切除 内視鏡下肝切除術はどのような症例に適応となりますか?, **消化器癌の外科治療 2 肝・胆・脾 こんなときどうする Q&A**, 1,36-38,2008

28. 御供 真吾, 目黒 英二, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典, 若林 剛：術前 CT にて異物を確認できた press through package 誤飲による空腸穿孔性腹膜炎の 1 例, **外科**, 70(11),1230-1233,2008



29.川村 英伸,岩谷 岳,若林 剛：Kugel 法、Direct Kugel 法、**手術**,62(12),1671-1679,2008

30.杉立 彰夫,大塚 幸喜,板橋 哲也,千葉 丈広,木村 祐輔,佐々木 章,池田 健一郎,上杉 憲幸,高森 吉守,黒住 誠司,森 隆利,若林 剛：キチン/Cisplatin 新剤形,**癌と化学療法**,35(12),2021-2023,2008

31.西塚 哲,石田 和茂,野田 宏伸,高橋 正浩,若林 剛:高密度逆相タンパク質ライセートマイクロレイ,**生化学**,80(11),1047-1054,2008

32.星川 浩一,青木 毅一,野田 宏伸,大山 健一,新田 浩幸,若林 剛：FOLFOX,FOLFIRI 療法後に UFT/CPT-11 肝動注併用療法が有効であった直腸癌肺転移の 1 例,**癌と化学療法**,35(11),1965-1967,2008

33.佐々木 亮孝,近藤 匡,福永 潔,小田 竜也,若林 剛,大河内 信弘：肝門部胆管癌における胆管造影下 3D-integrated CT 画像 胆管分離限界点を意識した術前診断,**胆道**,22(4),600-604,2008

34.池田 健一郎,木村 祐輔,岩谷 岳,野田 芳範,伊藤 直子,木村 聡元,高橋 正統,肥田 圭介,若林 剛：Oral nutritional supplements(ONS)の食道がん術後低栄養患者に対する QOL 改善効果,**静脈経腸栄養**,23(4),617-621,2008

35.若林 剛：【ニュース 話題】 肝癌に対する低侵襲手術—腹腔鏡下肝切除—,**たんじゅうさん**,7(2),22-22,2008

36.佐々木 章,大塚 幸喜,川村 英伸,大淵 徹,池田 健一郎,若林 剛：特集：骨盤臓器脱・直腸脱に対する手術Ⅱ.直腸脱 5.直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術,**外科**,70(13),1515-1518,2008

2. 著 書

1.池田 健一郎：周術期の栄養療法,**コメディカルのための静脈経腸栄養ハンドブック 南江堂**,1,326-328,2008

2.新田 浩幸,若林 剛：10 鏡視下肝切除 内視鏡下肝切除術はどのような症例に適応となりますか?,**消化器癌の外科治療 2 肝・胆・膵 こんなときどうする Q&A**,1,36-38,2008

3.池田 健一郎：5 章 症例検討・栄養管理のプランニング 投与内容のプランニング 必要カロリー算出,**NST 活動のための栄養療法データベース 中山書店**,1,70-73,2008

4.佐々木 章,若林 剛：血管の処理と止血法,**消化器内視鏡外科手術 ベーシックテクニックメジカルビュー社**,10-18,2008

3. 学会発表

3-1 国際学会

IHPBA 8th World Congress of the International Hepato Pancreato Biliary Association,Mumbai,INDIA,2008/2/27~3/2.

1.Wakabayashi G,Nitta, H：LESSENS LEARNED FROM 150 CASES OF LAPAROSCOPIC LIVER RESECTIONS,Video presentation.

The 7th Sino-Japanese Symposium on Hepato-Pancreato-Biliary Diseases & China International Forum Hepatobiliary Surgery 2008, Beijing, China,2008/4/18~4.20.

1.Wakabayashi G：Standardization of Techniques for Laproscopic Liver Resection,Invited Oral presentation.

2008 ASCO Annual Meeting,Chicago,Illinois,2008/5/30~6.3.

1.Kashiwaba M,Inaba T,Takeda Y,Komatsu H,Takiyama I,Wakabayashi G：Phase I study of capecitabine in combination with CPT-11 for metastatic breast cancer (MBC) pre-treated with anthracycline and taxanes,Poster presentation.

16th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery,Stockholm,Sweden,2008/6/11~6/14.

1.Sasaki A,Nitta H,Takahashi M,Takahara T,Nakajima J,Obuchi T,Baba S,Fujita T,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Wakabayashi G：Pure endoscopic liver resections: single institution's 10-year experience,Poster presentation.

2.Obuchi T,Sasaki A,Nakajima J,Baba S,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic surgery for splenic artery aneurysm,Poster presentation.

3.Takahashi M,Nitta H,Itabashi H,Fujita T,Hoshikawa K,Takahara T,Kawamura H,Sasaki A,Wakabayashi G：Laparoscopic hepatectomy - using the virtual reality technology,Poster presentation.

4.Kawamura H,Araya M,Yonezawa H,Nakajima J,Sasaki A,Wakabayashi G：Bile duct injury after laparoscopic dholecystectomy:my experience of biliary reconstruction in three cases,Poster presentation.

THE 2008 JOINT INTERNATIONAL CONGRESS OF ILTS,ELITA & LICAGE,Paris,France,2008/7/9~7/12.

1.Wakabayashi G,Nitta H,Takahashi M,Takahara T,Sasaki A,Tanabe M,Hoshino K,Kitajima M,Shimazu M：LAPAROSCOPY-ASSISTED DONOR HEPATECTOMY,Poster presentation.

Estrategias no tratamento do Carcicoma Hepatocelular,Sao Paulo,Brazil,2008/8/16~8/19.

1.Wakabayashi G：Estrategias no tratamento do Carcicoma Hepatocelular,Oral presentation.

17th Meeting of Methods in Protein Structure Analysis,Sapporo,Japan,2008/8/26~8.29.

1.Ishida K,Nishizuka S,Noda H,Wakabayashi G：Analysis of molecular network kinetics induced by anticancer drugs fir the identification of crucial molecular targets,Poster presentation.

2.Noda H,Nishizuka S,Ishida K,Wakabayashi G：Characterization of cisplatin-resistant gastric cancer cell lines by quantitative protein kinetic analysis using high-density 'reverse-phase' protein lysate microarrays,Poster presentation.

The 11th World Congress of Endoscopic Surgery ,Yokohama,Japan,2008/9/2~9.5.

1.Obuchi T,Sasaki A,Nakajima J,Baba S,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic distal pancreatectomy using stapling devices,Poster presentation.

2.Koeda K,Takahashi M,Fujiwara H,Chiba T,Iwaya T,Kimura Y,Nitta H,Otsuka K,Sasaki A,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopy-assisted distal gastrectomy for early gastric cancer: Experience and laerning curve with 80 consecutive patients,Poster presentation.

3.Takahashi M,Koeda K,Fujiwara H,Chiba T,Iwaya T,Kimura Y,Nishizuka S,Sasaki A,Ikeda K,Wakabayashi G：The evalution of laparoscopic local resection for gastric gastrointestinal stromal tumors in our hospital,Poster presentation.

4.Baba S,Sasaki A,Nakajima J,Obuchi T,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Sakamoto T,Wakabayashi G：Laparoscopic management for urachal remnant: Report of two cases,Poster presentation.

5.Sasaki A,Nakajima J,Obuchi T,Baba S,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic adrenalectomy for adrenal lymphoma,Poster presentation.

6.Kawamura H,Araya M,Yonezawa H,Nakajima J,Sasaki A,Wakabayashi G：Bile duct injury after laparoscopic cholecystectomy:Experience of biliary reconstruction in three cases,Poster presentation.

7.Nakajima J,Sasaki A,Obuchi T,Baba S,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic subtotal cholecystectomy for severe cholecystitis,Poster presentation.

8.Fujita T,Nitta H,Sasaki A,Itabashi H,Obuchi T,Hoshikawa K,Takahara T,Takahashi M,Nakajima J,Funato O,Kawamura H,Ikeda K,Wakabayashi G：Is routine placement of surgical drains necessary after laparoscopic liver resection?,Poster presentation.

9.Wakabayashi G,Nitta H,Sasaki A,Takahashi M,Takahara T,Hoshikawa K,Fujita T,Tanabe M,Hoshino K,Kitajima M,Shimazu M："Initial results of seven laparoscopy-assisted donor hepatectomies,Workshop.

10.Takeda Y,Kashiwaba M,Inaba T,Komatsu H,Takiyama I,Wakabayashi G：Study on endoscopy-assisted breast conserving surgery after preoperative chemotherapy for breast cancer,Poster presentation.

\* K.Otsuka：Intestine11: benign disease(1),Chairperson.

\* Sasaki A：Biliary Tract8：Cholecystectomy,Chairperson.

Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia 2008,Yokohama,Japan,2008/9/5~9/6.

1.Obuchi T,Sasaki A,Suto T,Nitta H,Shimooki O,Hosoi N,Nakajima J,Baba S,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic excision of retroperitoneal tumors: Report of three cases,Poster presentation.

2.Koeda K,Sasaki A,Takahashi M,Fujiwara T,Chiba T,Noda Y,Iwaya T,Kimura Y,Nitta H,Otsuka K,Ikeda K,Wakabayashi G：Experience with Laparoscopic Local Resection for Gastric Gastrointestinal Stromal Tumors(GIST): The result and Outsomes in our institute,Poster presentation.

3.Nakajima J,Sasaki A,Obuchi T,Baba S,Nitta H,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Walabayashi G：Evalution of laparoscopic subtotal cholecystectomy for severe cholecystitis,Poster presentation.

4.Sasaki A,Nitta H,Nakajima J,Obuchi T,Otsuka K,Koeda K,Mizuno M,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopic spleen-preserving distal pancreatectomy withc conservation of the splenic artery and vein:Report of four cases,Poster presentation.

5.Iwaya T,Kimura Y,Noda Y,Kimura T,Koeda K,Takahashi M,Nishizuka S,Sasaki A,Ikeda K,Wakabayashi G：Multiple adenocarcinoma with extensive dysplasia in long segment barret' s esophagus treated with thoracoscopic surgery:report of a case,Poster presentation.

6.Nitta H,Sasaki A,Itabashi H,Fujita T,Obuchi T,Hoshikawa K,Takahara T,Takahashi M,Nakajima J,Ikeda K,Wakabayashi G：Laparoscopy-assisted liver resections employing the liver hanging maneuver,Symposium.

11th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus,Budapest, Hungary,2008/9/10~9.13.

1.Ikeda K,Kimura Y,Iwaya T,Noda Y,Kimura T,Ito N,Takahashi M,Koeda K,Nishizuka S,Sasaki A,Wakabayashi G：Long-term postoperative nutritional intervention for thoracic esophageal cancer patients:The usefulness of the daily oral supplementation by a small amount of enteral diet,Poster presentation.

2.Kimura Y,Ikeda K,Iwaya T,Koeda K,Noda Y,Wakabayashi G：Successful treatment for corrosive esophagitis and gastritis caused by dilute hydrochloric acid,Poster presentation.

3.Noda Y：Evaluation of the physical distribution of platinum by PIXE in cases of esophageal cancer after the administration of cisplatin,Poster presentation.



Pan Asia Innovators in Breast Cancer,Seoul,Korea,2008/11/22～11/23.

- 1.Kashiwaba M：Phase I study of capecitabine in combination with CPT-11 for metastatic breast cancer (MBC) pre-treated with anthracycline and taxanes,Poster presentation.

The 6th International Meeting Hepatocellular Carcinoma:Eastern and Western Experiences,Seoul,Korea,2008/12/7～12.9.

1. Takahara T,Nitta H,Fujita T,Obuchi T,Nakajima J,Otsuka K,Koeda K,Ikeda K,Sasaki A,Wakabayashi G：Evalution of Surgical Stress (Laparoscopic-Assisted Hepatectomy vs. Open Hepatectomy),Poster presentation.
2. Fujita T,Nitta H,Sasaki A,Itabashi H,Obuchi T：Laparoscopic liver resection for peripheral hepatocellular carcinoma: the study of tumor locations,Poster presentation.
- ＊ Wakabayashi G：Symposium 11A(Video) Surgical Challenges,Chairperson.

The 2008 San Antonio Breast Cancer Symposium (SABCS),San Antonio,Texas,2008/12/10～12/14.

1. Kashiwaba M,Inaba T,Takeda Y,Takiyama I,Komatsu H,Uesugi N,Wakabayashi G：Exploratory study of clonality determined by expression of tumor markers in intrinsic subtypes of breast cancers,Poster presentation.

3-2 国内学会

第 80 回日本胃癌学会，横浜，2008/2/27～29.

1. 肥田 圭介，佐々木 章，藤原 久貴，高橋 正統，千葉 丈広，若林 剛：初発および再発胃 GIST に対する手術症例の検討，一般口演．
2. 高橋 正統，肥田 圭介，阿部 薫，大山 健一，藤原 久貴，千葉 丈広，高金 明典，若林 剛：当科における胃癌化学療法クリニカルパスの現状について，一般示説．

第 44 回日本腹部救急学会，横浜，2008/3/14～15.

1. 御供 真吾，目黒 英二，入野田 崇：術前 CT にて異物を確認できた Press through package 誤飲による空腸穿孔性腹膜炎の 1 例，一般口演．
2. 菅野 将史，木村 祐輔，高橋 正統，藤原 久貴，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：希塩酸による腐蝕性食道炎に対したい気的に腹腔鏡下食道切除術を施行した 1 例，一般口演．
3. 藤澤 健太郎，大塚 幸喜，板橋 哲也，秋山 有史，細井 信之，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡に診断、治療が可能であった開腹既往のないイレウス症例の検討，一般口演．

第 94 回日本消化器病学会総会，福岡，2008/5/8～10.

1. 高橋 正浩，川村 英伸，船渡 治，星川 浩一，藤田 倫寛，板橋 英教，新田 浩幸，佐々木 亮孝，若林 剛：Stage IV 肺癌の治療戦略一切除不能進行肺癌－Gemcitabine (GEM) +TS-1 併用療法 vs 手術－，一般口演．

第 108 回日本外科学会定期学術集会，長崎，2008/5/15～17.

1. 高橋 正浩，新田 浩幸，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，武田 雄一郎，川村 英伸，佐々木 章，三浦 行矣，青木 祐子，若林 剛：鏡視下肝切除シミュレーション ーバーチャル・リアリティ技術を用いてー，サージカルフォーラム．
2. 西塚 哲，Spurrier Brett,Peter Honkanen,John Austin, 若林 剛：蛋白定量解析に基づく薬剤標的分子の同定，デジタルポスターセッション．
3. 肥田 圭介，藤原 久貴，高橋 正統，千葉 丈広，岩谷 岳，木村 祐輔，佐々木 章，池田 健一郎，高金 明典，若林 剛：幽門側胃切除における Billroth-I 法器械吻合の手法及び治療成績，デジタルポスターセッション．
4. 岩谷 岳，川村 英伸，板橋 哲也，中嶋 潤，馬場 誠朗，千葉 丈広，高橋 正統，木村 祐輔，肥田 圭介，稲葉 亨，鴻巣 正史，富澤 勇貴，藤澤 健太郎，野田 芳範，藤原 久貴，高橋 正浩，松尾 鉄平，西塚 哲，池田 健一郎，佐々木 章，若林 剛：当院における鼠径ヘルニア手術（Kugel 法 187 例の検討），デジタルポスターセッション．
5. 板橋 哲也，大塚 幸喜，新田 浩幸，藤澤 健太郎，秋山 有史，高橋 正浩，高原 武志，藤田 倫寛，佐々木 章，若林 剛：新規抗癌剤導入後の大腸癌肝転移に対する肝切除の治療成績，デジタルポスターセッション．
6. 木村 祐輔，池田 健一郎，岩谷 岳，御供 真吾，木村 聡元，西塚 哲，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，野田 芳範，若林 剛：cStage II / Ⅲ胸部食道癌に対する治療成績 -Surgery vs CRT-，サージカルフォーラム．
7. 馬場 誠朗，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，中嶋 潤，大淵 徹，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡下同時手術症例に対する手技の工夫と手術成績，サージカルフォーラム．
8. 鴻巣 正史，大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，馬場 誠朗，秋山 有史，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡補助下結腸切除術に対する持続硬膜外鎮痛法の必要性に関する検討，デジタルポスターセッション．
9. 大淵 徹，佐々木 章，須藤 隆之，大塚 幸喜，川村 英伸，中嶋 潤，馬場 誠朗，新田 浩幸，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：完全直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術 ー手術手技と術後 QOL 評価ー，サージカルフォーラム．
10. 佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，佐々木 純，栗原 英夫，若林 剛：バセドウ病に対する内視鏡下甲状腺亜全摘術 ー乳房アプローチ法における手技の工夫と手術適応ー，ビデオシンポジウム．
11. 水野 大，福澤 太一，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：QOL を考慮した精神発達遅滞症例に対する外科治療，パネルディスカッション．
12. 稲葉 亨，柏葉 匡寛，富澤 勇貴，小松 英明，小笠原 聡，滝山 郁雄，若林 剛：当科における原発性乳癌に対する内視鏡補助下乳房部分切除術に関する検討，サージカルフォーラム．

13. 藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，星川 浩一，武田 雄一郎，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，船渡 治，川村 英伸，池田 健一郎，若林 剛：肝硬変合併肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝部分切除術，ビデオディスカッション．

14. 大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，秋山 有史，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：直腸癌に対する腹腔鏡下手術に求められる視野展開，ビデオディスカッション．

15. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，武田 雄一郎，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，船渡 治，川村 英伸，池田 健一郎，若林 剛：Liver hanging maneuver を用いた腹腔鏡補助下肝切除術，ビデオシンポジウム．

16. 野田 芳範，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，武田 雄一郎，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，船渡 治，川村 英伸，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術における術中偶発症に対する対処 ー特に出血についてー，ビデオディスカッション．

17. 中嶋 潤，大塚 幸喜，佐々木 章，秋山 有史，板橋 哲也，藤澤 健太郎，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：大腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除後のイレウス症例の検討，サージカルフォーラム．

18. 池田 健一郎，木村 祐輔，岩谷 岳，木村 聡元，伊藤 直子，高橋 正統，千葉 丈広，富澤 勇貴，藤原 久貴，西塚 哲，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，若林 剛：食道癌化学放射線療法中の栄養指示療法に関する検討，デジタルポスターセッション．

19. 川村 英伸，高橋 正浩，新田 浩幸，武田 雄一郎，星川 浩一，藤田 倫寛，板橋 英教，船渡 治，佐々木 亮孝，若林 剛：切除不能進行肺癌に対する Gemcitabine (GEM)+TS-1 併用療法の有用性，ワークショップ．

20. 早川 善郎，高金 明典，小林 慎，目黒 英二，入野田 崇，秋山 有史，御供 真吾：乳癌外来連携パスを用いた地域病診連携への取り組み，デジタルポスターセッション．

21. 岩間 英明，高原 武志，高橋 正浩，新田 浩幸，佐々木 章，水野 大，池田 健一郎，上本 伸二，若林 剛：渡米脳死肝移植後に横隔膜あるいは腹膜に播種性再発を来たした肝癌の 2 症例，RSF.

22. 高金 明典，早川 善郎，入野田 崇，秋山 有史，御供 真吾，目黒 英二，小林 慎：胃がんに対する胃切除術術後パスのバリエーション分析に関する検討，デジタルポスターセッション．

23. 入野田 崇，早川 善郎，目黒 英二，小林 慎，秋山 有史，御供 真吾，高金 明典，大森 浩明：十二指腸潰瘍穿孔例の治療別医療費の比較検討，デジタルポスターセッション．

24. 御供 真吾，前沢 千早，小笠原 聡，増田 友之，若林 剛：甲状腺未分化癌細胞株における hTERT の翻訳抑制に関する microRNA-138 の関与，一般示説．

- ＊ 若林 剛：ランチョンセミナー 24 Strategy for resection of liver metastasis from Colorectal Cancer -essential role of chemotherapy-, 司会．

- ＊ 池田 健一郎：デジタルポスターセッション（142）「食道（周術期管理・QOL）」，座長．

第 20 回日本肝胆膵外科学会学術集会，山形，2008/5/28～30.

1. 石田 和茂，高原 武志，藤澤 健太郎，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高橋 正浩，新田 浩幸，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：2 期的手術により切除し得た巨大・多発肝カルチノイドの 1 例，一般示説．
2. 高原 武志，新田 浩幸，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高橋 正浩，船渡 治，川村 英伸，佐々木 章，池田 健一郎，佐々木 亮孝，若林 剛：肝門部胆肝癌の治療成績と今後の展望，一般口演．
3. 高橋 正浩，川村 英伸，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高原 武志，船渡 治，新田 浩幸，若林 剛：切除不能進行肺癌に対する Gemcitabine + TS-1 併用療法と StageIVa 肺癌切除成績との検討，ミニシンポジウム．
4. 藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：肝硬変合併肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝部分切除術の意義，ワークショップ．
5. 星川 浩一，高橋 正浩，板橋 英教，藤田 倫寛，高原 武志，新田 浩幸，川村 英伸，佐々木 章，三浦 行矣，青木 祐子，若林 剛：シミュレーションサージェリー：内視鏡下肝切除，ミニシンポジウム．
6. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術における自動縫合器の使用とその Pitfall，ビデオシンポジウム．
- ＊ 若林 剛：ランチョンセミナー 4 肝胆膵領域の凝固異常・播種性血管内凝固症候群の病態・診断・治療，座長．
- ＊ 若林 剛：ビデオシンポジウム 1 最先端の IVR および鏡視下手術（肝胆），司会．

第 45 回日本小児外科学会学術集会，つくば市，2008/5/28～30.

1. 有末 篤弘，佐々木 文章，岡田 忠雄：Henoch-Schönlein 紫斑病に合併した大腸・大腸型腸重積症の 1 例，一般示説．
2. 水野 大：地域医療における小児外科医一なげ増えない． どうすれば増える？ー，一般示説．
3. 福澤 太一，水野 大，若林 剛：当科における低出生体重児外科症例の検討，一般示説．
- ＊ 水野 大：ポスター 腸重積 1，座長．

第 30 回日本癌局所療法学会，久留米市，2008/5/30.

1. 杉立 彰夫，大塚 幸喜，板橋 哲也，千葉 丈広，佐々木 章，池田 健一郎，高森 吉守，黒住 誠司，森 隆利，若林 剛：キチン / シスプラチン ー新剤形ー，ワークショップ．

第 57 回日本医学検査学会，札幌，2008/5/30～31.

1. 稲葉 亨：乳癌における新しいバイオマーカー Centaur HER2/neu 測定の臨床的有用性，講演．



**第 33 回日本外科系連合学会学術集会，千葉，2008/6/12～13.**

1. 大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，木村 祐輔，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：潰瘍性大腸炎に対する機能温存を目指した腹腔鏡下大腸亜全摘術の試み，ビデオシンポジウム．
  2. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：術後合併症からみた腹腔鏡（補助）下肝切除術の手技の工夫，ビデオシンポジウム．
  3. 高原 武志，新田 浩幸，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高橋 正浩，舩渡 治，川村 英伸，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：肝門部胆管癌の治療成績と展望，ラウンドテーブルディスカッション．
  4. 柏葉 匡寛，稲葉 亨，武田 雄一郎，小松 英明，滝山 郁雄，若林 剛：大学病院における乳癌チーム医療確立へのアプローチ，ラウンドテーブルディスカッション．
  5. 中嶋 潤，須藤 隆之，佐々木 章，伊藤 直子，大淵 徹，馬場 誠朗，池田 健一郎，若林 剛：プロテイン S 活性低下による上腸間膜静脈血栓症の 1 例，一般示説．
  6. 馬場 誠朗，吉田 徹，佐々木 章，小原 眞，藤田 倫寛，石田 和茂，中嶋 潤，大淵 徹，遠藤 秀彦，若林 剛：若年者に発症した特発性縦隔気腫の 3 症例，一般示説．
- ＊若林 剛：ビデオシンポジウム 3 実質臓器に対する鏡視下手術－合併症予防の対策，座長．

**第 20 回日本内分泌外科学会総会，仙台，2008/6/12～13.**

1. 富澤 勇貴，小笠原 聡，柏葉 匡寛，稲葉 徹，武田 雄一郎，若林 剛：G-CSF 産生の甲状腺未分化癌の 1 例，一般示説．
2. 小笠原 聡，富澤 勇貴，米山 幸宏，前沢 千早，菅井 有，山本 政秀，増田 友之，若林 剛：石灰化被膜内における甲状腺腫瘍組織の生物学的態度，一般口演．

**第 62 回日本食道学会学術集会，東京，2008/6/21～22.**

1. 木村 祐輔，池田 健一郎，岩谷 岳，野田 芳範，肥田 圭介，御供 真吾，木村 聡元，佐々木 章，若林 剛：当科における食道小細胞癌切除症例の検討，一般示説．
  2. 池田 健一郎，木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，木村 聡元，伊藤 直子，高橋 正統，千葉 丈広，藤原 久貴，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛：胸部食道癌術後高度体重減少患者における付加的経口栄養剤投与の効果，一般口演．
  3. 岩谷 岳，木村 祐輔，野田 芳範，高橋 正統，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：当院における食道癌肉腫症例の検討，一般示説．
  4. 久多良 徳彦，遠藤 昌樹，千葉 俊美，折居 正之，鈴木 一幸，岩谷 岳，木村 祐輔，池田 健一郎，上杉 憲幸，菅井 有：放射線療法が奏功した肝硬変合併食道表在癌リンパ節転移の 1 例，一般示説．
- ※池田 健一郎：一般演題 ポスター 37 化学療法 1，座長．

**第 24 回日本 DDS 学会，東京，2008/6/29～30.**

1. 杉立 彰夫，高森 吉守，黒住 誠司，森 隆利，若林 剛：キチン・キトサンを利用した抗癌剤 DDS，一般口演．

**第 13 回日本緩和医療学会学術大会，静岡，2008/7/4～5.**

1. 立花 弘子，植木 葉子，原田 昭子，佐々木 ひろ子，大淵 いすみ，田村 麻衣，高橋 あつ子，木村 祐輔：病棟看護スタッフにおけるオピオイドの知識の玄奘と疼痛マネジメントの意識付け，一般示説．

**第 45 回日本外科代謝栄養学会，仙台，2008/7/11～12.**

1. 池田 健一郎，木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，木村 聡元，伊藤 直子，高橋 正統，千葉 丈広，藤原 久貴，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章，鴻巣 正史，若林 剛：術後高度体重減少患者に対する付加的経口栄養剤投与の有用性に関する検討，ポスターディスカッション．

**第 63 回日本消化器外科学会総会，札幌，2008/7/16～18.**

1. 中嶋 潤，佐々木 章，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡下胆嚢摘出術におけるドレーンの必要性，要望演題．
2. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：標準手術としての腹腔鏡補助下肝葉切除術，ビデオシンポジウム．
3. 佐々木 章，新田 浩幸，高橋 正浩，高原 武志，中嶋 潤，藤田 倫寛，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：肝癌に対する完全内視鏡下肝切除術，ビデオシンポジウム．
4. 大塚 幸喜，板橋 哲也，藤沢 健太郎，秋山 有史，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：膜解剖を意識した直腸癌に対する腹腔鏡下手術，パネルディスカッション．
5. 木村 祐輔，池田 健一郎，岩谷 岳，肥田 圭介，野田 芳範，木村 聡元，大塚 幸喜，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：胸部食道癌における胃管作成および吻合法の工夫，ビデオワークショップ．
6. 藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：術後合併症から見た腹腔鏡補助下肝切除術におけるドレーン挿入の必要性，要望演題．
7. 川村 英伸，米澤 仁志，荒谷 宗亮，飯島 信，若林 剛：難治性イレウスに対する留置イレウス管を利用した経胃瘻の消化管減圧療法，要望演題．
8. 星川 浩一，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除における自動縫合器の使用法，要望演題．
9. 池田 健一郎，木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，高橋 正統，肥田 圭介，大塚 幸喜，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：PG-SGA による消化器癌患者の術後栄養アセスメント，要望演題．

10. 岩谷 岳，木村 祐輔，野田 芳範，池田 健一郎，鴻巣 正史，肥田 圭介，高橋 正統，佐々木 章，若林 剛：高度進行食道癌に対する Docetaxel/CDDP/5Fu（DCF）療法の有用性の検討，一般口演．
  11. 馬場 誠朗，佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，高原 武志，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：脾動脈瘤に対する腹腔鏡下手術，一般口演．
  12. 高橋 正統，肥田 圭介，藤原 久貴，野田 芳範，千葉 丈広，岩谷 岳，木村 祐輔，高金 明典，池田健一郎，若林 剛：化学療法併用放射線療法により根治切除可能となった高度進行食道胃接合部癌の 3 例，一般口演．
  13. 鴻巣 正史，木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，肥田 圭介，高橋 正統，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：食道癌に対する根治的放射線化学療法後 Salvage 手術の検討，一般口演．
  14. 板橋 哲也，大塚 幸喜，藤澤 健太郎，佐々木 章，若林 剛：直腸癌手術における一時的回腸人工肛門の有用性の検討，一般口演．
  15. 高橋 正浩，川村 英伸，舩渡 治，藤田 倫寛，板橋 英教，星川 浩一，高原 武志，新田 浩幸，若林 剛：切除不能進行膵癌の治療戦略－Gemcitabine+TS-1 併用療法－，一般口演．
  16. 肥田 圭介，藤原 久貴，高橋 正統，千葉 丈広，岩谷 岳，木村 祐輔，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における再建法の工夫－上腹部横切開による開腹手技の導入－，一般ビデオ．
  17. 大淵 徹，佐々木 章，中嶋 潤，馬場 誠朗，岩谷 岳，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，池田 健一郎，若林 剛：食道平滑筋腫に対する低侵襲外科治療，一般示説．
  18. 野田 芳範，西塚 哲，木村 祐輔，岩谷 岳，高橋 正統，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，世良 耕一郎，若林 剛：PIXE を用いたシスプラチン投与後食道癌症例における白金体内分布の検討，一般示説．
  19. 藤澤 健太郎，大塚 幸喜，板橋 哲也，秋山 有史，細井 信之，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：開腹既往のない小腸イレウス症例に対する腹腔鏡下手術の有用性，一般示説．
  20. 武田 雄一郎，杉村 好彦，小川 雅彰，馬場 祐康，畠山 元，旭 博史，若林 剛：腹部 CT（MDCT）検査で術前診断した虫垂憩室炎の 1 例，一般示説．
  21. 高原 武志，新田 浩幸，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高橋 正浩，佐々木 章，池田 健一郎，佐々木 亮孝，若林 剛：肝門部胆肝癌の治療成績と展望～術後補助療化学療法～，一般示説．
  22. 箱崎 将規，疋屋 美緒，伊藤 直子，皆川 幸洋，下沖 収，阿部 正，若林 剛：当科で経験した肺癌の小腸転移による成人腸重積症の 2 例，一般示説．
  23. 秋山 有史，高金 明典，早川 善郎，入野田 崇，御供 真吾，目黒 英二，小林 慎，大塚 幸喜：定型化した腹腔鏡補助下大腸切除術の手術教育，一般ビデオ．
  24. 伊藤 直子，下沖 収，箱崎 将規，皆川 幸洋，阿部 正：腸閉塞を繰り返した Sweet 病に合併した回腸末端炎の一例，一般示説．
  25. 吉川 智宏，佐藤 信博，小鹿 雅博，青木 毅一，鈴木 泰，井上 義博，遠藤 重厚，巢鴨 正史，若林 剛：広範囲腐食性消化管壊死に対して一期的食道切除再建、全脾温存十二指腸切除を施行した 1 例，一般示説．
  26. 御供 真吾，小林 慎，秋山 有史，入野田 崇，早川 善郎，目黒 英二，高金 明典，池田 健：大腸印環細胞癌の 2 例，一般示説．
- ＊若林 剛：ビデオシンポジウム 4－1 鏡視下手術の新たな展開と挑戦：将来の標準化を目指して 肝胆膵，司会．
- ＊佐々木 章：肝 悪性 2，座長．
- ＊大塚 幸喜：大腸悪性 11，座長．

**第 39 回日本膵臓学会大会，横浜，2008/7/30～31.**

1. 星川 浩一，川村 英伸，舩渡 治，板橋 英教，藤田 倫寛，高橋 正浩，高原 武志，新田 浩幸，若林 剛：Gemcitabine+TS-1 併用療法の治療成績，一般口演．

**第 22 回キチン・キトサンシンポジウム，新潟市，2008/8/5～6.**

1. 杉立 彰夫，高森 吉守，黒住 誠司，森 隆利，福田 稔，若林 剛：キチン・キトサン / 抗癌剤 ー臨床利用の可能性ー，シンポジウム．

**第 21 回日本内視鏡外科学会総会，横浜，2008/9/2～5.**

1. 佐々木 章：第 1 回大上賞を受賞して：内視鏡外科医としての 15 年間，受賞講演．
2. 大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，秋山 有史，佐々木 章，若林 剛：腹腔鏡下低位前方切除におけるピットフォール，スポンサードシンポジウム．
3. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術の手術手技 ～部分切除からドナー肝切除まで～，スポンサードシンポジウム．
4. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：Hanging technique を用いた腹腔鏡補助下肝前区域切除術，ビデオセッション．
5. 肥田 圭介，高橋 正統，藤原 久貴，千葉 丈広，岩谷 岳，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：当科における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術：80 例の経験と Learning curve，ポスターセッション．
6. 高橋 正統，肥田 圭介，藤原 久貴，千葉 丈広，岩谷 岳，木村 祐輔，西塚 哲，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：当科における胃 GIST に対する腹腔鏡下手術症例の検討，ポスターセッション．
7. 藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，大淵 徹，川村 英伸，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡下肝切除術におけるドレーン留置の必要性，ポスターセッション．
8. 中嶋 潤，佐々木 章，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：重症胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢亜全摘術の有用性，ポスターセッション．
9. 川村 英伸，荒谷 宗亮，米沢 仁志，中嶋 潤，佐々木 章，若林 剛：腹腔鏡下胆嚢摘出術における胆管損傷に対する胆道再建の 3 例，ポスターセッション．



- 10.大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：自動縫合器を使用した腹腔鏡下尾側膵切除術, ポスターセッション.
- 11.佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：副腎リンパ腫に対する腹腔鏡下副腎摘出術, ポスターセッション.
- 12.馬場 誠朗, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 坂本 隆, 若林 剛：腹腔鏡下手術を施行した尿管遺残症の 2 例, ポスターセッション.
- 13.武田 雄一郎, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 若林 剛：乳癌術前化学療法後の内視鏡補助下乳房温存手術の検討, ポスターセッション.
- ＊若林 剛：スポンサードシンポジウム（株式会社アムコ）：肝臓・胆嚢・膵臓疾患に対する内視鏡下手術, 司会.
- ＊大塚 幸喜：ポスターセッション 46 大腸 14：悪性（14）, 司会.

**第 44 回日本胆道学会学術集会, 名古屋, 2008/9/19～20.**

- 1.大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 高橋 正浩, 高原 武志, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：高齢者胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術, 一般口演.

**第 44 回日本移植学会総会, 大阪, 2008/9/19～21.**

- 1.高原 武志, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 星川 浩一, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 新田 浩幸, 佐々木 章, 滝川 康弘, 若林 剛：当院での生体肝移植後の C 型肝炎再発に対する治療戦略, 一般示説.
- 2.新田 浩幸, 高橋 正浩, 高原 武志, 星川 浩一, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の手術成績～ドナーの負担軽減を目指して～, 一般口演.
- 3.高原 武志, 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 星川 浩一, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 佐々木 章, 若林 剛：リンパ球クロスマッチ陽性であった生体肝移植に対し basiliximab を用いた 2 例, 一般示説.

**第 16 回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2008/9/26～27.**

- 1.稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 滝山 郁雄, 若林 剛：HER2 陽性乳癌に対する Trastuzumab/Paclitaxel 療法の効果, 示説討論.
- 2.柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 滝山 郁雄, 若林 剛：再発乳癌における Intrinsic subtype と腫瘍マーカー変動から考える分化の lineage, 一般口演.
- 3.武田 雄一郎, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 若林 剛：Anastrozole 術後補助療法中に再発した乳癌患者に対し Exemestane 投与が著効した 2 例, 一般示説.
- 4.柏葉 匡寛：乳癌におけるバイオマーカー Centaur HER2/neu 測定の臨床的有用性 - 病理検査と臨床とのクロストーク -, モーニングセミナー.
- ＊柏葉 匡寛：一般演題（口演）38「化学療法 1」, 座長.

**第 41 回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京, 2008/10/16～17.**

- 1.富澤 勇貴, 小笠原 聡, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 米山 幸宏, 山本 政秀, 若林 剛：甲状腺未分化癌患者における白血球数と G-CEF の検討, 一般口演.

**第 63 回日本大腸肛門病学会, 東京, 2008/10/17～18.**

- 1.板橋 哲也, 大塚 幸喜, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 佐々木 章, 若林 剛：Crohn 病に対する腹腔鏡補助下手術の有用性, ワークショップ.
- 2.大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：開胸手術既往症例に対する腹腔鏡下大腸癌手術, ビデオセッション.
- 3.藤澤 健太郎, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 秋山 有史, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：CK20 陽性原発性肛門周囲 Paget 病の 1 例, 一般示説.

**第 29 回日本肥満学会, 大分, 2008/10/17～18.**

- 1.佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 金子 龍人, 佐藤 譲, 北野 正剛, 若林 剛：Laparoscopic sleeves gastrectomy for super-obese patients, ワークショップ.

**第 67 回日本癌学会, 名古屋, 2008/10/28～30.**

- 1.Nishizuka S,Wakabayashi G：Experimental validation of theoretical protein network models by quantitative lysate microarrays, 一般示説.
- 2.Sugitachi A,Itabashi T,Fujisawa K,Kimura Y,Otuska K,Kawamura H,Koeda K,Sasaki A,Ikeda K,Wakabayashi G：Bio-Muco-Adhesive Cisplatin, 一般口演.

**第 46 回日本癌治療学会, 名古屋, 2008/10/30～11/1.**

- 1.池田 健一郎, 熊谷 真澄, 小畑 由香子, 高原 美智子, 山本 八重子, 柏谷 信一, 工藤 正樹, 米澤 裕司, 佐藤 誠志, 昼澤 征子, 長澤昌子, 工藤 賢三, 柏葉 匡寛, 須藤 隆之：当院における外来化学療法室の現状と課題, 一般口演.
- 2.肥田 圭介, 高橋 正統, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 木村 祐輔, 西塚 哲, 岩谷 岳, 野田 芳範, 木村 聡元, 柏葉 匡寛, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：TS-1/CDDP 療法後に根治手術を施行した初発進行胃癌症例の検討, 一般示説.
- 3.大塚 幸喜：進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術の成績と課題, ワークショップ.
- 4.柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 滝山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛：腫瘍マーカーの変動からみた再発 Triple Negative 乳癌の clonality の検討, ワークショップ.

- 5.木村 祐輔, 池田 健一郎, 曽根 美雪, 渡辺 雄輝, 大畑 光彦, 星 克仁, 磯野 寿育, 長澤 昌子, 森 薫, 米澤 裕司, 青木 慎也, 齋藤 俊：当院における緩和ケアチームの活動状況と今後の展望, シンポジウム.
- 6.稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 富澤 勇貴, 滝山 郁雄, 若林 剛：当科における Docetaxel/Cyclophosphamide（TC）療法についての検討, 一般示説.
- 7.木村 聡元, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 野田 芳範, 御供 真吾, 高橋 正統, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：進行食道癌に対し Docetaxel/CDDP/5Fu（DCF）療法後に胸腔鏡補助下食道切除術を施行した 3 例, 一般示説.
- 8.星川 浩一, 川村 英伸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 高原 武志, 舩渡 治, 新田 浩幸, 佐々木 亮孝, 若林 剛：StageⅣ膵癌の治療戦略－Gemcitabine＋TS-1 併用療法の可能性－, 一般口演.
- 9.武田 雄一郎, 柏葉匡寛, 稲葉 亨, 小松 英明, 若林 剛：再発乳癌患者の緩和的治療において、高容量トレミフェン（TOR）及び、支持療法が有効であった 1 例, 一般示説.
- 10.野田 芳範, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 木村 聡元, 御供 真吾, 高橋 正統, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：高度進行食道癌症例に対する Docetaxel/CDDP/5Fu（DCF）療法, 一般口演.
- 11.根本 健二, 阿部 由直, 池田 健一郎, 石岡 千加史, 石田 卓, 西条 茂, 齋藤 聡, 平山 克, 廣川 誠, 星 宣次, 望月 泉, 山崎 繁：東北がんネットワークの試み, パネルディスカッション.
- ＊池田 健一郎：示説 02-04 食道 臨床研究等, 座長.
- ＊柏葉 匡寛：臨床医にとって役に立つケーススタディ, 司会.

**第 21 回日本外科感染症学会, 札幌, 2008/11/5～7.**

- 1.野田 芳範, 新田 浩幸, 高橋 正浩, 高原 武志, 星川 浩一, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 菅野 将史, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：当科における術後 MRSA 感染症に対するリネゾリドの使用経験, 一般口演.

**第 51 回日本甲状腺学会, 宇都宮, 2008/11/21～23.**

- 1.富澤 勇貴, 小笠原 聡, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 米山 幸宏, 若林 剛：重症筋無力症、1 型糖尿病、パセドウ病を合併した多腺性自己免疫症候群 3 型の 1 例, 一般示説.

**第 35 回日本低温医学会, 東京, 2008/11/21～23.**

- ＊Wakabayashi G：Cryoablation for malignant tumors, state of the art in Japan and worldwide-what is required for approval as advanced medical treatment in Japan?, 座長.

**第 70 回日本臨床外科学会, 東京, 2008/11/27～29.**

- 1.高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 木村 聡元, 高金 明典：当科における胃癌化学療法クリニカルパスの成績と課題, パネルディスカッション.
- 2.新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 星川 浩一, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 池田 健一郎, 若林 剛：腹腔鏡補助下肝前区域切除術の手術手技～不慮の出血への対策～, 一般ビデオ.
- 3.馬場 誠朗, 佐藤 信博, 青木 毅一, 小鹿 雅博, 吉川 智宏, 秋富 慎司, 石田 和茂, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛, 遠藤 重厚：横隔膜筋弁にて破裂部を補強した食道破裂の 2 例, 一般口演.
- 4.青木 毅一, 小鹿 雅博, 吉川 智宏, 佐藤 信博, 若林 剛, 遠藤 重厚：当院における急性胆嚢炎緊急手術症例の検討, 一般口演.
- 5.板橋 英教, 下沖 収, 武田 大樹, 小松 英明, 皆川 幸洋, 鈴木 正道, 阿部 正, 若林 剛：子宮転移を生じた膵尾部癌の 1 例, 一般示説.
- 6.木村 聡元, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 野田 芳範, 御供 真吾, 高橋 正統, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：当科における食道アカラシアに合併した食道癌の検討, 一般示説.
- 7.野田 芳範, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 木村 聡元, 鴻巣 正史, 御供 真吾, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：CDDP 投与後食道癌症例における白金の体内分布の検討, 一般示説.
- 8.大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：魅力ある外科学教室を目指した新教育システム：若手外科医の評価, ワークショップ.
- 9.中嶋 潤, 佐々木 章, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：重症胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢全摘術, 一般口演.
- 10.肥田 圭介, 高橋 正統, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 木村 聡元, 野田 芳範, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 池田 健一郎, 高金 明典, 若林 剛：当科における腹腔鏡補助下胃切除術－導入から定型化へ, シンポジウム.
- 11.木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 野田 芳範, 木村 聡元, 肥田 圭介, 高橋 正統, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 若林 剛：食道癌手術における頸部食道胃管吻合－胃管作成及び層々二列吻合の工夫－, 一般口演.
- 12.佐々木 章, 大淵 徹, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛：食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 手術の長期成績, 一般口演.
- 13.藤澤 健太郎, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 秋山 有史, 伊藤 直子, 有末 篤弘, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛：CK20 陽性原発性肛門周囲 Paget 病の 1 例, 一般示説.
- 14.青木毅一, 小鹿雅博, 吉川智宏, 佐藤信博, 若林 剛, 遠藤重厚：当院における急性胆嚢炎緊急手術症例の検討, 一般口演.
- ＊若林 剛：ランチョンセミナー メッシュプラグ法からみるダイレクトクーゲル法～一般外科医がおさえておきたい手術のポイントと鼠径部の膜構造～, 司会.



- \* 若林 剛：ビデオセッション 腹腔鏡下手術（肝），司会．
- \* 大塚 幸喜：一般示説 大腸・肛門（悪性）-18, 司会．

**第 10 回国際造影超音波シンポジウム，東京，2008/12/13～14.**

1. Itabashi T, Otsuka K, Fujisawa K, Nitta H, Wakabayashi G：Intraoperative laparoscopic ultrasonography for scanning liver metastasis during laparoscopic colorectal cancer surgery，一般口演．

**第 597 回岩手医学会，盛岡，2008/12/26.**

1. 滝川 康裕，大塚 幸喜，鈴木 啓二郎，塩井 義裕，鈴木 一幸，若林 剛，諏訪部 章，菅井 有：静脈血栓により著名な小腸狭窄を認めた先天性アンチトロンビン欠損症の 1 例：アンチトロピン Morioka との比較，一般口演．

**3-3 研究会**

**第 27 回岩手県乳腺疾患研究会，盛岡，2008/1/26.**

1. 稲葉 亨，柏葉 匡寛，武田 雄一，富澤 勇貴，小笠原 聡，瀧山 郁雄，若林 剛：局所進行乳癌に対する Trastuzumab/Paclitaxel 療法の効果，一般口演．

**第 24 回岩手ストーマ研究会，盛岡，2008/3/1.**

1. 板橋 哲也，大塚 幸喜，藤澤 健太郎，千葉 丈広，野田 宏信，鴻巣 正史，熊谷 妃小江，山田 麻衣子，瀧本 未由希，千葉 励子，高橋 あつ子，佐々木 章，若林 剛：直腸癌手術における一時的回腸人工肛門の有用性の検討，一般口演．

**第 19 回東北小児肝胆脾消化管研究会，仙台，2008/3/15.**

1. 福澤 太一，水野 大，若林 剛，菅原 和華，遠藤 幹也：新生児肝血管腫の一例，一般口演．

**東北小児がん研究会，仙台，2008/3/15.**

1. 福澤太一，水野 大，若林 剛，堀江 圭，安友 信，出口 博之，谷田 達男：小児肺癌の 2 例，一般口演．

**がん病診連携セミナー，盛岡，2008/4/11.**

1. 大塚 幸喜：Session1「連携バスの実際」，講演．
  2. 柏葉 匡寛：Session1「連携バスの実際」，講演．
  3. 肥田 圭介：Session1「連携バスの実際」，講演．
- \* 池田 健一郎：Session1「連携バスの実際」，座長．
  - \* 若林 剛：Session2「胃癌術後補助化学療法と最新の知見」，座長．

**第 6 回日本ヘルニア研究会，東京，2008/4/11.**

1. 岩谷 岳，板橋 哲也，川村 英伸，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：局所麻酔下 Kugel 法の有用性の検討，一般口演．
  2. 板橋 哲也，岩谷 岳，川村 英伸，佐々木 章，若林 剛：術後慢性疼痛の 5 例，シンポジウム．
  3. 川村 英伸，米澤 仁志，岩谷 岳，板橋 哲也，若林 剛：再発しないための Kugel 法の工夫，パネルディスカッション．
- \* 川村 英伸：シンポジウム「術後疼痛」S1-1 ～ S1-11, 座長．

**第 19 回内視鏡外科フォーラム，青森，2008/4/19.**

1. 中嶋 潤，佐々木 章，大淵 徹，馬場 誠朗，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：乳房アプローチ法による内視鏡下甲状腺切除術の長期成績，一般口演．
2. 肥田 圭介，高橋 正統，千葉 丈宏，野田 芳範，岩谷 岳，木村 祐輔，大塚 幸喜，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：当科における胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術の現況，特別企画．
3. 杉村 好彦，畠山 元，小川 雅彰，馬場 祐康，旭 博史，武田 雄一郎：虫垂憩室炎（寄生虫症）の一例，一般演題．

**第 7 回いわて乳腺疾患フォーラム，盛岡，2008/4/19.**

- \* 柏葉 匡寛：画像及び症例検討，司会．

**肝移植クリニカルカンファレンス，盛岡，2008/4/28.**

1. 高原 武志：生体肝移植後、高度胆汁鬱滞にて治療に難渋した 1 例，講演．
- \* 若林 剛：症例検討，司会．

**第 11 回岩手内視鏡外科研究会，盛岡，2008/5/10.**

- \* 若林 剛：特別講演Ⅱ「肝癌における低侵襲治療としての内視鏡下手術の位置づけ」，座長．

**第 44 回日本肝癌研究会，大阪，2008/5/22～23.**

1. 板橋 哲也，大塚 幸喜，藤澤 健太郎，高原 武志，高橋 正浩，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：腹腔鏡下大腸癌手術における造影剤併用術中超音検査の有用性の検討，一般示説．
2. 菅野 将史，高原 武志，石田 和茂，藤澤 健太郎，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高橋 正浩，新田 浩幸，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：3 期的手術により切除し得た肺転移を有する巨大・多発肝カルチノイドの 1 例，一般示説．

3. 新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，藤田 倫寛，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：原発性肝癌に対する内視鏡下手術の役割，一般示説．

4. 高原 武志，藤田 倫寛，板橋 英教，星川 浩一，高橋 正浩，新田 浩幸，若林 剛：腹腔鏡補助下肝切除の侵襲度評価 Evaluation of surgical stress (open hepatectomy VS laparoscopic hepatectomy)，一般示説．

- \* 若林 剛：ビデオセッション（2），司会．

**第 18 回東北肝臓外科研究会，仙台，2008/6/13.**

1. 藤田 倫寛，高原 武志，新田 浩幸，大淵 徹，星川 浩一，高橋 正浩，中嶋 潤，佐々木 章，若林 剛：肝良予備能不良の Bismuth II 型の肝門部胆肝癌に対して尾状葉全切除を施行した 1 例，一般口演．
- \* 新田 浩幸：一般演題，座長．

**第 5 回岩手 GIST 研究会，盛岡，2008/6/14.**

- \* 肥田 圭介：一般演題，座長．

**第 26 回日本肝移植研究会，横浜，2008/6/19～20.**

1. 高原武志，新田 浩幸，藤田 倫寛，板橋 英教，星川 浩一，高橋 正浩，若林 剛：経肝的肝静脈拡張術にて回避しえた小児生体肝移植直後の肝静脈狭窄の 1 例，一般口演．
  2. 高原 武志，新田 浩幸，藤田 倫寛，板橋 英教，星川 浩一，高橋 正浩，若林 剛：成人生体肝移植において術後胆管狭窄を回避する胆道再建術，ビデオシンポジウム．
  3. 新田 浩幸，高橋 正浩，高原 武志，星川 浩一，藤田 倫寛，板橋 英教，佐々木 章，水野 大，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の導入と手術成績，一般口演．
- \* 若林 剛：モーニングレクチャー，司会．

**第 1 回岩手県肥満治療セミナー，盛岡，2008/6/23.**

- \* 若林 剛：第 1 部 特別講演，座長．
- \* 佐々木 章：第 2 部 ディスカッション，司会．

**第 3 回岩手腫瘍免疫・化学療法研究会開催のご案内，盛岡，2008/6/24.**

- \* 若林 剛：特別講演 1，座長．

**第 17 回新潟内視鏡外科研究会，新潟，2008/6/28.**

1. 若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除一状況に応じたデバイスの選択一，特別講演．

**第 8 回岩手甲状腺研究会，盛岡，2008/7/5.**

1. 富澤 勇貴：甲状腺未分化癌患者における白血球数と G-CSF の検討，一般口演．
- \* 小笠原 聡：I. 一般演題，座長．

**第 15 回外科フォーラム，神戸，2008/8/9～10.**

1. 若林 剛：シンポジウム 1「内視鏡下手術の最先端」 腹腔鏡補助下ドナー肝切除の標準化を目指して，一般口演．
2. 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の標準化を目指して，一般口演．

**岩手大腸癌化学療法フォーラム，盛岡，2008/8/22.**

- \* 池田 健一郎：特別講演，座長．
- \* 大塚 幸喜：討論会，司会．

**第 4 回岩手緩和ケアセミナー，盛岡，2008/8/30.**

- \* 池田 健一郎：特別講演，座長．

**第 2 回肝臓内視鏡外科研究会，横浜，2008/9/1.**

- \* 若林 剛：特別企画「腹腔鏡下肝切除の現状調査と保険収載の可能性」，座長．

**第 27 回 Microwave Surgery 研究会，横浜，2008/9/5.**

1. 藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：大腸癌肝転移に対するラジオ波焼灼術 (RFA)，ビデオセッション．

**第 2 回岩手外科教育セミナー，盛岡市，2008/9/12.**

- \* 若林 剛：" 脾腫瘍の診断と治療，座長．
- \* 佐々木 章：" 肝胆脾外科と 5 年間の戦略から学ぶこと，座長．

**肝移植 Mizoribine Forum，仙台，2008/9/13.**

- \* 若林 剛：レクチャー，座長．

**第 3 回肝癌治療シミュレーション研究会，東京，2008/9/13.**

1. 新田 浩幸，藤田 倫寛，板橋 英教，大淵 徹，星川 浩一，高橋 正浩，中嶋 潤，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除術における肝切除シミュレーション，セッション．



**東京外科周術期管理セミナー，東京，2008/9/18.**

- 1.若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除の手技と意義，特別講演．

**第 2 回肝移植症例検討会，盛岡，2008/9/26.**

- 1.新田 浩幸，高原 武志：「岩手医科大学における移植症例の経過」「今後の移植症例における注意点」，講演．  
＊若林 剛：症例検討，座長．

**第 34 回東北小児外科研究会，秋田，2008/9/26.**

- 1.福沢 太一，有末 篤弘，水野 大，若林 剛：腹腔鏡下噴門形成術時の視野確保の工夫，一般口演．

**第 35 回東北・大腸癌研究会，秋田，2008/9/26.**

- 1.板橋 哲也，大塚 幸喜，藤澤 健太郎，佐々木 章，若林 剛：＂高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の治療成績，一般口演．

**第 19 回長野県内視鏡外科研究会，松本，2008/9/27.**

- 1.若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除の可能性，特別講演．

**第 156 回東北外科集談会，秋田，2008/9/27.**

- 1.馬場 誠朗，肥田 圭介，高橋 正統，野田 芳範，岩谷 岳，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：腹腔鏡下幽門側胃切除術で施行した胃カルチノイドの 2 症例，一般口演．  
＊新田 浩幸：肝臓，座長．

**第 1 回岩手抗菌薬研究会，盛岡，2008/9/29.**

- ＊若林 剛：特別講演 2，座長．

**第 3 回北東北 LAC 情報交換会 Laparoscopic Assisted Colectomy，盛岡，2008/10/4.**

- 1.大塚 幸喜：安全でシステム化された手術の普及を目指して，講演．  
＊若林 剛：安全でシステム化された手術の普及を目指して，司会．

**第 1 回いわて外科侵襲フォーラム，盛岡，2008/10/10.**

- ＊若林 剛：特別講演，座長．

**第 2 回岩手県手術手技セミナー，盛岡，2008/10/16.**

- ＊若林 剛：特別講演，座長．

**第 4 回いわて肝移植適応研究会，盛岡，2008/10/17.**

- 1.高原 武志：進行肝細胞癌に対して生体肝移植を施行した 1 例，一般口演．  
＊若林 剛：特別講演，座長．

**第 21 回東北膵・胆道癌研究会，盛岡，2008/10/25.**

- 1.星川 浩一，高橋 正浩，藤田 倫寛，板橋 英教，高原 武志，船渡 治，新田 浩幸，川村 英伸，若林 剛：切除不能進行膵癌に対する TS-1 ＋ Gemcitabine 併用療法と Stage IV 膵癌切除成績との検討，一般口演．  
2.高原 武志，新田 浩幸，藤田 倫寛，大淵 徹，星川 浩一，中嶋 潤，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛：胆道癌の術後補助化学療法～ GEM ＋ S-1 併用療法 Phase I study,Feasibility study，一般口演．  
＊若林 剛：特別講演，司会．

**第 40 回癌とリンパ節研究会，名古屋，2008/10/30.**

- 1.武田 雄一郎，柏葉 匡寛，稲葉 亨，小松 英明，滝山 郁雄，上杉 憲幸，若林 剛：N ＋症例に対する術前化学療法後センチネルリンパ節生検・郭性省略の安全性，一般口演．

**第 3 回岩手骨盤外科研究会，盛岡，2008/11/7.**

- 1.木村 聡元，大塚 幸喜，板橋 哲也，藤澤 健太郎，佐々木 章，池田 健一郎，若林 剛，丹治 進，近田 龍一郎，藤岡 知昭：腹腔鏡にて診断、治療した虫垂憩室炎による膀胱瘻の一例，一般口演．

**第 1 回 J-FD 研究会，東京，2008/11/8.**

- 1.馬場 誠朗：Cine-MRI による胃運動の客観的機能評価，一般口演．

**第 12 回いわての肝胆膵フォーラム，盛岡，2008/11/8.**

- 1.藤田 倫寛：症例検討，一般口演．  
＊川村 英伸：症例検討，司会．  
＊池田 健一郎：特別講演，座長．

**第 3 回東北消化器外科周術期研究会，盛岡，2008/11/15.**

- 1.福澤 太一，水野 大，千葉 励子，若林 剛：新生児消化管穿孔に対するストーマ管理，一般口演．  
＊新田 浩幸：Session1，座長．  
＊若林 剛：特別講演，座長．

**第 11 回東北移植研究会，仙台，2008/11/22.**

- 1.高原 武志，新田 浩幸，大淵 徹，板橋 英教，星川 浩一，高橋 正浩，水野 大，若林 剛：生体肝移植ドナーの術前シュミレーション，一般口演．

**第 19 回腹腔鏡的治療研究会，東京，2008/11/22.**

- 1.若林 剛：肝癌に対する腹腔鏡的治療の意義，講演．  
2.藤田 倫寛，新田 浩幸，佐々木 章，板橋 英教，大淵 徹，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，中嶋 潤，池田 健一郎，若林 剛：表在性肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除術 ～部位別による検討～，シンポジウム．

**第 1 回東北ヘルニア研究会，盛岡，2008/12/6.**

- 1.岩谷 岳，川村 英伸，中嶋 潤，板橋 哲也，野田 芳範，馬場 誠朗，高橋 正統，木村 聡元，若林 剛：成人鼠径ヘルニアに対する Kugel 法における麻酔法の比較検討，一般口演．  
＊若林 剛：特別講演「鼠径ヘルニア手術の歴史 :Bassini 法から各種 tension-free- repair まで」, 司会．

**第 3 回 Liver Transplant Winter Seminar，東京，2008/12/7.**

- 1.新田 浩幸：腹腔鏡補助下ドナー肝切除術，トピックスセッション．

**第 15 回外科侵襲とサイトカイン研究会，盛岡，2008/12/13.**

- 1.西塚 哲：プロテインアレイによる蛋白定量を用いた生体反応の評価，ミニレクチャー．  
2.小鹿 雅博，佐藤 信博，青木 毅一，吉川 智宏，秋富 慎司，高橋 学，星川 浩一，鈴木 泰，池田 健一郎，佐々木 章，若林 剛，遠藤 重厚：重症敗血症患者に対する Tight Glucose Control における HMGb-1,sRAGE,s100P の推移～ Tight Glucose Control の病態介入液性因子からの評価～，セッション．  
＊肥田 圭介：セッション 5，座長．

**第 11 回大阪消化器内視鏡外科セミナー，大阪，2008/12/20.**

- 1.肥田 圭介：腹腔鏡下胃癌手術における最高の手技と最強の手術チームを目指して 腹腔鏡下胃癌手術におけるリンパ節郭清の手技,セッション．  
2.大塚 幸喜：腹腔鏡下大腸癌手術後における最高の手技と最強の手術チームを目指して 右側・横行結腸癌に対する手術手技，セッション．

3-4 地方会

**第 185 回日本消化器病学会東北支部例会，秋田，2008/7/11.**

- 1.木村 祐輔，池田 健一郎，岩谷 岳，肥田 圭介，高橋 正統，大塚 幸喜，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛：当院における外来化学療法室の稼働状況，シンポジウム．  
2.星川 浩一，高橋 正浩，藤田 倫寛，板橋 英教，高原 武志，船渡 治，新田 浩幸，川村 英伸，若林 剛：Gemcitabine+TS-1 併用療法の治療成績，一般口演．

**第 76 回日本小児外科学会東北地方会，秋田，2008/9/27.**

- 1.有末 篤弘，福沢 太一，水野 大，若林 剛：異所性胃粘膜からの下血にて発症した管状型回腸重複症の 1 例，一般口演．

**第 37 回日本肝臓学会 東部会 ランチョンセミナー 6，東京，2008/12/4.**

- ＊若林 剛：胆道閉鎖症術後患者への菌陳蒿湯投与における進行性肝線維化抑制効果について，司会．

**第 122 回日本小児科学会岩手地方会，盛岡，2008/12/13.**

- 1.有末 篤弘，福澤 太一，水野 大，若林 剛：術前 Meckel 憩室と診断された消化管重複症の 1 例，一般口演．  
2.千葉 睦美，塚原 央之，佐々木 美香，千田 勝一，大塚 幸喜：大腸全摘術を施行した潰瘍性大腸炎の難治例，一般口演．  
3.浮津 真弓，松本 敦，和田 泰格，佐々木 智子，戸津 五月，葛西 健郎，千田 勝一，有末 篤弘，福澤 太一，水野 大，若林 剛，大津 修，川村 朋子， 刈向 透：Kasabach-Merritt 症候群に operative treatment が著効した新生児例，一般口演



4. 講演会

臼津医師会学術講演会，津久見市，2008/2/1.

- 1.佐々木 章：体に優しい内視鏡外科手術：present and future, 講演．

第 1 回 北東北がん治療カンファレンス 「がんプロフェッショナル養成プラン FD ワークショップ」，秋田市，2008/2/2.

- 1.池田 健一郎：がん治療認定医」に要求されるものと我々が目指すもの，講演．

厚生労働科学研究費研究成果等普及啓発事業・医療機器開発推進研究（ナノメディシン研究）・ナノメディシンシンポジウム「バイオチップ技術とバイオ情報学・通信技術との融合で拓くユビキタス未来診断医療」，東京市ヶ谷，2008/2/13.

- 1.西塚 哲：タンパクアレイによる発現ネットワーク解析，講演．

理化学研究所伊藤ナノ工学研究室，和光市，2008/2/22.

- 1.西塚 哲：逆相蛋白アレイを用いた蛋白定量解析の癌治療への応用，特別講義．

両磐地区乳がんセミナー，一関市，2008/3/8.

- 1.柏葉 匡寛：乳がんの初期治療の重要性について，講演．

第 8 回中国四国消化管内視鏡手術勉強会，広島，2008/3/21.

- 1.大塚幸喜：最近こだわっている 下部消化管に対する腹腔鏡下手術手技，講演

乳がん患者のメンタルケア，盛岡，2008/3/28.

- 1.柏葉 匡寛：一乳がん患者に合併するうつ病の治療を考えるー 「外科医にできること精神科医にお願いしたいこと」，講演．

Novartis Breast Cancer Symposium, 東京，2008/3/29.

- 1.柏葉 匡寛：アロマターゼ阻害剤による治療戦略 -Current and Future Perspective-, 講演．

第 2 回 Breast Cancer KAGAWA Seminar, 高松市，2008/4/4.

- 1.柏葉 匡寛：変わりゆく乳癌の標準治療 -San Antonio 最新知見より -, 講演．

4<sup>th</sup> Team Building Seminar:Essential for endoscopic surgery, 郡山，2008/4/19.

- 1.佐々木 章：内視鏡手術におけるチーム医療と教育，講演．

平成 20 年度大学院教育 FD 大学院における「がんプロフェッショナル養成プラン」の取り組み，盛岡，2008/4/24.

- 1.池田 健一郎：がん治療認定医制度について，講演．

36<sup>th</sup> Technical seminar for endoscopic surgery Lap-colon, 福島，2008/4/25.

- 1.大塚幸喜：右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術 ー授動／郭清／再建のポイントー，講演

オストミー協会岩手県支部総会，盛岡，2008/4/27.

- 1.大塚幸喜：大腸疾患に対する外科治療の現状 ーなぜ，ストーマ造設が必要かー，講演

岩手癌治療研究会 (ICOG) 学術講演会，盛岡，2008/5/9.

- 1.大塚 幸喜：ICOG についての報告，一般口演．  
＊若林 剛：特別講演「消化器癌における PSK の臨床試験とメタアナリシス」，座長．

宮古市民公開講座 ー体に優しい新しい手術ー，宮古，2008/5/11.

- 1.肥田圭介：体に優しい新しい手術 ー胃疾患ー，講演  
2.大塚幸喜：体に優しい新しい手術 ー大腸疾患ー，講演

第 1 回つくば乳がん薬物療法勉強会，つくば市，2008/5/16.

- 1.柏葉 匡寛：早期乳癌における T C 療法の意義，講演．

平成 20 年度第 1 回 客観試験問題作成講習会，盛岡，2008/5/27.

- 1.佐々木 章：客観試験問題作成の工夫と注意点，シンポジウム．

巖刀会総会・集談会，盛岡，2008/6/7.

- 1.石田 馨, 吉田 徹, 小原 眞, 松尾 鉄平, 遠藤 秀彦：胃悪性黒色腫の一例，一般口演．  
2.秋山 有史, 高金 明典, 早川 善郎, 入野田 崇, 加藤 久仁之, 日黒 英二, 小原 慎：脾臓にサルコイド結節を伴った進行胃癌の一例，一般口演．  
3.大山 健一，御供 真吾, 村上 雅彦：Y 脚吻合部膜様狭窄により急性輸入脚症候群を来した 1 例，一般口演．  
4.藤原 久貴, 板橋 英教, 鴻巣 正史, 細井 信之, 荒谷 宗充, 玉澤 佳之, 佐瀬 正博：腹腔鏡補助下にて切除し得た胃／直腸癌同時性重複癌の 1 例，一般口演．  
5.入野田 崇, 高金 明典, 早川 善郎, 日黒 英二, 小林 慎, 秋山 有史：迷走神経温存腹腔鏡補助下幽門胃切除の術後 QOL の評価，一般口演．  
6.西塚 哲：消化器外科における胃癌研究，一般口演．  
7.肥田 圭介：「岩手県地域がん登録より見た岩手県の胃癌」「胃癌臨床統計の報告」，一般口演．

- ＊肥田 圭介：集談会・一般演題「胃癌」，座長．

- ＊若林 剛：集談会・特別後援，座長．

第 31 回 三陸小児科医会学術講演会，大船渡，2008/6/14.

- 1.水野 大：小児科医に知ってほしい外科疾患，講演

第 3 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡，2008/6/17.

- ＊若林 剛：特別講演，座長．

第 1 回岩手県肥満治療セミナー，盛岡，2008/6/23.

- 1.若林 剛：第 2 部 ディスカッション，ディスカッション．

東北化学薬品先端学術情報セミナー，盛岡，2008/6/25.

- 1.西塚 哲：バイオ・医療分野における先端プロテインアレイシステムの可能性について，講演．

第 27 回腹腔鏡下大腸切除術講習会，福島，2008/6/27.

- 1.大塚幸喜：S 状結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清 ーハーモニックを使用した手技ー，講演

日本静脈経腸栄養学会 2008 年度夏季コメディカル教育セミナー大阪，大阪，2008/6/28.

- 1.池田 健一郎：栄養障害の病理生態，講演．

市民公開講座 「大腸がんを知る」，盛岡，2008/6/29.

- 1.大塚 幸喜：小さい傷で体に優しい大腸がん手術，講演．  
2.池田 健一郎：ここまで進んだ大腸がんの抗がん剤治療，講演．  
＊若林 剛：第 2 部 講演 1,2,3, 座長．

Advanced Laparoscopic Workshop In Digestive Surgery, 盛岡，2008/7/3.

- 1.Wakabayashi G：Laparoscopic liver surgery, 特別講演．

第 7 回国際バイオエキスポ，東京汐留，2008/7/4.

- 1.西塚 哲：セルライセートアレイの現状と展望，講演．

第 50 回京都肝疾患懇話会，京都，2008/7/5.

- 1.若林 剛：特別講演 1 腹腔鏡（補助）下肝切除の現状と将来，特別講演．

AstraZeneca Breast Cancer Education Workshop, 京都市，2008/7/5.

- 1.柏葉 匡寛：乳癌治療に関する最新の医学的知見の普及，ワークショップ．

山形乳がん井戸端会議，山形市，2008/7/11.

- 1.柏葉 匡寛：乳がん術後化学療法におけるハーセプチンのポジショニング，講演．

青森市耳鼻咽喉科医会学術講演会，青森，2008/7/15.

- 1.小笠原 聡：甲状腺腫瘍の診断と治療ー最新の知見をまじえてー，特別講演．

第 5 回釜石医師会学術講演会，釜石，2008/7/23.

- 1.若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の確立にむけて，特別講演．

慶応義塾大学大学院医学研究科，東京，2008/7/23.

- 1.西塚 哲：ライセートアレイによる細胞シグナル理論モデルの実験的検証，特別講義．

第 387 回八戸外科集談会，八戸，2008/7/24.

- 1.大塚幸喜：腹腔鏡下大腸癌手術の現況 ー今，注目されていることー，講演

岩手緩和フォーラムーデュロテップ MT パッチ発売記念講演会，盛岡，2008/7/25.

- ＊若林 剛：特別講演「緩和ケアとエッセンシャルドラッグ」，座長．

東北乳がん化学療法セミナー，仙台市，2008/7/25.

- 1.柏葉 匡寛：乳がんの外来化学療法について，パネルディスカッション．

2008 がんウィーク in 岩手 文部科学省 {がんプロフェッショナル養成プラン} 採択プログラム 北東北 4 大学がんプロフェッショナル養成プラン

ーがんと闘う がん制圧運動習慣 in 岩手ー，盛岡，2008/7/28.

- 1.大塚 幸喜：大腸がんの最先端治療，講演．  
＊池田 健一郎：第 2 回 北東北がん治療カンファレンス（第一部）緩和治療、放射線治療に関する特別講演会，座長．  
＊若林 剛：市民公開シンポジウム からだに優しいがん治療，座長．

第 4 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡，2008/7/31.

- ＊若林 剛：特別講演，司会．



スーテント発売記念講演会，盛岡，2008/8/2.

- ＊若林 剛：特別講演「GIST 治療の新しい展開」，座長．

5<sup>th</sup> Technical seminar for endoscopic surgery ORS, 福島，2008/8/2.

- 1. 大塚幸喜：腹腔鏡下大腸切除について，講演．

岩手県ハーセブチン学術講演会，盛岡，2008/8/8.

- 1. 柏葉 匡寛：ハーセブチン長期投与により多彩な病変を有した長期生存の 1 例，講演．
- ＊若林 剛：特別講演，座長．

岩手乳がん治療セミナー，盛岡市，2008/9/13.

- ＊柏葉 匡寛：乳がん治療の最新知見とチーム医療，司会．

第 11 回高知内視鏡外科フォーラム，高知，2008/9/20.

- 1. 大塚幸喜：「安全な腹腔鏡下大腸手術をめざして」－我々のこだわり－，講演

2008 年秋季コ・メディカル教育セミナー，東京，2008/10/4～5.

- 1. 池田 健一郎：栄養障害の病態生理，講演．

肝臓内視鏡外科研究会 第 1 回ハンズオンセミナー，郡山，2008/10/11.

- 1. 新田 浩幸：腹腔鏡下肝切除術，講演．

患者様のＱＯＬ向上のために（株）スヴェンソン盛岡スタジオセミナー，盛岡市，2008/10/12.

- 1. 柏葉 匡寛：患者様のＱＯＬ向上のための工夫，講演．

第 5 回市民健康講座，遠野市，2008/10/19.

- 1. 柏葉 匡寛：乳がん検診の重要性と治療の進歩，講演．

日本オストミー協会東北ブロック交流会 in 網張，網張温泉，2008/10/19.

- 1. 大塚幸喜：大腸疾患に対する外科治療の現状 ーストーマの必要性－，講演

一関市医師会学術講演会，一関，2008/10/21.

- 1. 若林 剛：岩手医大で生体肝移植を始めて，特別講演．

第 1 回大腸癌治療ガイドライン講座－実践編－，盛岡，2008/10/24.

- 1. 大塚 幸喜：大腸癌治療ガイドライン，アドバイザー．

東京医科歯科大学腹腔鏡下手術講習会，福島，2008/10/25.

- 1. 大塚幸喜：大腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 ー右側結腸・直腸－，講演

東日本テクニカルセミナー ー Lap colon ー，福島，2008/11/2.

- 1. 大塚幸喜：腹腔鏡下直腸切除術の「手技」と「ピットフォール」，講演

平成 20 年年度岩手県医師会産業医研修会，盛岡，2008/11/8.

- 1. 大塚幸喜：「大腸癌外科治療の最前線」 ー腹腔鏡手術を中心にー

岩手大腸癌講演会，盛岡，2008/11/13.

- ＊若林 剛：特別講演，座長．

第 13 回乳癌治療セミナー，大阪市，2008/11/13.

- 1. 柏葉 匡寛：術前・術後補助化学療法におけるタキサンの使い分け，講演．

函館市外科会学術講演会，函館，2008/11/14.

- 1. 若林 剛：「大腸癌肝転移における治療戦略」～ FOLFOX 化学療法の位置付けと積極的肝切除について～，特別講演．

第 3 回がん化学療法セミナー「がん治療知識と症状マネージメントについて」，盛岡，2008/11/17.

- 1. 柏葉 匡寛：嘔気・嘔吐の管理，講演．

横手市学術講演会，横手，2008/11/18.

- 1. 若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除の現状と展望，特別講演．

自治医科大学大学院医学研究科 特別講義，東京，2008/11/19.

- 1. 若林 剛：腹腔鏡（補助）下肝切除－手技と意義，特別講演．

平成 20 年度小児科救急医師研修事業ブロック別久慈医師会研修会，久慈，2008/11/20.

- 1. 水野 大：小児外科医から見た小児科救急医療，特別講演

第 4 回ＢＣ－ＤＥＦ講演会，さいたま市，2008/11/29.

- 1. 柏葉 匡寛：ＴＣ療法を基盤とした乳がん個別化治療，講演．

1<sup>st</sup> Setouchi surgiacal Seminar, 福島，2008/12/13.

- 1. 大塚幸喜：右側結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清，講演

第 29 回大阪医科大学一般・消化器外科同門会 学術講演・総会，大阪，2008/12/14.

- 1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除－国際コンセンサス会議に参加して，特別講演．

第 4 回がん化学療法セミナー「がん治療知識と症状マネージメントについて」，盛岡，2008/12/15.

- 1. 柏葉 匡寛：神経毒性・その他の管理，講演．

5. その他

第 2 回乳がんチーム医療 TV 講演会，講演，盛岡市，2008/4/23.

- 1. 柏葉 匡寛：岩手県における乳がんチーム医療の現状について－何をどこまで－，TV 講演会

第 3 期第 1 回乳がん TV 講座，講演，盛岡市，2008/5/9.

- 1. 柏葉 匡寛：ハーセブチン治療「症例検討」，TV 講演会

がん診療施設情報ネットワーク TV 会議，講演，山形市，2008/10/14.

- 1. 西塚 哲：蛋白定量による癌細胞の薬剤反応機序の解析，TV 講演会

Nobartis Immuno-Net 講演会，特別講演，東京西麻布，2008/12/19.

- 1. 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除術，TV 講演会



### 編集後記

「教室年報」の編集を任されて3年が経ちました。それまでは、「同門会誌」という形で毎年発行しておりましたが、若林教授就任とともに外科学教室の activity を同門の先生方だけではなく、他大学・他施設の多くの先生方に紹介するという目的で、モノクロだった印刷からカラー印刷、そしてたくさんの写真を掲載した「教室年報」という形にリニューアルいたしました。

さらに関連施設の一年間の出来事を報告していただく、「関連病院便り」というコーナーを設けさせていただきましたが、毎年のごことでもあり、日常診療で大変お忙しい先生方には本当にご苦勞をおかけしております。しかし岩手を離れた同門の先生方には大変好評と聞いておりますので、是非とも継続して参りたいと思います。関連施設の先生方には、この場を借りて心より感謝申し上げるとともに今後ともよろしくお願いいたします。

今年（平成21年）は外科学教室にとって、とても残念なことがありました。私にとっては外科臨床から研究まで一からご指導して下さった恩師であり、プライベートではつらいこと、楽しいことを何でも話せる兄貴的な存在だった佐藤信博先生が2月6日にこの世を去られました。たくさんある教室員との思い出の写真から、私の一存でほんの一部ではありますが掲載させていただきました。心から弔意を捧げます。

「教室年報」になって今回で3回目の発行になりますが、まだまだ至らぬ点が多くありご迷惑をおかけしておりますが、今後ともご指導、ご協力お願いいたします。年々向上し、さらに良い年報を作って参りたいと思いますので、本誌に対するご意見やご感想をいただくと幸いです。今回は4月下旬頃の発行をめざし、昨年12月から構成を開始して参りましたが、結局この時期の発行となってしまうことをお許しください。

最後にご執筆いただきました先生方への深謝を申し上げますとともに、巖刀会の先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成21年5月

大塚 幸喜





---

#### 表紙説明

撮影：2009.4.19

樹齢約360年を越えると言われるエドヒガンは見事な大木で、巨大な花こう岩の割れ目から美しい花が咲き誇ります。開花時には多くの観光客で周りが賑わいます。  
国の天然記念物に指定されています。

---

**巖刀会**（がんとうかい：岩手山別称（巖鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）